

(六五一)

- 一 警察上賞與錄
- 一 警察區畫綴
- 一 各府縣警察區畫綴
- 一 巡查懲罰錄
- 一 申牒錄
- 一 決議錄
- 一 各署區畫及受持區畫書類
- 一 各署員名簿
- 一 統計書類綴
- 第二類
- 一 各府縣巡查懲罰錄
- 一 各府縣往復綴
- 一 各署員勤怠表
- 一 各署往復綴
- 一 各部課往復綴
- 一 各所往復綴
- 一 半期報綴
- 第三類
- 一 官報々告事件綴
- 一 戶口調查書類綴
- 一 巡回報告表
- 一 訓授表

(七五一)

- 一 巡查採用書類綴
- 一 巡查不採用書類綴
- 一 巡查轉署屆
- 一 各署員願稟綴
- 一 各署員屆綴
- 一 署員請書
- 一 各署屆綴
- 一 日報表綴
- 一 月報表綴
- 一 人民請書屆書綴
- 一 人民願稟綴
- 一 雜書綴
- 警察本部保安課
- 第一類
- 一 官報
- 一 勅令閣令省令
- 一 縣令綴
- 一 訓令綴
- 一 文號訓令綴
- 一 內訓々示綴
- 一 告示綴
- 一 縣令訓令告示類原案綴

- 一 各署訓示
- 一 各署指令錄
- 一 各郡町村役所何指令綴
- 一 申牒錄
- 一 決議錄
- 一 機密書類綴
- 一 各府縣火藥賣買免許人通知
- 一 人民願稟
- 一 銃砲臺帳
- 一 諸營業鑑札臺帳
- 一 曆造變造貨紙幣ニ關スル書類
- 一 消防組規則關係書類
- 一 街路取締關係書類
- 一 第二類
- 一 各署往復綴
- 一 各府縣往復綴
- 一 演說新聞紙關係書類
- 一 雜誌出版關係書類
- 一 難破船屆漂流物公告扣
- 一 銃砲賣買書類
- 一 各課往復
- 一 檢視書
- 一 各郡町村役所往復

- 一 火藥類賣買高屆
- 一 銃砲賣買高屆
- 一 賭博犯密賣犯一件書類
- 一 違警罪即決事件表
- 一 第三類
- 一 報告類綴
- 一 裁判所往復
- 一 強盜犯報告
- 一 貸坐敷藝娼妓營業願綴
- 一 全上廢業屆
- 一 藝妓營業願
- 一 全上廢業屆
- 一 警察本部生計課
- 一 第一類
- 一 諸官省申牒錄
- 一 回議錄
- 一 本局達
- 一 各局往復留
- 一 管内諸達書類
- 一 金錢交付錄
- 一 巡查積金人名明細簿
- 一 諸願稟指令留

但後年參考トナルヘキ分

- 一各署往復
- 一警部長以下交代引繼書類
- 一常置委員諮問濟書類
- 一警察費勘定帳
- 一諸官省指令留
- 一憑書扣綴並番號錄
- 一金錢交付錄
- 一現金受拂簿
- 一補助簿
- 一經費金原簿
- 一雜種金原簿
- 一警察官費受拂簿
- 一警察費內譯各署小科目實費比較表
- 一金錢受拂簿
- 一假出明細簿
- 一警部長以下月俸仕出簿
- 一巡查月給仕出簿
- 一雇月俸仕出簿

但全上

但明細表トモ

但調査掛擔當大出納ニ關スル分

第二類

- 一申牒諸達各所往復番號錄
- 一書翰交付錄
- 一他府縣往復綴

- 一密賣淫苦使者收支書
- 一官吏拾得金並物品公買上納證綴
- 一納額告知書資料綴込
- 一巡查積金各署送納明細書綴
- 一巡查積金領收證書綴
- 一賭博過料没入並公賣代收書
- 一違警犯科料金明細書綴
- 一各署新築修繕指令留
- 一各課往復
- 一賣淫罰金上納明細書綴
- 一各署經費金檢査ノ形狀復命書
- 一警部服具料上納證書
- 一巡查給與品及諸紙送付錄
- 一月給渡帳
- 一郵便爲換券爲替方ノ假渡帳
- 一經費金支出領收證書綴
- 一電信郵便切手原簿

第三類

- 一警察費並廳舍建築修繕費豫算ニ對スル計算表
- 一警察署分署經費豫算調書
- 一各署經費金領收證書綴
- 一管内各所往復綴

但警部給與費トモ

(二六一)

- 一 備品新調指令留
- 一 不用品公買書類
- 一 警部旅費請求書
- 一 經費金請求書綴
- 一 巡查懲罰金通知書及收入明細書綴
- 一 消耗品原簿
- 一 備付品消耗品巡查給與品諸紙購入回議錄
- 一 巡查欠勤屆綴込
- 一 巡查諸出張當直調查表
- 一 諸紙活版摺立回議及野紙摺立回議錄
- 一 警察費每月實費計算表
- 一 諸願稟指令留
- 一 警部宿直辨當料明細簿
- 一 各經費金殘餘上納證綴
- 一 巡查給與品原簿
- 一 全土補助簿
- 一 諸紙原簿
- 一 全土補助簿
- 警察部巡查教習所
- 第一類
- 一 縣令綴
- 一 訓令綴

(三六一)

- 一 受業生學術性行取調書
- 一 警察本部長命令書
- 一 日誌
- 一 回議錄
- 第二類
- 一 各署往復綴
- 一 上申具申綴
- 一 各府縣往復綴
- 一 親展及通常番號錄
- 第三類
- 一 受業生諸願稟
- 一 各課及病院往復綴
- 一 巡查志願書綴
- 警察署及分署
- 第一類
- 一 日誌
- 一 勅令綴
- 一 閣令綴
- 一 省令並二告示綴
- 一 縣令綴
- 一 訓令綴
- 一 告示綴

- 一 機密訓示綴
- 一 訓示綴
- 一 機密上申及報告綴
- 一 諸申稟書類綴
- 一 署員履歷書綴
- 一 署員名簿
- 一 巡查休暇臺帳
- 一 辭令錄
- 一 重輕罪前科索引簿
- 一 外勤日誌
- 一 諸表綴
- 一 裁判所ニ關スル諸表綴
- 一 違警罪既決犯罪表綴
- 一 埋火葬認可證檢閱臺帳
- 一 諸遊藝鑑札臺帳
- 一 質屋、古物商鑑札臺帳
- 一 屑買鑑襪湯屋鑑札臺帳
- 一 屠獸並ニ販賣營業鑑札臺帳
- 一 人力車、馬車營業免許商臺帳
- 一 人力車、馬車體檢査臺帳
- 一 人力車轆子馬車御者鑑札臺帳
- 一 宿屋營業鑑札臺帳

- 一 得遺失物、埋藏物、漂流物、
物主不明ノ贓物沒收品臺帳
- 一 被監視人臺帳
- 一 刑事臺帳
- 一 賭博犯並密賣淫臺帳
- 一 違警罪臺帳
- 一 管理者名簿
- 一 墓地及火葬場ノ地名反別取調書並ニ墓籍臺帳
- 一 藝娼妓貸坐敷料理屋名簿
- 一 政黨政談ニ關スル書類綴
- 一 機密往復綴
- 一 賈貨幣書類綴
- 一 第一類
- 一 他府縣往復綴
- 一 管内諸官衙往復綴
- 一 署長達綴
- 一 巡查注意錄
- 一 消防ニ關スル書類綴
- 一 遺失物ニ關スル書類綴
- 一 得遺失物ニ關スル書類綴
- 一 檢視書綴
- 一 違警罪一件書綴
- 一 犯罪人送付書綴
- 一 賭博犯及密賣淫書類綴

- 一 監視書類綴
- 一 犯人所持品領置簿
- 一 盜難紛失屆書綴
- 一 令狀綴
- 一 戶口調査表綴
- 一 方面會議錄
- 第三類
- 一 署員諸願伺屆綴
- 一 署員進退書綴
- 一 署員勤怠表
- 一 巡查注意上申及報告綴
- 一 執行務命令錄
- 一 非政談演說書類綴
- 一 秘密番號錄
- 一 警察上賞與ニ關スル書類綴
- 一 人民諸願伺綴
- 一 人民諸屆綴
- 一 棄却書類綴
- 一 犯罪ニ關スル報告書綴
- 一 品觸綴
- 一 日表扣綴
- 一 刑事擔當表綴

一 郵便發數表
一 囚人賄簿

第十條 第一類書目ノ内ト雖モ永久保存ヲ必要ナラスト認ムル書類ハ課所署長ニ於テ取調其目錄ヲ作リ第六條ノ例ニ依リ廢棄ニ付スルコトヲ得
但第二類以下保存滿期文書ノ内處務ニ關シ後來ノ徵考例證ニ備フヘキモノト認ムルモノハ永久保存スヘシ

第十一條 第九條ニ掲クル書名ニ適當セサル簿書ト雖モ其實同種類ナルモノハ同條各類ニ比較シテ處分スヘシ

第十二條 本部各課所ニ於テハ主任者ニ於テ回議書ニ保存期限類別第一類第二類第三類ニ付スヘシ且保存期限ヲ伸縮セントスルトキ又同シ

第十三條 此規則ハ發布以前ノ簿書ニモ之ヲ適用ス

簿書名

| 索引番號 | 事件 | 適要 | 廳名 |
|------|----|----|----|
| | | | |

備考 索引番號ハ文書ノ紙片ニ朱字ニテ同番號ヲ標記シ引用ニ便ナラシム

乙號

何年度簿書索引臺帳

| | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---------|
| 番書 | 籍 | 簿 | 書 | 名 | 部 | 數 | 廢棄事由年月日 |
| 號 | 箱 | 號 | 名 | 部 | 數 | | |

備考 第一類ニ係ル簿書索引臺帳ハ一冊ヲ調製シ年々逐次登記スヘシ
 第二類以下ハ毎年臺帳ヲ製スヘシ

第五款 警察日誌

○警第六九號 二十三年三月七日

警察日誌規程別冊之通相定明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
 但之ニ抵觸スル從前ノ訓示ハ總テ本文施行ノ前日限廢止ス
 警察日誌規程

第一章 日誌ノ種類

第一條 警察日誌ヲ別テ三種トナス

一 本部日誌

二 警察署分署日誌

三 駐在所日誌

第二章 日誌ノ調製保藏

第二條 本部課所ハ各々日誌一冊ヲ調製保藏ス

警察署分署ハ各々日誌一冊ヲ調製保藏ス

駐在所ハ各々日誌一冊ヲ調製保藏ス

第三條 警察日誌ハ毎年調製ス

第三章 日誌ノ様式

第四條 本部日誌、警察署分署日誌ハ同一様式ニシテ即チ左ノ如シ

本部日誌警察署分署日誌様式

○用紙大判紙ニシテ一面三野

| | | | | | | | | |
|------|---|---|------|---|---|------|---|---|
| 起 | 番 | 號 | 起 | 番 | 號 | 起 | 番 | 號 |
| 收 | 番 | 號 | 收 | 番 | 號 | 收 | 番 | 號 |
| 記 | 錄 | 番 | 記 | 錄 | 番 | 記 | 錄 | 番 |
| 事件要領 | | | 事件要領 | | | 事件要領 | | |
| 理 | | | 理 | | | 理 | | |
| 附事 | | | 附事 | | | 附事 | | |
| 編綴 | | | 編綴 | | | 編綴 | | |
| 簿書 | | | 簿書 | | | 簿書 | | |
| 領名 | | | 領名 | | | 領名 | | |
| 發 | 月 | 及 | 發 | 月 | 及 | 發 | 月 | 及 |
| 送 | 日 | 領 | 送 | 日 | 領 | 送 | 日 | 領 |
| 發 | 送 | 番 | 發 | 送 | 番 | 發 | 送 | 番 |
| 發 | 送 | 番 | 發 | 送 | 番 | 發 | 送 | 番 |

左ノ如シ

第一、月日

月日ハ當日ノ月日ニシテ様式第五欄即チ理事要領ノ欄ニ記ス

第二、番號

一、番號ヲ別テ事件番號、記録番號及發送番號ノ三種トス

二、事件番號ヲ更ニ別テ起番號、收番號ノ二種トス

(解)起番號ハ内部ヨリ起議スル事件ノ番號ニシテ外部件發スル者ト内部ニ止ムル者トヲ問ハス、收番號ハ外部ヨリ内部ニ收受シタル事件一編號ナリ

(注意)起番號、收番號ハ必ス當該文書ニモマタ之ヲ記シ日誌トノ對照ニ便ス其番號ハ特ニ事故アル者ノ外文書ノ左邊下端ニ記スヲ常例トス

三、記録番號ハ外部ヨリ内部ニ收受シタル文書ニ附シタル番號ニシテ之ヲ其文書ヲ發シタル廳ノ名又ハ人ノ住所氏名ト併記シ番號ナキトキハ廳名又ハ住所氏名ノミヲ記ス例ヘハ

福岡縣丙第何號

下毛第何號

熊本縣熊本署

宇佐郡橫山村人民總代何某外何人

ト記スノ類、但住所氏名長クシテ欄内ニ記入スルコト能ハサルトキハ事件要領ノ欄ニ記入ス

(注意)但書ノ變例ハ區々ノ原タルヲ以テ務テ之ヲ避ケサルヘカラス

四、發送番號ハ内部ヨリ外部ニ發スル文書ニ附スヘキ番號ニシテ之ヲ課、所、署ニ依リ區別スルコト左ノ如シ

警第何號

警務課

保安課

主計課

巡查教習所

大分第何號

大分郡警察署

鶴崎第何號

鶴崎分署

速見第何號

速見郡警察署

別府第何號

別府分署

日出第何號

日出分署

東國東第何號

東國東郡警察署

西國東第何號

西國東郡警察署

下毛第何號

下毛郡警察署

宇佐第何號

宇佐郡警察署

長洲第何號

長洲分署

北海部第何號

北海部郡警察署

佐賀關第何號

佐賀關分署

南海部第何號

南海部郡警察署

直入第何號

直入郡警察署

久住第何號

久住分署

- 保安課
- 主計課
- 巡查教習所
- 大分第何號
- 大分郡警察署
- 鶴崎第何號
- 鶴崎分署
- 速見第何號
- 速見郡警察署
- 別府第何號
- 別府分署
- 日出第何號
- 日出分署
- 東國東第何號
- 東國東郡警察署
- 西國東第何號
- 西國東郡警察署
- 下毛第何號
- 下毛郡警察署
- 宇佐第何號
- 宇佐郡警察署
- 長洲第何號
- 長洲分署
- 北海部第何號
- 北海部郡警察署
- 佐賀關第何號
- 佐賀關分署
- 南海部第何號
- 南海部郡警察署
- 直入第何號
- 直入郡警察署
- 久住第何號
- 久住分署
- 大野第何號
- 大野郡警察署
- 犬飼第何號
- 犬飼分署
- 日田第何號
- 日田郡警察署
- 玖珠第何號
- 玖珠郡警察署

(注意)

- 一、發送番號ハ順序整然タルコトヲ得ヌ數日又ハ數月時ニ或ハ一年又ハ數年ノ前ニ遡ルヲ寧ロ常例トス因テ發送番號ヲ附シタルトキハ必ス其都度番號末ト記シタル付箋ヲナスコトヲ忘ルベカラス
- 二、一事件ニシテ數々文書ヲ發スルコトアリ因テ發送番號ヲ附スルトキハ理事要領ノ欄ニ目ヲ配リ當該事項ヨリ一直ノ想像線ヲ畫キ其直下ニ記シ他ノ事項トノ紛雜ヲ避クヘシ
- 三、警察處務細則第十六條番號錄及明治廿一年本部訓示警第一七

第三、事件要領

事件要領ハ起收事件ノ要領ヲ摘記スル者ニシテ文簡意明ナルヲ務ム

(注意)事件要領ハ最初一度記スノミシテ再度以上記スコトナカルヘシ其一事件ニシテ二度以上往復スルニ因テ生スル文書ハ單ニ理事ノ結果タルニ過キスシテ新ニ起收スル事件ニアラサルカ故ニ之ヲ理事要領ノ欄ニ記スヘキナリ

第四、理事要領 付編綴簿書名

一、理事要領ハ前項起收事件ニ對スル處分ノ始終ヲ摘記スル者ニシテ文簡意明ナルヲ務ム

(附記)編綴簿書名ハ事件ノ處分終了ノ後其關係書類ヲ編綴シタル簿書ノ名ニシテ其文書ノ何レニ存在スル歟ヲ明瞭ナラシムルノ用意タリ

二、理事要領ハ必ス日誌ト文書トニ明記シ何レノ一方ヲ閱ルモ其如何ニ處理セラレタル歟ヲ見易カラシム

事件ニ依リ長キ處分按テ要シ其全文ヲ日誌ニ掲クヘカラサル者アリ如斯ハ單ニ其旨ヲ明記シ又ハ其要ヲ摘記スルニ止ム例ヘハ

別ニ立按可相伺候(本部例)

別ニ立按スヘシ(署例)

別按ヲ以テ異存ナキ旨回答可然歟(本部例)

別按ヲ以テ異存ナキ旨回答スヘシ(署例)

ト記スノ類

三、日誌ハ本條第一項ニ依リ第一ニ當日ノ月日ヲ記スト雖トモ多クノ事件必スシモ當日ニ處分終了スルヲ得ス因テ其日ヲ異ニシテ處理シ又ハ文書ヲ編綴スルトキハ其理事要領ノ末尾又ハ編綴簿書名ノ末尾ニ其年月日日ヲ異ニスルモノハ單ニ日ノミヲ記スヲ以テ足レトス然レモ月ヲ異ニスルモノハ必ス月日ヲ記シ年ヲ異ニスルモノハ年月日ヲ記スヘシ明記シ括弧ヲ施スヘシ例ヘハ

回覽(四日)

回覽ノ後文書課ヘ回付可然歟(五月五日)

本部ヘ進達スヘシ(三日)

受持巡查ニ訓示スヘシ(廿四年四月十五日)

ト記スノ類日誌ニ記シタル年月日ハ文書ニモ亦記スヘシ

四、事件受理ノ當日處分按テ起スコト能ハサルトキハ先ツ其收番號ヲ記錄番號及事件要領ノミヲ記シ單ニ事件受理ノ證トナス

五、本部ニ在テハ巡查注意年表、署ニ在テハ巡查注意月表ノ如キ各署又ハ各駐在所ヨリ一樣ニ報告シ來ルヘキ定例アルモノ及増給受書ノ如キ同時ニ起リ同時ニ多數同一ノ文書ヲ取纏ムヘキ種類ハ第一番ニ到達シタル者ノミヲ記シ他ハ總テ同一ノ收番號ヲ其文書ニ記スノミニ止メ悉皆受理シ終リ合表調理ノ後本欄即チ理事要領ノ欄ニ理事ノ要領ヲ記ス

(附記)本部ニ於テハ事務成績簿ヲ施行シ各署ヨリ差出ス書類ノ着否ヲ明瞭ナラシムルカ故ニ本項ノ便法ヲ行フノ便宜ヲ得、各署ニ於テモ各駐在所事務成績簿ヲ施行シテ可ナリ

(注意) 一、理事要領ノ文書ハ常ニ一定スルヲ得ヘキ者アリ例ヘハ

回覽

付箋下付可然歟(本部)

開届可然歟(本部)

付箋下付スヘシ(署)

開届ヘシ(上全)

實地ヲ検査スヘシ(上全)

ノ類、凡ソ此等ハ豫テ木版ニ彫刻シ置クヲ便利トス

編綴簿書名亦同シ

二、理事要領ハ事件ニ依リ豫期スヘカラサル事故ヲ生スルコトアリ故ニ假令後日更ニ記入ヲ要スル事故ヲ生スルコトナカルヘシト思料スル事件ト雖トモ必ス最初ヨリ欄ノ中央ニ記スコトヲ避ケ務テ右邊ニ寄セテ記スヘシ

三、理事要領ノ首頭ニハ部長又ハ課所長又ハ署長ノ認印ヲ要スル者ナルカ故ニ理事要領ヲ記スニハ必ス捺印ニ適宜ノ餘地ヲ存スヘシ

四、文書ハ事件結了ノ後編綴スルヲ正則トス故ニ編綴簿書名ヲ記スハ必ス事件結了ノ後ナラサルヘカラス例ヘハ賞與ニ關スル書類ニシテ未タ其受書ヲ徵收セサル前既ニ之ヲ編綴シ其編綴簿書名ヲ記スカ如キハ正シキ順序ニアラス但豫期スヘカラサル者ハ本項ノ例外トス然レトモ其付屬スヘキ文書ハ務テ之ヲ一括編綴スヘシ

五、事件結了ノ後ハ理事要領ノ欄左邊上端ニ濟字ヲ記スヘシ

第五、發送月日
發送月日ハ文書ヲ發送シタル月日ナリ

(注意)

- 一、一事件ニシテ數々文書ヲ發スルコトアリ因テ其月日ヲ記スニハ必ス上欄理事要領ノ欄ニ目ヲ配リ當該事項ノ直下ニ記スコト猶發送番號ヲ記スカ如クナルヘシ(第六條第二項注意)
- 二、月日トアルモ必スシモ嚴格ニ月及日ヲ記スニ及ハス其當日發送スル者ハ即日ト記シ月ヲ同フスル者ハ日ノミヲ記スヲ以テ足レリトス然レモ月ヲ異ニスル者ハ必ス何月何日ト記シ年ヲ異ニスル者ハ何年何月何日ト記スヘシ
- 三、月日ノ下ニハ領收印ヲ要スル者ナルカ故ニ其月日ヲ記スニハ務テ欄内ノ上部ニ縮書シ月日ノ文字ト領收印ト別行ナルヲ拒クヘシ但月日ヲ黑字ニテ記ストキハ其文字ニ捺印スルノ便アルカ故ニ必スシモ欄内ノ上部ニ縮書スルヲ要セス
- 四、領收印ハ文書ヲ受ケタル者ノ認印ナリ因テ文書ヲ郵便ニ付托スルカ如キ日誌ヲ添テ直接ニ送致スルコト能ハサル場合ハ受附員ノ認印ヲ要スル歟(本部)又ハ單ニ月日ヲ記ス歟(署)ニ止ルヘシ但警察署分署ニ於テモ其文書ヲ發送シタル者ニ於テ認印スルハ最可シ

第五章 日誌ノ認印例

第七條 部長、署長ハ理事要領ノ欄ニ記シタル各事項ノ首頭ニ認印シテ決判又ハ命令ヲ證シ課所長ハ其中部ニ、主任ハ其末尾ニ認印ス例ヘハ

調査スル處不都合無之ニ付聽許可然歟(主任)

異存ナキ旨回答可然歟(五日)(主任)

異存ナキ旨回答スヘシ(廿四年五月十五日)(主任)

課所長委任ノ條件ニ付テハ課所長ノ認印例、部長ニ同シ例ヘハ

報告方照會可然歟(主任)

(八七一)

他ヨリ合議ヲ受ケタル課所長又ハ課僚、教官ハ文書ニ認印スルノミニテ日誌ニ捺印セス〔故ニ合議ハ文書ノミナリ〕送スレハ足レリ〕

第六章 日誌ノ記事雜形

第八條 第四章日誌ノ記載事項及記載例、第五章日誌ノ認印例ノ大要ヲ更ニ雜形ニ書示スコト左ノ如シ

日誌ノ記事雜形

| 起 | 番 | 號 |
|--------|---|---|
| 收 | 番 | 號 |
| 記 | 錄 | 番 |
| 事件要領 | | |
| 理事要領 | | |
| 附編綴簿書名 | | |
| 發 | 月 | 及 |
| 送 | 日 | 領 |
| 發 | 送 | 番 |
| 發 | 送 | 號 |

四月一日(本部例課)

(九七一)

| 一 | 一 | 一 |
|---------------|----------------------------------|---------------|
| 東國 第八 號 | 水谷消次郎外 三名火災消防 盡力ニ付賞與 具申 | 水害ノ狀況取 調ノ件 |
| 即日(書) | 即日(印) | 即日○ |
| 即日○ | 即日○ | 即日○ |
| 九 | 五 | 一 |

〔調〕付箋下付可然歟(主任)

〔調〕再出(五日)別ニ立按(可)相伺候(五日)(主任)

〔調〕各本人賞與受書(十日)回覽ノ後會計課(全日)(主任)

警察上賞與錄

○……課長又ハ所長

〔調〕別按ヲ以テ四月十日マテ報告スヘキ旨

〔調〕下毛日田玖珠二署へ訓示可然歟(主任)

〔調〕報告方下毛郡署へ督促可然歟(十日)(主任)

〔調〕別按内務大臣へ報告可然歟(十五日)

報告書綴

四月二日(前全)

| | | |
|---|--|-------------|
| | | |
| | 二 | |
| | 北海部 水村加 藤キヨ | 藝妓願 |
| | 調查スル處不都合無之ニ付聞届可然歟 <small>(主任)</small> | 即日〇 |
| | 藝妓願書綴 | |
| 三 | 豊田 警部 | 病氣引籠届 |
| | 回覽ノ後文書課へ回付可然歟 <small>(主任)</small> | 三日〇 |
| | 各署指令綴 | |
| 四 | 南海 第五 八號 | 警察法規買入 伺 |
| | 調査スル處不都合無之ニ付聞届可然歟 <small>(主任)</small> | 即日〇 |
| | 各署指令綴 | |
| | | 一五八九 |

| | | |
|---|--|---------------------------------|
| | | 二 |
| 一 | 中津町 五番地 島田一 郎 | 違警罪目改正 ノ件 |
| | 道路使用願 | 別ニ立按可相伺候 <small>(主任)</small> |
| | 四月一日 <small>(警察署分署ノ例)</small> | 課長又ハ所長 |
| | 實地ヲ検査スヘシ 許可スヘシ <small>(主任)</small> | 人民諸願綴 |
| | 即日〇 | |
| | | 一 |

第三 戸口調査

- 一、出發スルトキ其時間及方向ヲ記ス
- 二、歸所シタルトキ其時間及調査シタル家屋ノ番號何番地ヨリ番地マテ戸數ヲ記ス

(注意)

- 一、出發スルトキハ其方向ヲ記スニハ務テ何人モ知リ得易ク記スヘシ故ニ大字又ハ字又ハ世ニ顯ハレタル者ノ氏名又ハ番地等ヲ明記スルハ最宜シ
- 二、歸所シタルトキ其調査シタル人口及其種別甲、乙、ト記ス亦可ナリ

第四 諸出張

- 一、職務執行上臨時出張ヲ要スルトキ其事故ヲ記ス
- 二、出發スルトキ其時間、出張スヘキ場所、出張ヲ要スル事故ヲ記ス
- 三、歸所シタルトキ其時間、事故ノ始末略ヲ記ス

(注意)臨時出張ハ事故ニ因リ秒時ヲ移スヘカラサル者アリ如斯場合ニハ他人ノ家族ヲシテ記

サシメ又ハ單ニ村長、家人等ニ告ケ置クモ可ナリ又或ハ假字ニテ記スモ妨ケス(此注意ハ最

スルトキニ限ルカ故ニ之例ヘハ
ヲ常例ト誤解スヘカラス)

第五 保護雜事

保護雜事表ニ掲ケタル事項ニ付保護シタル事故アルトキ其時間、場所、人名或ハ其年齡住所職業等保護ノ始末ヲ簡明ニ記ス

第六 注意雜記

前項保護雜事表ノ事項以外ノ事項(重ニ注意月表ニ掲ケタル事項)ニ付注意シタル事故アルトキ其事故ヲ簡明ニ記スコト前項ニ同シ

第七 備考

以上ノ各事項ヲ記載スヘキ欄狹隘ニシテ事故ノ始末ヲ書盡キス可ハサル者アリ如斯ハ備考ニ記シテ各欄記事ノ不備ヲ補フ

第八 注意日表

注意月表ノ材料タリ

(解)保護雜事表ハ第五項保護雜事欄ニ記シタル事故ヲ計算スルノミニテ調製スルコトヲ得ヘク其事單純ニシテ易ケレバ注意月表ハ第五項保護雜事欄ニ掲ケタル事故ト第六項注意雜記欄ニ掲ケタル事故ノ幾分トヲ計算スルニアラサレハ調製スヘカラス其事複雑ニシテ難シ是レ注意日表ノ欄ヲ設ケタル所以ナリ故ニ之カ日計ヲ怠タラサルヘシ

第九 約束郵便數

第十 文書處理

一、文書處理ノ記載事項及記載例ハ概ネ本部警察署分署日誌ニ同シ宜シク第六條ノ各項ニ依ルヘシ(葉ニテ足ラサルトキハ)

二、發送番號ハ駐在所日誌ノ用フ例ヘハ
西大分町大字勢家第何號

深林村第何號

(注意)發送番號ニ駐在所日誌ノ冠スルハ文書ノミニシテ日誌ニハ單ニ數字ノミヲ記ス

第八章 駐在所日誌ノ記事雜形

第十條 第七章駐在所日誌ノ記載事項及記載例ノ大要ヲ更ニ雜形ニ書キ示スコト左ノ如シ

駐在所日誌ノ記事雛形

| | |
|----|---|
| 月日 | 四月一日 |
| 所在 | 午前八時甲線路第一號ヨリ第五號マテ巡回トシテ午後九時甲線路第一號ヨリ第五號マテ巡回トシテ歸所 |
| 地巡 | 夜 |
| 受持 | 晝 |
| 區巡 | 夜 |
| 戸口 | 午前八時大字何々(又ハ字何々)又ハ番地若クハ氏名ノ世ニ顯ハレタル者ヲ記スハ最可シ)ヨリ調査トシテ出發○何番地ヨリ何番地マテ何戸ヲ調査シ午後五時歸所 |
| 調査 | 午後六時何々ニ興行スル演劇取締トシテ午後六時何々ニ興行スル演劇取締トシテ閉場全時五十五分歸所 |
| 諸出 | 午後九時第一號ヨリ第九號マテ巡回トシテ午後十時第五號ニ至ルトキ盜難事故起リ第六、七、八、九號ヲ署シ午後十一時五十分歸所 |
| 張 | 夜 |

| | |
|----|--|
| 注意 | 街路諸營業飲料埋火葬戸締危險ノ其他取締取締水斃牛馬油斷場所諸般 |
| 考 | (本欄ハ以上各欄ニ記載シ難キ事故ヲ記載スヘシ) |
| 備 | (本欄ハ保護雜事ノ欄ニ記載スヘキ事項以外ノ事項(重ニ注意月表ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ) |
| 雜 | 所在地乙線路巡回中午前十一時字何々何番地某ハ往來ニ沿フタル場所ニ肥溜ヲ設ケテ防園ヲ設ケス危險ナリト認メタルヲ以テ注意ヲ加フ |
| 意 | (本欄ハ保護雜事表ニ掲ケタル事項ニ限リ記載スヘシ) |
| 注 | 受持區夜間巡回中午後九時大字(又ハ字)何地何橋上ニ於テ大字何々何番地某長女(十八年)父ノ訓戒ニ耻チ自ラ溺レントスル(又ハ投身セントスル)ヲ見認メ説諭ヲ加ヘ父ニ引渡シタリ |
| 事 | |
| 雜 | |
| 護 | |
| 保 | |

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|----------------------|
| 約東郵便數 | 種 第一 第二 第三 第四 合計 | 個 類 類 類 類 類 | 量 目 |
| 文書 | 起番號 收番號 記號 番號 第一 第八 | 事件要領 理事要領 附編綴簿書名 | 發送月日 發送番號 及領收印 |
| 處 | 一 | 墓地取締ノ件 | 即日 |
| 理 | 二 | 所屬署ヘ出頭スヘキ旨訓示 | 即日 即日 即日 |
| 第一 | 下 | 至急ヲ要セシニ付所屬署長ニ伺出テタリ何々スヘキ旨指令アリタリ(四日)前項指令ノ通執行シタリ(五日) | 編綴簿書名 |
| 五 | 下 | 即日發送シタリ(又ハ何日發送シタリ)又ハ何月何日發送シタリ(訂正スヘキ旨訓示(三日)即日發送シタリ) | 編綴簿書名 |
| 號 | 一 | 即日發送シタリ | 編綴簿書名 |

○警第四百十三號 廿七年三月廿九日
明治廿三年三月七日警第六九號日誌規定中來ル四月一日ヨリ發送番號ヲ廢シ發送毎ニ起收番號
ヲ使用スヘシ

第六款 前科索引

○訓令文第二十九號

二十三年七月十四日

警察本部、警察署、分署

犯罪人前科索引編成手續左ノ通相定メ來ル八月一日ヨリ施行ス

前科索引編成手續

第一條 前科索引ハ左記各種ノ犯罪人名簿ヲ紙葉ニ記入シ「イロハ」別ケニ列序シ函中ニ藏スルモ
ノトス

- 一 刑法中ノ重罪輕罪ヲ犯シタルモノ
- 二 藥品營業並藥品取扱規則ヲ犯シタルモノ
- 三 富籤賣買牙保補助及購買シタルモノ
- 四 古物商取締條例ヲ犯シタルモノ
- 五 質屋取締條例ヲ犯シタルモノ
- 六 出版條例ヲ犯シタルモノ
- 七 集會條例ヲ犯シタルモノ
- 八 新聞紙條例ヲ犯シタルモノ
- 九 藥用阿片賣買並製造規則ヲ犯シタルモノ
- 十 危害品船積法則ヲ犯シタルモノ
- 十一 火藥取締規則ヲ犯シタルモノ
- 十二 爆發物取締規則ヲ犯シタルモノ
- 十三 保安條例ヲ犯シタルモノ
- 十四 府縣會議員撰舉規則ヲ犯シタルモノ
- 十五 決闘罪ヲ犯シタルモノ
- 十六 議會並議員保護法律ヲ犯シタルモノ
- 十七 市町村會議員撰舉規則ヲ犯シタルモノ
- 十八 衆議院議員撰舉法罰則補則ヲ犯シタル者
- 十九 前各項ノ外施体ノ刑ニ係ル輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルモノ
- 第二條 索引ハ警察本部保安課ニ於テ取扱フモノトス
- 第三條 前科ノ問合セテ爲スルハ左ノ問答書式ニ依ルヘシ若シ索引ニ氏名ナキモノハ「無」ノ朱印

ヲ押捺シ索引補助簿ニ其要領ヲ記載シ置キ回報ノ手續ヲ爲スモノトス又本貫生地若クハ氏名等
ヲ異ニシタルモノト雖年齡徵痕其他類似ノモノヲ認メタルハ其要旨ヲ備考ノ欄内ニ摘記シ
「類似」ノ印ト「當否」ノ報知ヲ要ス」トノ印ヲ押捺シテ回報スルモノトス

保安課ニ於テ當否ノ報知ヲ受ケタルハ補助簿ヘ其當否ノ摸樣ヲ記載スヘシ

第四條 警察署又ハ分署ニ於テ索引ニ編入スヘキ刑ニ該當スル被告人ヲ訊問シ其前科ヲ知ラント
スルハ問答紙ノ問ノ部ニ記入ヲ爲シ保安課ヘ送付スヘシ其保安課ヨリノ回答書ハ一件書類ト
共ニ(便宜ノ符號ヲ送付スヘシ)檢事ニ送致スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テハ第一報告書ノ表面ニ相當記入ヲナシ被告人ヲ拘留スル監獄ニ送付ス
ヘシ

罰金ノ主刑及欠席裁判ノ言渡ヲ受ケタルモノ又ハ逮捕ノ令狀ヲ發セラレタルモノハ索引ハ各裁
判所檢事ノ通知ヲ受ケケ之ヲ調製スルモノトス

第六條 檢事又ハ監獄ヨリ第一報告書ヲ交付ヲ受ケ棄却免訴或ハ無罪ナルハ補助簿ニ記載シ又
有罪ナルハ索引紙ニ記入シ又ハ新ニ之ヲ調製シ報告書ニ「記載済」ノ印ヲ押捺シ其報告書ハ
最初發付シタル警察署又ハ分署ニ還付スヘシ

第七條 豫審判事又ハ檢事ニ於テ直ニ被告人ヲ引致シ第一報告書ナキ者ハ監獄ノ報告書ニ依リ前
條ノ例ニ準ヒ補助簿又ハ索引紙ニ記入シ又ハ新ニ之ヲ調製シ其報告書ハ保安課ニ留置クモノトス

第八條 警察署又ハ分署ニ於テ思料犯等ニテ引致シタル被告人訊問後非トナラサルヲ發見シテ
放還シタルハ第二報告ニ相當記入ヲナシ保安課ニ報告スヘシ保安課ニ於テ右報告ヲ受ケタルハ
補助簿ニ之ヲ記載「放」ノ印ヲ押捺シ其報告書ヘハ濟ノ印ヲ押捺シ元發ノ警察署又ハ分署ヘ還
付スルモノトス

ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

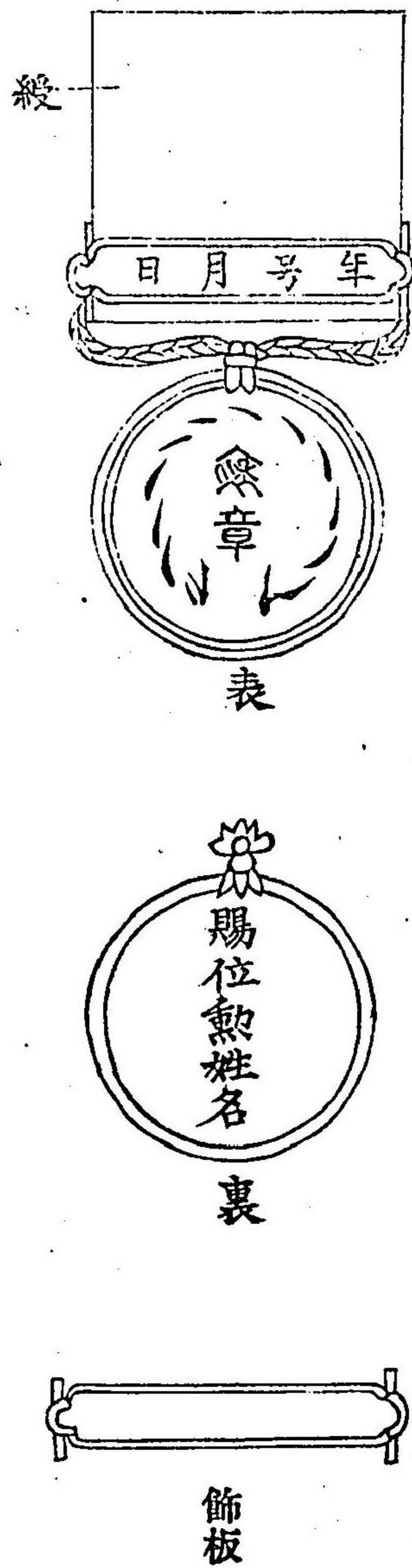
第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜リタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一簡ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス

褒章ノ圖

| | |
|------|-------------------|
| 章 | 銀櫻花紋圓形徑九分 |
| 鈕并飾版 | 銀 |
| 綬 | 幅一寸種類ニヨリ紅綠藍三色ノ別アリ |



佩用式

一 褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ但勳章及從軍褒章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

○朕黃綬褒章臨時制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第十六號 二十年五月二十三日

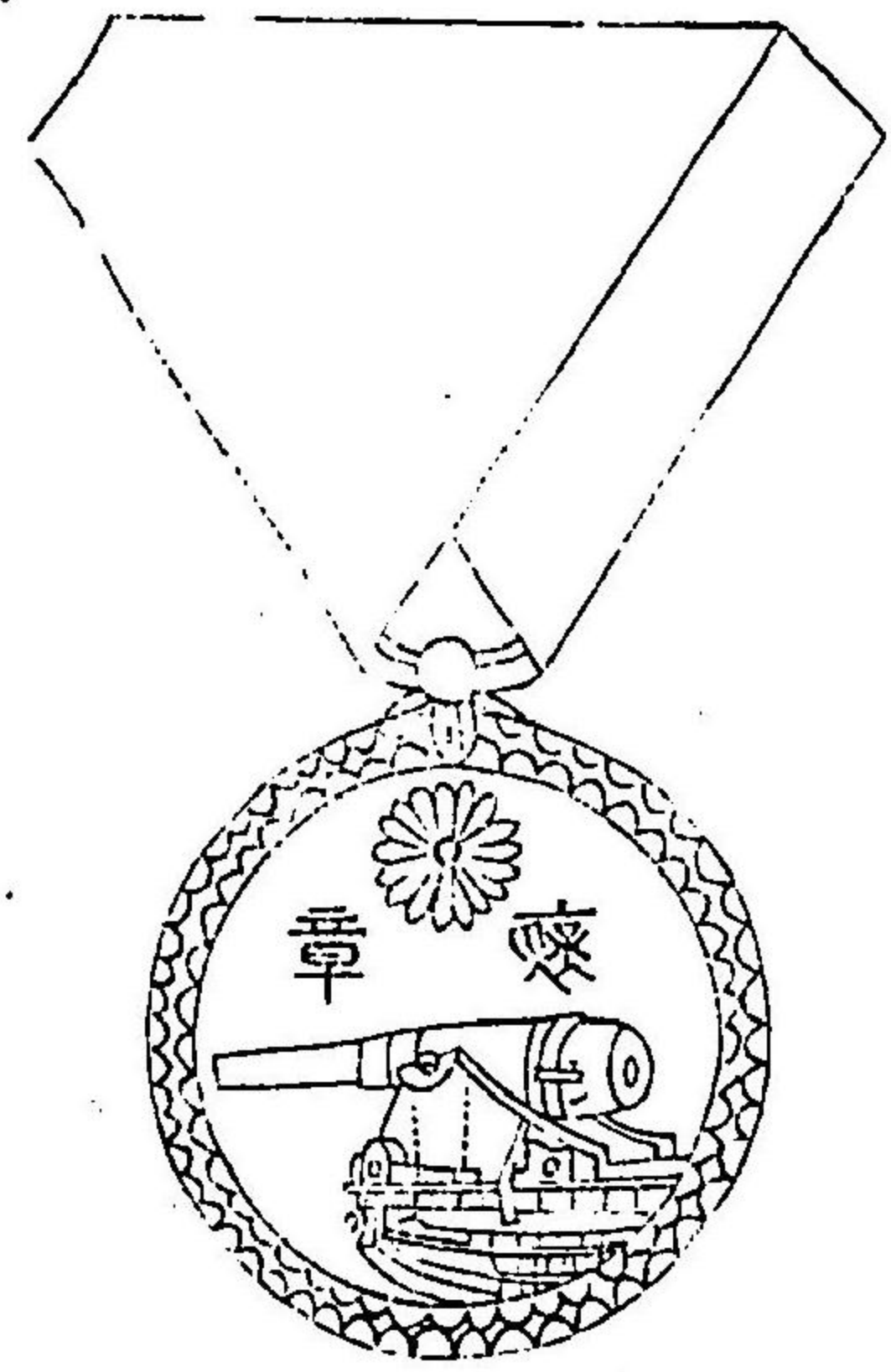
第一條 私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スルモノニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定シ分テ金章銀章ノ二種トス

| | |
|---|---------------------------------------|
| 章 | 金及銀圓形表面ニ菊ノ徽章褒章ノ二字大砲ノ圖裏面ニ贊成防海事業ノ六字ヲ鑄出ス |
| 綬 | 橙黄色 |

| | |
|---|---------------------------------------|
| 章 | 金及銀圓形表面ニ菊ノ徽章褒章ノ二字大砲ノ圖裏面ニ贊成防海事業ノ六字ヲ鑄出ス |
| 綬 | 橙黄色 |

第二條 黃綬褒章ヲ佩用シ又ハ沒收スルノ事項ハ明治十四年(十二月)第六十三號褒章條例ニ據ル

第三條 黃綬ト褒章ノ圖式左ノ如シ



○開令第一號 二十七年一月六日
明治十四年第三百三號褒章條例取扱手續左ノ通改正ス

- 第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ
- 但官吏職務上ノ勞効ニ對シテハ褒章ヲ賜フノ限ニアラス
- 第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆覈シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ
- 第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私備ニ係ル者ハ第二條ニ依ル
- 第四條 褒狀ハ高等官及高等官待遇ノ者並ニ從六位以上及勳六等以上ノ者並ニ華族ノ戶主其ノ祖

父母父母妻嫡長子孫及嫡長子孫ノ妻ニハ賞勳局總裁之ヲ授與スヘシ其ノ具申申牒施行ノ順序ハ第一條及第二條ニ同シ

- 其ノ他ノ者ハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ授與スヘシ
- 第五條 褒狀ヲ外國人ニ授與スヘキトキハ金銀木杯金圓賜與手續第六條ニ依ル
- 第六條 褒章ヲ有スル者重罪ノ刑ヲ受ケタルトキハ裁判確定ノ後司法大臣又ハ陸海軍大臣宣告書寫ヲ添ヘ之ヲ賞勳局總裁ニ還付スヘシ
- 第七條 褒章褒狀ヲ賜フヘキ者具申後授與以前ニ於テ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ又ハ死亡シタルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ速ニ其ノ事由ヲ主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

○農商令第一號 十六年三月十七日

府 縣

難破船救護ニ原因スル人命救助ノ褒章ニ關ル諸申牒ハ自今都テ當省ヘ差出スヘシ此旨相達候事

○乾戸甲第三六號(内務書記官照會) 十五年十一月廿五日
褒章下賜之儀ニ付御上申ノ内詳細之手續書並景況書等添付無之或ハ之アルモ其文簡約ニシテ褒章ヲ賜フヘキ要旨ヲ盡サ、ル向モ有之調査上差支爲ニ往復ヲ煩シ候儀不淺就テハ自今別紙簡條ニ據リ取調御上申有之度此段及御照會置候也
追テ關係書類中脱誤ノ文字等無之様篤ト御調査有之度爲念申添候也

- 一 住所族籍
- 一 賞受刑ノ有無 賞罰トモ其全文ヲ記スヘシ
- 一 褒賞ヲ賜ルヘキ要旨ノ内
- 一 官位勳等
- 一 姓名年齢
- 一 人命救助者
- 一 戸長等之具狀書
- 一 最モ危難ト見認ムヘキ實況

- 一 數人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ率先盡力ノ者ヨリ甲乙ノ區別
- 一 水難者ヲ救助スルモノハ游泳シテ其所ニ到リシヤ又ハ船筏或ハ助網等ヲ以テセシヤノ區別
- 一 水難者ト救助者ノ船又ハ陸トノ距離及ヒ河海ノ淺深廣狹水勢ノ緩急等

德行者
 一 履歷
 一 平素ノ行狀
 一 其志行最卓絶ト見認ル件
 一 其志操ヲ不變ノ年數

- 一 公益ヲ興セシ者
- 一 平素ノ志行
- 一 事業經營ノ始末及ヒ將來維持ノ方法及ヒ費金ノ額該金ハ本人ヨリ支出セシヤ又ハ其學ヲ養成シ他ヨリ寄贈ニ係ル等ノ際
- 一 學校病院等ヲ設立セシモノハ其構造并建坪其他教師生徒及ヒ醫員患者等ノ員數
- 一 疏河築隄修路ニ係ルモノハ工事ノ模様著手及ヒ竣工ノ年月施工前後實地ノ景況又ハ川幅堤等ノ里程間數詳細繪圖面ヲ要ス
- 一 營業及家屋ノ貧富
- 一 右ノ外ト雖モ緊要ノ件ハ記載ヲ要ス

○第一號 十六年一月四日

明治十四年十二月第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フ可キ者又ハ公益ノ爲メニ金穀財產等ヲ寄付シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ

○第十七號 十六年三月廿六日

本年第一號布告ノ旨ニ依リ金銀木杯又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相達候事
 (別紙)
 官省院廳府縣
 金銀木杯金圓賜與手續

第一條 褒章ヲ賜フヘキ者ニ金銀木杯又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

定例

- 第一等 木杯三組品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金拾圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス
- 第二等 木杯三組品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金五圓ヨリ多カラス二圓五拾錢ヨリ少カラス
- 第三等 木杯壹個品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金二圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特例

- 第一等 金杯壹個又ハ三組又ハ金圓
- 第二等 銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓
- 第二條 公益ノ爲メニ金穀財產等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

- 寄附金額又ハ價格
- 拾圓未滿 褒狀
- 拾圓以上百圓未滿 木杯壹個
- 但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 百圓以上五百圓未滿 木杯三組
- 但三百圓未滿ハ五拾圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 五百圓以上二千圓未滿 銀杯壹個
- 但千圓未滿ハ二百五拾圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 二千圓以上五千圓未滿 銀杯三組

但千圓毎ニ品格ニ等差アリ
五千圓以上壹萬圓未満
但二千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

金杯壹個

壹萬圓以上

金杯三組

第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモノトス

褒狀又ハ木杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府知事縣令管理施行スルモノトス但勅奏任官奏任官以上ノ待遇ヲ受クル者并從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ニ賜フベキトキハ第四條ニ準據スヘシ

第四條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者アルトキハ警視總監府知事縣令ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

賞勳局總裁ハ其申牒ニ據テ勅奏任官奏任官以上ノ待遇ヲ受クル者并從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ニハ之ヲ直授シ其他ノ者ハ主務大臣ヲ經由シ警視總監府知事縣令ヲシテ之ヲ傳達セシム

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ニ受クヘキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ授與セス

第六條 外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ内國人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及帝室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申牒シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

○總丙第一〇號 十八年十二月二十八日
明治十六年第十七號公達ニヨリ金穀財産等寄附者褒賞方御上申ノ節ハ自今別表ニ照準御取調有之度此段及御通牒候也

逕テ賞勳局直授ノ分ハ一般人民ト區別御申出有之度此段申添候也
寄附金取調表

| 寄附金高 | 學校病院道路橋梁 聖田等所在地名 | 費途ノ目的 | 寄附年月日 | 本籍住所 | 族籍 姓名 |
|----------------|---------------------|---------------------|-------|-------------|---------------|
| 、、、、 | 何府 縣國郡(區)町(村) | 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 華士族(平民) 何某 |
| 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 何町村 |
| 寄附物品 簡數(坪數) | 價格 | 學校病院道路橋梁 聖田等所在地名 | 費途ノ目的 | 寄附年月日 住所 | 族籍 姓名 |
| 、、、、 | 、、、、 | 何府 縣國郡(區)町(村) | 、、、、 | 、、、、 | 華士族(平民) 何某 |
| 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 、、、、 | 何會社 |

- 一 寄附年月日ハ金穀物品ヲ納入セシ年月日ヲ記入シ又年賦寄附ハ初年ノ月日ト完納ノ年月日ヲ記入ス
- 一 勞力ヲ寄附セシ者ハ其延人員ヲ寄附物品ノ欄ニ記入シ賃銀ハ合算シテ價格ノ欄ニ記入ス
- 一 寄留者ハ其住所ノ府縣郡區町村名ヲ本籍住所ノ欄ニ併記ス
- 一 本表ハ具申書ノ餘白ヘ記載スルモ苦シカラス又事項煩雜ニシテ一行中ニ記載シ盡ス能ハサルモノハ次行ニ記スルモ妨ナシ
- 一 學校ハ其種類例ヘハ小學校中學校或ハ府縣立町村立等ノ區別ヲ記載シ病院モ亦之ニ準ス
- 一 學校病院等ヘ金圓ヲ寄附セシモノハ其費途ノ目的ヲ明記ス例ヘハ建築費書籍購求費等ノ如シ

一 官位勳爵アル者ハ族籍下ニ記載ス
 ○幹戸第一六號 十七年一月廿九日
 金銀盃品位別番ノ通假定相成候ニ付テハ以後褒章ト併賜スヘキ御見込ノ者有之節ハ金銀盃番號
 上申書中へ御記載有之度爲御心得此段及御通牒候也

| 番號 | 寄附金高 | 個數 | 杯價 |
|-----|---------|----|--------------|
| 十三號 | 五百圓以上 | 壹個 | 拾六圓十九錢 |
| 十四號 | 七百五拾圓以上 | 全 | 二十二圓七十七錢 |
| 十五號 | 千圓以上 | 全 | 二十八圓七十二錢 |
| 十六號 | 千五百圓以上 | 全 | 四十圓九十五錢 |
| 十七號 | 二千圓以上 | 三組 | 六十一圓八十九錢 |
| 十八號 | 三千圓以上 | 全 | 八十九圓八十四錢八厘 |
| 十九號 | 四千圓以上 | 全 | 百十四圓八十五錢 |
| 金杯 | | | |
| 廿號 | 五千圓以上 | 壹個 | 百七十八圓十四錢二厘 |
| 廿一號 | 七千五百圓以上 | 全 | 二百六十六圓七十九錢三厘 |
| 廿二號 | 壹萬圓以上 | 三組 | 三百五十七圓七十三錢七厘 |

但杯價ハ十七年十月中ノ取調ニ係ルモノナリ
 ○本訓令甲第貳拾三號 廿年二月廿三日 郡 町 村 役 所
 凡ソ金穀等ノ寄附ニ係ル賞與方具申ノ際ハ自今左ノ區別ニ準ヒ寄附者ノ住所氏名金員等夫々各
 別ニ認メ差出スヘシ但地所建物其他穀類若クハ物品等ヲ寄附セシモノハ渾テ當時ノ賣買價格ヲ
 算出シ左ノ區別ニ倣ヒ但書ヲ設クヘシ

一 壹千圓以上 一 百圓以上 一 壹拾圓以上

○太戸第五九號 十五年二月廿四日

褒章ノ配褒狀書式別紙ノ通御制定相成候ニ付右書式ニ照準斟酌御通計可有之爲御心得此段及御
 通牒候也

褒狀案 (用紙諸辭令紙ニ全シ)

明治何年何月何日何船ノ、、、、、ヲ認メ、、、、、
 官 位 勳 姓 名 在官者位勳者ハ
 郷貫族籍ヲ認メス

太 政 大 臣 位 勳 某 印
 何 縣 何 國 何 郡 何 町 何 村

明治何年何月何日某地云々ノ節某等ノ、、、、、ヲ救助候段奇特ニ候事 姓 名

何 縣 知 事 位 勳 某 印
 本 籍

平生父母ニ事ヘ孝養云々ノ段以下全文 本 籍 姓 名

平生貞操ヲ勵ミ云々ノ段以下全文 本 籍 姓 名

平生雇主ニ事ヘ忠實云々ノ段以下全文 本 籍 姓 名

(〇一二)

多年伯叔父母ノ困苦ヲ云々ノ段以下全文

本籍姓名

平生興學救荒賑恤拓地ノ事ニ云々ノ段以下全文

○太戸第六六一號

十七年二月十二日

篤行奇特者賞與ニ關スル御申牒書類之義是迄區々ノ扱ニテ脱字誤文等儘有之夫カ爲メ數回ノ往復ヲ要シ遂ニ獎勵ノ時機ヲ失スル場合モ可有之ニ付昨今其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候間以來御申牒相成候分ハ一旦於御廳謄寫之上必正副二通御差出相成候様致度此段特ニ及御照會候也

○警第一四二五號

(警務課長通牒)

二十一年十月十五日

篤行奇特者賞與ニ關スル具申宛名ノ儀是迄區々ニシテ扱上差支候ニ付自後長官宛ニ御認相成度警部長ノ命ニ依リ此段申進候也

追テ警察賞與ニ關スル具申書ノ儀ハ從前ノ通ニ候條爲念申副候也

東京府ヨリ難破船救援ノ者褒章取扱方ノ義ニ付伺

十六年十一月七日

危難救援ノ者褒章取扱方ノ義ニ付客年六月中三重縣伺ニ對シ其遭難地ノ管轄ニ於テ可取扱旨御指令ノ趣モ有之候處今爰ニ甲地ノ人民洋中若クハ所轄未定ナル孤島(當府所轄小笠原島近傍ナル島嶼ノ類)ノ近海ニ於テ難破ニ際シ乙地船舶ノ航通ニ邂逅シ直ニ之カ救援ヲ受ケ丙地ニ至リ其難破ノ處分ヲ要メタリ因テ其救援者ニ對シ相當ノ賞典ヲ施行セントスルモ其遭難地タルヤ之ヲ所管スルノ官廳ナシ斯ル場合ニ在テハ甲(被救人在籍地)乙(救助船々籍アル地)丙(難破船ノ處分ヲナシタル地)丁(救助人在籍ノ地)孰レノ地ノ管轄廳ニ於テ施行スベキカ差掛候事件有之

未ダ適例モ無之ニ付相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

○農商務省指令

十六年十一月廿二日

伺ノ趣難破船處分ノ要ニ應シ地方廳ニ於テ可取扱事但シ主管ノ件ニ付當省及指令候事

農商務省ヨリ褒章舉行處分方ノ義ニ付伺

十六年六月廿日

明治十四年十二月第百三號公達褒章取扱手續第一條ニ凡褒章ヲ賜フベキ者アル時ハ其管轄長官ヨリ主務卿ニ具申云々又第三條ニ褒狀ハ管轄長官ヨリ與フル者ト云々ト有之然ル處難破船ニ係ル人命救助ナルモノハ甲船困難ノ際同所航行中ノ乙船々長水夫若クハ乘客又ハ該地元人民ト同心協力シテ救援スル等其場合一ニシテ足ラス今其褒章ヲ救助者各自ノ管轄長官ニ於テ舉行スル者トモハ處分上或ハ多少ノ煩雜モ可有之歟仍テ是等ハ遭難救援ノ事實ヲ詳悉シタル地方長官ニ於テ賞與取計不申候テハ實際支障候様存候ヘ共右公達中管轄長官ノ指定方明文無之ニ付此段爲念相伺候條前陳ノ通相心得可然ヤ至急仰允裁候也

○太政官指令

十六年七月十二日

伺之通

第三款 警察賞與

○内務省訓令第二十一號

廿一年十月十二日

廳 府 縣

警察賞與規則左ノ通相定ム

警察賞與規則

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スヘキモノトス
第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種金三圓以上十五圓以下

乙種金五圓以下

(一一二)

特別賞金十五圓以上三十圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限リ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 犯罪事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 左ノ犯罪ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一 國事ニ關スル重罪犯 二 兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三 貨幣偽造變造ニ關スル重罪犯 四 人命ニ關スル重罪犯

五 放火ニ關スル重罪犯 六 強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一 貨幣偽造變造ニ關スル輕罪犯 二 竊盜ニ關スル罪犯

第二項 前項ノ罪犯ヲ分明ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項 第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及第一項ニ揭

クル罪犯ニシテ其未遂ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上十圓以下甲種ハ五圓以上二十

圓以下ノ金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項 前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スルコトヲ得

第五項 前數項ニ該當スルモノト雖モ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ尠キモノ若クハ金額ヲ

賞與シ難キ事情アル者ハ賞詞ヲ與フルコトヲ得

第四條 水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナル者ハ甲種ノ

賞ヲ與フルコトヲ得

第五條 罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若クハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖モ其疑

ナキモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條 賞與ハ何等ノ場合ヲ問ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス但第三條第一項ノ場合ハ一罪犯ニ付テノ賞

トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ

一事件若クハ數事件一名若クハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキハ之ヲ賞與スルニハ一事

件若クハ一罪犯ニ對スル金額又ハ數事件若クハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ人員ニ配當

給與スヘシ

第八條 功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナル者ニ給ス若シ親屬ナ

キトキハ戸長ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ

第九條 公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞與ヘス

第十條 自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ一般ニ

洪益ヲ及ホスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル者亦同シ

第十一條 罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコトヲ得ス

第十二條 第八條第十條第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル

者ヲ云フ

第十三條 巡查ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及特別賞

ヲ與フルコトヲ得

第一項 第三條ニ揭クル罪犯ヲ捜査シ又ハ捕獲シ其功勞著シキ者

第二項 前項ニ該當セスト雖モ其功勞ノ前項ニ比シ相下ラサル者

第三項 第四條ニ揭クル事項及流行病ニ付其功勞著シキ者

第四項 自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救援シタル者

第十四條 巡查罪犯ヲ捕獲シテ功勞アリト雖モ未タ拘留セサル前ニ逃走セシメタルモノハ賞與ス

ルコトヲ得テ護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕獲シタルトキ亦同シ
 第十五條 巡查私事旅行中其管内ニ於テ賞與スベキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ
 第十六條 巡查ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全數ニ分賦シ其巡查ニ屬スル金額ヲ賞與スヘシ
 第十七條 本則第七條乃至第十一條ハ巡查ノ賞與ニ付テモ亦之ヲ適用ス
 第十八條 巡查ノ賞與ハ其所屬廳ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳東京府ハニ於テ施行スヘシ
 第一項 訴ヲ受タル地ノ管轄廳
 第二項 罪犯ヲ最初ニ受取タル地ノ管轄廳
 第三項 犯罪事件ニ屬セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳
 第十九條 賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ盡シ其金額ヲ定メ之ヲ差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其廳ニ於テ賞與スヘシ
 第二十條 警部其他警察事務ニ従事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡查ノ例ニ準シ賞與スルコトヲ得
 第二十一條 特別賞與ヲ行フタルトキハ其都度狀ヲ具シ報告スヘシ
 第二十二條 賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ
 ○内務省第一六號(内務書記官) 二十一年十一月十二日
 警察賞與規則說明
 閣令第十七號ヲ以テ明治七年太政官達第六十八號外三號ヲ廢セラレタルニ付茲ニ本則ヲ設ケテ警察上功勞アルモノヲ褒賞スルノ規程ヲ定ム而シテ其警察賞與規則ト稱スル所以ハ何人ヲ問ハス苟モ警察上功勞アルモノハ盡ク此規則ノ範圍ニ於テ賞與スルコトヲ明ニスルニアリ

第二條 說明

賞與ヲ分チテ三種トシタル所以ハ其事實ノ輕重ニヨリテ其功勞ノ大小難易ヲ生シ自カラ同一ナラサルヲ以テ此段界ヲ必要トス特別賞ハ從前殊功アルモノニ對シ經伺ノ上許可ヲ得テ施行シタルモノ、如キ拔群ノ功勞アリテ金額拾五圓以下ヲ以テ賞與スルモノハ未ダ其功勞ニ酬ルニ足ラサルモノニ限り之ヲ給ス

甲種

乙種

特別賞 說明

通常賞金ヲ拾五圓以下トシタルハ從前ノ五圓以下ニ比スレハ甚多額ナルカ如ク見ユレハ大害ヲ除却シ擾亂ヲ防止スル等實際ニ於テ利益スル所復洪大ナルモノアリテ強テ金額ノ多寡ヲ論スヘカラス且從來賞金額ノ寡少ナルヨリ未タ充分ニ實効ヲ收ムル能ハサルノ感アリ是本則ニ於テ其金額ヲ增多シタル所以ナリ
 本項賞金額ハ最高ト最低トヲ示シタルモノニシテ此範圍ヲ脫スルコトヲ得サルハ勿論ナレハ事實ノ輕重ニ由リ其功勞ヲ審定シ該範圍内ニ於テ斟酌考量シテ賞金額ヲ定ムルハ適宜トス然レハ若シ賞與ニシテ偏輕偏重アルモノハ褒賞ノ旨趣ヲ失フ者ナルヲ以テ豫メ其程度ヲ定メ輕重宜シキヲ得同一ノ功勞ニシテ甲乙其賞ヲ異ニスルカ如キコトナキヲ要ス
 特別賞ハ獨リ金額ノ多キノミナラス其拔群ノ功勞ナルコトヲ表明スルモノナルガ故ニ之ヲ賞スルニ當テハ慎重鄭重ニ之ヲ審議シ決シテ輕佻ニ失スルコトナキヲ要ス

第三條 說明

第一項 說明

本條ハ警察事務ニ従事セサルモノニ賞與スベキコトヲ示スガ故ニ此項ニ於テハ特ニ現行ノ場合ノミヲ規定ス又容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者ト云フハ自ラ手ヲ下シテ捕獲スルヲ得セシメ

甲種

タル者ハ勿論自ラ手ヲ下シテ捕獲セサルモ巡查等ノ罪犯ヲ捕獲スルニ當リ之ヲ援助シ或ハ搜索ニ助力スル等都テ其者ノ働キニ依テ容易ニ捕獲セシメタル者モ猶本項ノ種類ニ從テ之ヲ賞與スルコトヲ定ム

乙種 説明

罪犯ノ種類未ダ必スシモ此數者ニ止マラス茲ニハ單ニ刑法上罪質ノ最モ著シキモノヲ舉テ其證據ヲ示スニ外ナラサルナリ但シ皇室ニ對スル罪犯ノ如キ極メテ重要ノモノアルモ本項ニ掲出スルヲ要セサルヲ以テ特ニ節略セリ

第二項 説明

罪犯ノ所在ヲ密告シ因テ其捕獲ヲ容易ナラシメ又ハ罪犯ノ誰タルヲ知ラサルニ之ヲ分明ニ訴出テ因テ之ヲ捕獲スルコトヲ得ルハ實際其例甚妙カラス然ルニ從前ハ只僅ニ重罪ニ對シ金一圓輕罪ニ對シ金五十錢ヲ以テ賞與スルノミナリシ故ニ功大ニシテ賞少ナキノ感アリ歐米各國ノ罪犯ヲ搜索スルヤ其輕重ニ從テ多少ノ懸賞ヲ廣告スルアリ是レ局外者ニ啗利シテ罪犯ノ所在ヲ知ルノ捷路ナリ本項モ稍之ニ類ス是罪犯捕獲者ニ賞スルモノト同額ナル所以ナリ

第三項 説明

本項賞金額ヲ增多スル所以ハ拒捕ノ賊ヲ捕獲スルハ通常捕獲ヨリ困難ナルコト明カナルヲ以テ其賞金モ亦多カラザル可ラス又未遂犯ヲ訴出ルハ既遂ノモノニ比スルニ社會ニ對スル功勞實ニ大ナリト謂フベシ其功勞大ナリトスレハ從テ賞金モ多カラザルヲ得サルハ勿論ナリトス是レ特ニ本項ヲ掲出スル所以ナリ

第四項 説明

犯罪事件ニ關スル功勞ノ種類ハ本條第一項以下ニ限ルコトヲ得サルヘシ故ニ其罪質ノ相均シキ或ハ功勞ノ同様ナルモノ等皆前各項ノ種類ニ準據シテ之ニ賞與スルコトヲ得セシムルナリ

第五項 説明

苟モ功勞アルモノニハ第二條ノ賞與金ヲ與フベキハ勿論ナレモ比較上稍劣ルモノアリテ此金額ヲ賞與シ難キコトアリ或ハ功勞者ノ身分ニ對シ金額ヲ與ヘ難キ事情アルモノアリ是等ノ如キモ尙警察上功勞アル者タルヲ免レヌ故ニ賞詞ヲ與ヘテ其功勞ヲ表明スルナリ

第四條 説明

本條ハ第三條犯罪事件ニ關スル功勞ト區別シテ其犯罪ニ關セサルモノヲ明ニス而シテ其賞金額ノ少ナキハ第三條第一項ニ掲クル罪犯ノ如キ社會ノ公害ヲ除クモノト自ラ其功勞異ニスルヲ以テ五圓以下ノ賞ニテ充分ナリトス然レモ異常ノ場合ニ在リ異常ノ働ヲ爲シタル者ニハ自ラ其賞額ヲ多カラシメサルヲ得ス是レ但書ヲ以テ五圓以上ノ賞金ヲ給與シ得ルコトヲ示ス所以ナリ

第五條 説明

事件ノ完結セサル前ト云フハ水火災等ニ際シ未ダ其事ノ整理完結セサル前又ハ犯罪事件ノ未ダ公判ヲ經サル前ニ於ケルモ其事實及功勞ノ疑ナクシテ相當賞與ヲ行フベキモノニハ之ヲ褒賞シ徒ニ賞與ノ時機ヲ失シテ受賞者ヲ感戴セシムルノ功ヲ薄カラシメサルコトヲ要ス

第六條 説明

本條ノ精神ハ賞與ヲ明確ナラシムルニ在リ故ニ一旦與ヘタル褒賞ニシテ後日其金額ノ多寡又ハ違賞ナルコトヲ發見スルモノ之ヲ更正又ハ取返シヲ爲スヘカラザルモノトス

第七條 説明

本條ハ賞與授受ノ際其疑ナカラシムル爲メ之ヲ規定ス譬ハ爰ニ犯罪アリ之ヲ密告シ官吏捕獲スルニ際シ助力シテ捕獲ヲ容易ナラシメタル者ハ第三條第一項並第二項ノ兩賞ヲ與ヘ又ハ數罪犯ヲ一時ニ密告シタル者ハ罪犯ノ數ニ係ハラス單ニ第二項ノ賞一箇ノミヲ與フルカ如シ又但書ノ旨趣ハ罪犯捕獲ハ現ニ之ヲ捕獲シ得タル數ニ應シ一箇毎ニ規定ノ賞金ヲ給與スヘキコトヲ明カニスルナリ

次項 説明

警へハ一人ニテ窃盜犯三人強盜犯一人殺人犯二人放火犯三人ヲ捕獲シ且火災防禦消止ニ盡力シテ功勞アル者アルル如キハ乙種賞四箇甲種賞六箇ヲ給與スベキモノトス

第八條 説明

功勞ハ死去共ニ消滅セサルモノナリ故ニ功勞者未ダ賞與ヲ受ケサル前ニ於テ死去スルト雖モ必ス之ニ賞與スベキヲ規定ス而シテ之ヲ給スルニ遺族ト云ハスシテ親族ト云フ所以ハ間々遺族ナキ者アルヲ以テ範圍ノ汎カラシムコトヲ欲シテナリ又三十六ヶ月ヲ經テ賞與ヲ施行セサルハ他ナシ之ヲ搜索シテ三年間モ所在ノ知レサル者ハ最早受賞權ヲ拋棄シタルモノトナシ際限ナク之ヲ存置セサルモノトス

賞與ヲ親屬ニ下付スルニ際シテハ之ヲ濫費セサルコトニ注意ヲ與フベシ

第十條 説明

自己又ハ其親屬ノ利害ニ關スル事件ハ當然爲スベキ事ヲ爲シタルモノニシテ敢テ功勞トナスニ足ラス譬へハ盜賊ノ害ノ如キ自家又ハ親屬ノ性命財產ヲ保護スルニ依テ賊ヲ捕獲シタル等全ク公害ヲ除クノ念慮ニ基因シテ爲シタルモノニ非サル者ノ如キ是ナリ然レモ其跡ニ就テ看察スレハ自家ノ利害ニ切ナルカ爲メノミニアラス公害ヲ除クニ急ナルヨリ非常ニ盡力シタルモノノ如キハ時宜ニヨリ相當ノ賞與ヲ與フルコトヲ得又其被害者ト利害ヲ共ニスル者ト云フハ雇人ノ主人ニ於ケル宿屋營業者ノ宿泊人ニ於ケルカ如キモノヲ指サス

第十一條 説明

犯罪人ヲ密告シ又ハ捕獲シタルルル其罪犯若シ密告者又ハ捕獲者ノ親屬ニ係ルルハ其功勞ノ著シキモノト雖モ之ヲ賞與セザルモノトス

第十三條 説明

本條ヲ特掲スル所以ハ巡查ハ元ト職務上爲スベキノ事ニシテ其功勞必スシモ賞與スルニ及ハサ

ルモノノ如シ然レモ身命ヲ顧ミス危險ヲ踏ミタル者ナルヲ以テ其功ノ賞スベキモノナシトスヘカラス唯巡查ハ一般人民ニ比シ功勞ノ著明ナルニ於テ初メテ賞與スル等自ラ異ナル所ナカルヘカラス故ニ爰ニ之ヲ特掲シテ一般人民ト殊別ナルヲ明ニス

第一項 説明

本項ハ罪犯ヲ捕獲シタルルル雖モ其功勞ノ著明ナルモノニアラサルヨリハ唯捕獲シタル廉ノミヲ以テ賞與セサルコトヲ明ニス其搜查ノ二字ヲ挿入シタルハ第三條ハ單ニ捕獲シ又捕獲ヲ容易ナラシメタル者ニ對スル事項ノミニシテ罪犯ヲ捜査スルコトハ特ニ巡查ニ屬スルヲ以テナリ

第二項 説明

本項ハ第三條ノ第四項ト同様ナリ

第三項 説明

本項ハ犯罪事件ニ關セザル事項及流行病豫防檢疫其他該病ニ關シ職務ヲ行フタルルル特ニ功勞ノ著明ナル者ニ賞與スルコトヲ規定スルモノナリ一般人民ノ條項ニ於テ流行病ノ事ナキハ其之ニ關係スルコトナキヲ以テナリ

第四項 説明

本項ハ一般人民ニ在テハ褒賞條例ノ範圍ニ入ルベキモノニシテ官吏ハ褒賞條例ニ據ルコトヲ得サルヲ以テ爰ニ掲出スル所以ナリ

第十四條 説明

巡查ニ於テ罪犯ヲ捕獲シタルト雖モ未ダ警察署分署ニ交付セス又ハ留置場へ拘留セサル前ニ自ラ逃走セシメタルルル捕獲ノ功ヲ失フモノトス故ニ之ヲ賞セサルナリ尤モ再ヒ之ヲ捕獲シタルルルハ第十三條第一項ニ據テ賞與スルハ勿論ナリ

第十五條 説明

私事旅行トハ變宕若クハ歸省若クハ賜暇中旅行等ノ如キ職務ヲ帶ヒサル場合ヲ指稱ス此場合ト

(〇二二)

雖其管內即其所属署ノ區畫管內ニ於テ功勞アリタルハ尙ホ職務ヲ帶ヒタルト同ク第十
二條ノ例ニ據テ賞與スルコトヲ明ニス故ニ其區畫管外ニ於テハ無論一般人民ノ例ニ據ル
第十六條 說明

本條ハ第十三條第四項ノ賞與ヲ給與スル場合ニ於テ其分賦方ヲ定ムルナリ譬ヘハ爰ニ一人ノ溺
水者アリ巡查二人又人民一人ニテ之ヲ救援シタリ此賞金ヲ三圓トスレハ一人壹圓ニ相當ス故ニ
巡查ニ屬スル二圓ヲ以テ之ヲ賞與スルカ如シ

第十八條

第一項

第二項

第三項 說明

第一項ハ人民ヨリ罪犯ヲ訴出タルハ又第二項ハ人民ニ於テ罪犯ヲ捕獲シ司法警察官又ハ巡查若
クハ憲兵等ニ引渡シタルハ其犯罪地ノ何タルヲ問ハス現ニ之ヲ受取リタル地ノ地方廳ニ於テ賞
與シ第三項ハ現ニ事件ノ生シタル地ノ地方廳ニ於テ賞與スベキコトヲ示ス

第二十條 說明

警部巡查ノ外警察事務ニ從事スル者ト云フハ水上警察ノ水夫刑事事務雇ノ如キモノヲ指ス故ニ
水夫ニシテ陸上ニ於ケル功勞刑事事務雇ニシテ人命ヲ救援スルカ如キハ一般人民ノ例ニ據ルコ
ト勿論ナリトス

第二十二條 說明

其所屬ノ經費ト云フハ警部補以上ニ在テハ廳府縣費中賞與ヨリ巡查及警察雇ニ在テハ警察費ヨ
リ一般人民ニ在テハ廳府縣費中賞賜金ヨリ賞金ヲ支出スベキヲ云フナリ
○本署署第四一號 十八年七月三日
警察上ノ賞與下賜之義ニ付具申ノ内一事件ナルモ多人數ニ涉ル等ヨリ往々之ヲ引キ分ケ數次ニ具

申候向モ有之處分上差支不都合不勘候ニ付テハ自今右等ノ事件ハ必ス同時ニ具申可致此旨及違候
也

○内 乙 第五百十號

八年十一月十五日

府

縣

甲縣ニ於テ犯人ヲ捕拿スルニ其連累乙縣ニ潛匿ス依テ乙ニ依頼シ乙ノ巡查之ヲ探偵捕拿セハ其功
勞ハ乙縣廳ニ於テ賞與スヘク若シ甲乙兩縣ノ巡查戮力捕拿スルトキハ其本犯甲乙ノ關係ヲ不論各自
ノ縣ニ於テ賞與可致此旨相達候事

○警第六九號

廿七年二月十二日

曩ニ明治廿一年警第一四三〇號并ニ廿六年警第一三六號ヲ以テ警察賞與具申方ノ義訓示及置候處
自今犯罪捕獲ニ付テハ別紙裁判言渡ノ全文ヲ添フルニ及ハザルニ付單ニ其處分ノ結果罪名刑期ニ
限リ裁判所ニ問合セ其回答書ヲ添ヘ可成裁判所ノ手數ヲ煩ハサハル様注意セラルベシ
一般人民ニシテ人命救助セシモノ賞與方ノ義ニ付長崎縣ヨリ警保局長へ問合

廿三年五月五日

明治十五年褒章條例施行以來人民ニシテ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタルモノハ夫々同條例
ニ據リ處分致來候處去ル明治廿一年十月御省訓令第廿一號警察賞與規則第四條ニモ亦タ水火災其
他犯罪ニ關セザル功勞バ云々トアリテ警察上人命ヲ救助シタルモノモ同條ニ據リ賞與フベキモ
ノ、如ク解セラレ何分其分難難相立候ニ付均シク人命救助ナリト雖モ其遭難ノ模様ニヨリ危難ニ
瀕スルコトナク救助シ得タル場合即チ他ニ救援者ナキニ於テハ必然生命ヲ失フベキ河海又ハ井底
等ニ陥没シ若クハ或ル難破船ノ場合ノ如キ救援者ニシテ別ニ危難ニ臨ム事ナク人命ヲ救助シタル
ハ警察賞與規則ニ依リ其他危難ヲ顧ミサリシ者ハ總テ褒章條例ニヨルベキモノトシ危難ヲ顧ミ
サルト否トヲ以テ分界施行可然義ニ候哉御意見承知致度候

○回答

御問合相成候警察賞與規則第四條ニ人命救助モ含蓄スルヤ否ノ件承知仕候右第四條ニハ含蓄不致

(一二二)

ノ精神ナリ褒賞條例設定ノ節ニモ人命救助ノ事ハ人類相互ノ務ニシテ之ヲ賞スルノ必要ナシ然レ
凡其自己ノ危難ヲ顧ミシテ爲シタル場合ノ如キハ格別ニ付之レテ褒賞スベシトノ旨趣ニテ該條
例ニ斯ク記載サレシヤニ傳承セリ就テハ巡查ノ職務上人命ヲ救援シタル場合(賞與規則第十三條
第四項參看)ノミ賞與規則ニ規定サレ其他ハ一切該規則ニ關係ナキ義ト御承知相成度候

○警第一四三〇號 廿一年十月十八日

警察上功勞アル者へ行賞方具申ノ節ハ左ノ事項取調必ス添付セラルヘシ

一 罪犯其親屬ニ係ルヤ否

一般人民

一 受刑有無 但罰アラハ其宣告文ヲ記スヘシ

一 罪犯其親屬ニ係ルヤ否

一 戸籍

○警起第一三六號

廿六年四月十五日

從來一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲ爲シ警察賞與規則ニヨリ賞與方具申ノ節本人手續書添付有之
候處右ハ曾テ警察會議ノ際差出スルニ不及旨及訓示置候處于今往々差出候向モ有之尙ホ戸籍寫ノ
義モ自今差出ニ及ハス候條原籍村大字并ニ番地身分氏名等戸籍面ト相違無之様確實ニ取調申出ス
ヘシ

○警第一〇一五號

二十年五月十九日

自今賞與方具狀中左記ノ項目ニ該ルモノヲ認知シタル時ハ其旨迅速申出ツヘシ

一 本貫族籍轉換ノ者

一 革姓革名ノ者

一 位勳視奪セラレタル者

一 刑ニ處セラレタル者

但可成刑名宣告文ヲ載スヘシ

一 死亡ノ者

○警第九三五號

消防組員水害警防火災消防上等ニ盡力シ其功勞ニ依リ警察上賞與セララル、時其賞狀氏名ノ肩ニ其
役名ヲ付記セラル、ヲ以テ今後右等功勞アルニ當リ賞與方具申ノ節ハ必ス其役名ヲ記載セラルヘシ

第四款 官吏職務ノ爲メ流行病ニ罹リ又ハ負傷セシ者諸給助

○閣令第二十三號

十九年七月十三日

各 官 廳

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從
ヒ手當金ヲ給ス

一 手當金ヲ分チ吊祭料、救助料、療治料ノ三種トス

一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

一 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス

一 吊祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル
者ハ之ヲ給セス

一 救助料ヲ分テ二等トス

一 一等 俸給五箇月分日給百五十日分 二等 俸給三箇月分日給九十日分

一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

一 療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○本縣警第四〇三號

二十年二月二十五日

各 警 察 署 長

傳染病豫防救治ニ從事爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者手當金給與之件昨年七月第二十三號閣令有

之候處右之内天然痘ノ如キハ種痘ヲ以テ之レヲ豫防スルノ良法モ有之且種痘規則ヲ以テ一般ニ接種セシムルノ方法モ相立居候儀ニ付自今天然痘検査ニ從事ノ者ハ必ス天然痘濟又ハ種痘ヲ種タルモノニ限ル義ト心得ラル可シ

○内務訓令第五九八號 十九年八月十九日
傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者等へ手當金給與ノ義ハ左ノ手續ニ依リ支給スベシ

一 官吏准官吏ハ本年七月第二十三號閣令ニ依リ廳府縣ノ定額經費内ヨリ支給シ直ニ内務大臣へ報告スベシ
但シ高等官ニ係ルモノハ其都度具申スベシ

一 該閣令ハ恩給令及一時賜金ノ法ニ拘ハラス特ニ其手當金ヲ支給スルモノトス
一 巡查看守ハ明治十五年七月第四十一號公達巡查看守給助例ニ依リ巡查ハ警察費ヨリ看守ハ監獄費ヨリ支給シ其感染死ニ至ラザル者ハ該閣令ニ依リ二等給助料ヲ支給シ直ニ内務大臣ニ報告スベシ

但シ該給助例實施以前ニ在テ未ダ支給セザル者ハ明治八年第三號公達ニ依リ巡查ハ警察費看守ハ監獄費ヨリ支給スベシ

一 該閣令以前ニ係ル者ニシテ給與未済ノモノハ此手續ニ據リ具申スベシ
一 備醫師検査掛看護夫人夫等ハ總テ明治十年十二月第八十九號公達ニヨリ地方税中衛生費若クハ身分所屬ノ地方費ヨリ適宜支給スベシ

○檢甲第七十五號(内務書記官通知) 十九年八月廿七日
傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者等へ手當金給與ノ義ニ付本年訓第五百九十八號ヲ以テ訓令有之候ニ付テハ該訓令ニ依リ具申相成モノ並ニ給與濟御報告ノモノハ左ノ廉々御附記相成度此段及御通知候也

追テ該訓令第一項中廳府縣ノ定額經費内ヨリ支給シ云々ト有之候處右廳府縣ノ定額經費トハ官吏准官吏身分所屬ノ經費ヨリ支給スル義ニ有之候條右様御了知相成度爲念此段申添候也

一 傳染病豫防検査等ノ職務ヲ命シタル辭令書ノ寫
但シ辭令書ヲ附セサルモ當然其職務ニ從事セシモノアルハ其證左トナルベキモノ

一 傳染セシト認ムル場所並ニ發病ノ狀況年月日(六種傳染病ノ種別ヲ記ス)及全治死亡等ノ年月日
相當醫師ノ診斷書

一 該死者ニ依リ救助ヲ受クベキ遺族ノ氏名年齢
○警第一九三二號 二十年十月十一日

官吏准官吏傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染又ハ死亡シタル者等へ手當金給與方具申ノ節ハ左ノ廉々取調別紙ニ記載スベシ

一 傳染病豫防検査等ノ職務ヲ命シタル辭令書ノ寫
但辭令書ヲ付セサルモ當然其職務ニ從事セシモノアルトキハ其證左トナルヘキモノ
一 傳染セシト認ムル場所并ニ發病ノ狀況年月日(六種傳染病ノ種別ヲ記ス)及全治死亡等ノ年月日
相當醫師ノ診斷書

一 戶籍寫
但規則ニ依リ戶籍寫ヲ出スモノハ本項ノ取調ヲ要セス

○公達第八十九號 十年十二月一日
流行病豫防救治ノ爲諸官廳ニ於テ該事ニ服從セシムル雇ノ醫師検査委員並ニ地方公立病院醫師其他從事ノ者該病ニ感染及ヒ死亡候節ハ本年ヨリ左ノ規則ニ照準シ處分可致此旨相達候事

第一條 凡流行病アル節諸官廳ニ於テ豫防救治ノ方法ヲ施行スル爲メ備使スル醫師検査委員

(六二二)

官員ニテ委員トナルモ看護人並地方公立病院醫師其他人夫等該病毒ニ感染及ヒ死亡スルモノハ此規則ニ照ラシテ手當金ヲ給スベシ

第二條 手當金ヲ分テ療養埋葬及ヒ遺族扶助ノ三種トナシ病者ハ療治料ヲ給シ死者ハ埋葬料及ヒ扶助料ヲ給スベシ

第三條 手當金ノ差等ハ其月給ノ多寡ニ因リテ之ヲ定ム則チ貳百圓以上百五十圓以上百圓以上七拾圓以上五拾圓以上貳拾圓以上拾圓以上拾圓未満トナシ等級ニ應シテ支給スベシ

但シ日給ノモノハ一ヶ月ヲ平均三十日ト看做シ該日數ヲ乘シテ本條月給ノ等差ニ準スベシ

第四條 療治料ハ自宅ニ於テ治療スルモノ一日ニ付壹圓ヲ給シ其官公立病院ニ入ルモノハ適宜官費ヲ以テ支給スベシ

第五條 遺族扶助料ハ戸主ニシテ家族ナキ者及ヒ戸主ニアラズシテ妻子ナキモノハ給セス尤モ死者戸主ニアラス且妻子ナキ者ト雖モ其死者ニ依リ活計ヲ營ミ來タル遺族アルモノハ之ヲ給スベシ

第六條 埋葬料ヲ給スルニ獨身ニシテ且親戚ナキ者ハ病院或ハ同僚或ハ區戸長ニ下付スベシ

第七條 流行病ノ節雇入ル、醫師ノ月給ハ既ニ十五圓以上ノ給料ヲ以テ使府縣公立病院ニ從事スル醫師ヲ臨時該流行病ノ治療ニ任スルモノ並ニ虎列刺病ノ節十五圓以上ヲ以テ雇タル檢疫委員ハ此ノ規則ノ表面ニ照シテ給スベシ

手當表

| 月給 | 等級 | 療治料 | 埋葬料 | 扶助料 |
|--------|----|--------|-----|-------|
| 二百圓以上 | 一等 | 一日ニ付一圓 | 五十圓 | 二百五十圓 |
| 百五十圓以上 | 二等 | 全 | 四十圓 | 二百圓 |

(七二二)

○内訓令第四十二號 廿年九月七日

警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公達ニ照準支給スベシ

但シ警察備員ハ警察費監獄備員ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

○勅令第八十號 廿五年九月廿六日

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス但シ府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負擔トス

○山梨縣伺 廿五年九月廿八日

本年九月勅令第八十號ニ依リ療治料ヲ給與スベキ者ハ令文ニ在テハ官吏ト有之候得共雇員ノ如キモ其職務ノ爲メ受ケタル傷疾ハ官費ニ依テ療治セシムルコト當然ノ義ト存セラレ候就テハ當時官務ニ從事セシムル見込ヲ以テ雇用スル雇員ニシテ規定ノ場合ニ遭遇シタルハ療治料ヲ給スル義ニ候哉右ハ目下縣出豫算編製ニ關シ切迫ノ必要有之候間至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

(八二二)

○指令 廿五年十月六日

本年九月廿八日付第五一八號伺官吏療治料給與ニ關スル件伺ノ通

○宮崎縣知事伺 十九年八月二十日

療治料支給方之儀ニ付伺

本縣巡查之儀者從來勤務ノ一部トシテ定日ニ於テ擊劍柔術等ノ研究ヲナサシメ居候處本年四月中
擊劍修行ノ折柄誤テ骨傷ヲ受ケ爲メニ數日間ノ醫療ヲ受ケ候モノ有之右者明治八年第三號ノ公
達巡查死傷吊祭扶助療治料規則中別ニ明文無之候得共等シク勤務上ノ負傷ニ付該公達ニ準シ相當
療治料支給致度此段相伺候也

○內務省指令 十九年九月六日

書面伺之趣難聞届事

第五款 巡查看守給助

○達第四十一號 十五年七月十七日

警視廳 府縣(東京府沖繩國箱札 櫻根室四縣ヲ除ク)

巡查看守給助例別紙ノ通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨
相達候事但實施ノ府縣ハ八年第三號并ニ九年第八十號達
別表中免職歸國旅費ハ相廢候義ト相心得ヘシ

(別紙)

巡查看守給助例

第一條 給助ハ退職給助、傷痍給助、死亡給助、療治料、祭祀料ノ五種トス

第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ

- 一 退職給助 勤績^{巡查ヨリ看守ニ看守ヨリ巡滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス}

二 傷痍給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス

三 死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痍ニ原シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

四 療治料職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス

五 祭祀料 奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條 退職給助ノ額

一 勤績滿五年ノ者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

二 勤績滿十年ノ者ハ年金貳拾五圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

第四條 傷痍給助ノ額

一 一等傷 ^{終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者}ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二 二等傷 ^{終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者}ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額

一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス但寡婦アレハ孤兒ニ給セス

二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ廢篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第六條 療治料ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條 祭祀料

(九二二)

(〇三二)

一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレタル者 二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス
一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者
二 公權ヲ停止セラレタル者
三 失踪シタル者

四 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

〇内乙第六拾八號

十五年十二月十五日

警視廳 府 縣(東京府沖繩函館札
根室四縣ヲ除ク)

本年七月第四拾一號公達巡查看守給助例第二條第一項勤績割註ノ趣ハ全ク一地方内轉任スル者ニ
限ル義ニ付此旨爲心得相達候事

〇達第四十二號

十五年七月十八日

警視廳 府 縣(東京府沖繩函館札
根室四縣ヲ除ク)

巡查看守給助例施行ノ期ニ際シ現在職滿二年以上五年未滿ノ者引續キ五年未滿ヨリ算スニシテ退職
スルトキハ給助例施行ノ日ヲ限界トシ勤績年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ據リ當時ノ月俸額ヲ以テ退
職ノ際一時慰勞金ヲ支給スヘシ此旨相達候事

(參照)

〇内乙第二十五號大藏卿
事務

十二年五月廿三日

府 縣(東京府
ヲ除ク)

明治七年内務兩省達第四十七號手當金五圓以下給與ノ成規ヲ廢シ自今巡查滿年賜金左ノ通相
候事

(一三二)

一 定巡查奉職滿二年勤績ノ者ハ明治七年第六十一號公達ニ照シ滿年賜金給與スヘシ
一 官ノ都合ヲ以テ免職シ又ハ病死スルキ勤績二年未滿ト雖モ已ニ滿一年ニ至ル者ハ滿年
賜金ノ例(即月給半
ケ月分)ニ照シ給與スヘシ
一 該賜金ハ府縣警察費ヨリ支辨スルモノトス右規則ハ來ル六月一日ヨリ施行スヘシ此旨
相達候事

〇達第六十六號 十五年十二月十二日

警視廳 府 縣(東京府沖繩函館札
根室四縣ヲ除ク)

本年七月第四十壹號ヲ以テ巡查看守給助例相達候處右實施ノ府縣ニ於テ人員減少等ニ因リ免職スル
コトアルトキ奉職五年未滿ノ者ハ免職當日迄ノ勤績年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ據リ一時慰勞金ト
シテ支給スヘシ此旨相達候事

〇内甲第七號

十九年二月二十六日

府 縣(東京府及沖
繩縣ヲ除ク)

明治十五年七月第四十壹號公達巡查看守給助例ノ儀未タ施行セサル地方モ有之候處明治二十年度ヨ
リ施行スヘシ

〇内訓令第二十三號

二十年四月七日

廳 府縣 集治監 假留監

巡查看守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ
一 年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六箇月(六箇月ニ滿タサルモノ
ハ現月數ヲ以テ計算ス)分ヲ支給スヘシ
一 年金ハ退職又ハ死亡又ハ傷疾ノ翌月ヨリ支給スヘシ
一 年金ヲ受ケタル者本例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給スベシ
一 年金ヲ受ケタル者死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ支給スヘシ

〇本訓令甲第四十三號

二十年三月三十一日

郡 町 村 役 所

明治十五年七月第四十一號御達巡查看守給助例ニ基キ給助法及給助施行順序左ノ通定メ來ル四月
一日ヨリ施行ス

(四三二)

屬警察署又ハ監獄署ヲ經テ差出スヘシ

第二條 年金ヲ受クヘキ者ニハ第五號書式ノ證票ヲ附與スヘシ

第三條 年金ハ年兩度三月本縣監獄署又ハ監獄支署其他ハ本人所在ノ管廳ニ於テ半額宛テ下付スルモ
ノトス尤給與ヲ止ムルトキハ渡期月ニ拘ハラス其時々下付スルモノトス

但受給者ハ給助請求ノトキ第六號書式ノ請求書ニ證票ヲ添ヘ金額領收ノトキ第七號書式ノ證
書ヲ差出スヘシ尤モ代理人ヲ差出ストキハ委任狀ヲ持參セシムヘシ

第四條 年金ヲ受クル者左ノ各項ニ該當シ又ハ轉籍死亡再嫁其他戶籍上ニ異動アルキハ本人又ハ
戶主若クハ家族ヨリ所在町村長ノ與書ヲ受ケタル書面ヲ以テ速ニ(他府縣ノ者所)當廳ニ届出ヘシ
但給助ヲ受クヘキ權利消滅シタル時ハ該届書ニ年金證憑ヲ添エ返納スヘシ

一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ

二 俸給ヲ受クルノ官職ニ就キタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

四 失踪シタルトキ

五 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セザルトキ

第五條 職務ノ爲メ負傷シタル者及負傷後若クハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ證明ニハ公立病院
長又ハ主治醫ノ診斷書又ハ檢按書ヲ差出スヘシ

但他府縣ニ於テ負傷ニ原因シ死亡ニ係ル者又ハ孤兒滿二十歲已上ニ至ルモ癡篤疾者ナル片ハ
其最寄公立病院長又ハ開業醫ノ診斷書又ハ檢按書ヲ差出スヘシ

第壹號 用紙美濃紙

退職
傷病給助願書

私儀滿何年間勤續(或ハ今般負傷候處何等傷ニ檢定相成)候ニ付テハ相當ノ給助金下賜相成度
(或ハ別紙診斷書相添)此段奉願候也

明治 年 月 日

縣 知 事 殿

何府何郡何町村何番地族籍

元大分縣巡查
看守

何

某印
何年何月生

右當町内本籍ノ者ニ相違無之候也

何町長

何

某印

明治 年 月 日

第二號 用紙美濃紙

寡婦
孤兒給助願書

(夫又ハ)巡查何某何々ノ爲メ何年何月何日死没候ニ付テハ相當ノ給助金下賜相成度別紙死亡檢
(實養父)看守何某何々ノ爲メ何年何月何日死没候ニ付テハ相當ノ給助金下賜相成度別紙死亡檢
案書及戶籍寫相添ニ此段奉願候也

何府何郡何町村何番地族籍

故何某寡婦
孤兒

何

某印

明治 年 月 日

全

親族

何

某印

全

全

全

印

(五三二)

右當町内本籍ノ者ニ相違無之候也
縣 知 事 殿

(六三二)

第三號 明治 年 月 日
用紙美濃紙

死亡給助願

今般^{巡査}守^何某^何々ノ爲メ(或ハ負傷後)何年何月何日死亡候處私共義從來死者ニ由リ生計相營ミ罷在候ニ付テハ相當ノ御給助被成下度別紙死亡檢案書及戶籍寫相添ニ親族連署ヲ以テ此段奉願候也

明治 年 月 日

何町長

何

某印

何府^郡何町何番地族籍

故何某^{祖父母父母又ハ兄弟姉妹}

何

某印

全

親族

何

某印

全

何

何

某印

右當町内本籍ノ者ニ相違無之候也
縣知事 殿

明治 年 月 日

何町長

何

某印

第四號 用紙美濃紙

廢篤疾給助願

私儀

(七三一)

明治 年 月 ヲリ御給助相受ケ罷在候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ相成候ヘトモ從來廢(篤)疾ニ有之候間猶相當ノ御給助被成下度別紙醫師診斷書相添ニ此段奉願候也

明治 年 月 日

何府^郡何町何番地

故^{巡査}守^何某^{長男}

何

某印

全

親族

何

某印

全

何

何

某印

右當町内本籍ノ者ニ相違無之候也
縣知事 殿

明治 年 月 日

何町長

何

某印

第五號

給助之證 第何號

何府縣族籍

元^{巡査}守^何

何

某

何府縣族籍故^{巡査}守^何某^{寡婦(孤兒)}

何

某

何年何月生

又ハ

(八三二)

金何圓
右ハ滿何年間勤績(爲職務負傷)(故巡查看守何某爲職務死亡)ニ付巡查看守給助例ニ依リ前記ノ
給助ヲ受クヘキヲ認メ此證書ヲ付與ス
明治何年何月何日
大分縣知事位勳氏名印
此證書ハ巡查(看守)給助本簿第何號ニ登錄ス
内務部長
大分縣書記官位勳氏名印

(裏書)

此證書ハ賣買讓與質入トナスコトヲ禁ス

第六號 用紙半紙

何給助金請求書

一金何圓

但本年度上半季分(又ハ何年何月退職(死亡)ニ付)何給助金
右御下付相成度候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族籍

元巡查 何

某印

或ハ故巡查看守
何某寡婦孤兒

何

某印

收支命令者宛

右ハ現今當町内本籍(或ハ寄居)居住ノ者ニ相違無之候也

何郡何町何番地族籍

何

某印

明治 年 月 日

第七號 用紙半紙

何給助金領收證

一金何圓

但何年度上半季分(又ハ何年何月退職(死亡)ニ付)何給助金
右御下付相成正ニ領收候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族籍

元巡查 何

某印

或ハ故巡查看守
何某寡婦孤兒

何

某印

收支命令者宛

○縣甲第四四號(内務書記官通牒) 二十四年五月八日

町村制ニ關スル事項ニ付左ノ通省議決定相成候間爲御心得及通牒候也

一 巡查看守等救助例ニ依リ救助ヲ受クル者有給町村吏ト爲ルモ救助ヲ停止スルニ及ハス

○大分縣訓令第四十六號 廿七年七月六日 郡役所、警察署、監獄支署、町村役場

巡查看守給助例ニ據リ年金ヲ受ル者ニシテ一般官吏ノ外監獄ノ教誨師押丁授業手裁判所ノ廷丁並

寫字生守衛門衛其他何等ノ名稱ヲ以テスルニ拘ハラズ諸官廳ノ雇(賃雇)並小使ニ同シキ者ヲ除ク

トナリシ者ハ俸給ヲ受クルノ官職ニ就キタルモノトシテ取扱フヘキニ付右ニ該當スル者アルトキ

ハ明治二十七年二月大分縣訓令第八號巡查看守給助法施行順序第四條ニ依リ當廳ニ届出サシムヘシ

第六款 官吏恩給

○法律第四十三號 二十三年六月二十日

(九三二)

官吏恩給法

- 第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス
 - 一 年齡六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ
 - 二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ
 - 三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ
- 第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス
 - 一 公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
 - 二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
- 第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス
- 第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス
- 非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス
- 實際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス
- 兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ
- 恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

- 第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷疾疾病引續キ重症ニ趣キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レバ查覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス
 - 一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二個年
 - 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三個年
- 第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ日ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス
明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス
- 第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ
 - 一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數
 - 二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數
 - 三 從軍年加算ノ年月
 - 四 非職及休職中ノ月數
 - 五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數
 - 六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數
- 第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ
 - 一 年齡二十歳未滿者ノ在官月數
 - 二 高等官試補及判任官見習中ノ月數
 - 三 郡區書記ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官

職ニ在ル月數

四 御用掛履等外出勤仕ノ月數
五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數
六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額下前ノ恩給額トフ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ增加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス
一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ
第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタル故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス

第十四條 政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス但郡區書記ハ此限ニアラス

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタルトスル者ハ六個月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷疾疾病ノ原因及其輕重
二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年內ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス
從前ノ命令ニシテ此法律ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

○ 閣令第三號 二十三年七月二日

官吏恩給法施行規則左ノ通定ム
官吏恩給法施行規則

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 在官中履歷書
二 市町村長ノ證明シタル戶籍調書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス
第四條 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其實情ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ニ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前個三月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ

地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅若クハ停止ノ片及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス
第八條 恩給ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受クル者他ノ地方ニ居住ヲ轉スルトキハ恩給支給ノ月ヨリ三十日以前其旨ヲ新舊居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ若シ此ノ期日ヲ過キ届出タルトキハ其一期ノ金額ハ尙ホ從前ノ地方廳ニ於テ支給ス

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ各廳間互ニ其者ニ係ル恩給支給方ノ受繼ヲ爲シ其引繼ヲ受ケタル地方廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム
- 三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲ケル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一個月分ニ相當スル金額トス

- 第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲ケル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ
- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷痍疾病等差例ニ依ル

十分ノ三
十分ノ二

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受ケタル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定
裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ
通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給
ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ附記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受ケタル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出スヘシ其遺族ニシテ扶助料
ヲ受ケヘキ權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ
地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ大藏省ニ通知シ其恩給證書ハ内閣恩給局ニ送附
スベシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通
知シ且第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又ハ復給セシ
ムヘシ

地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ
送附スヘシ

第四章 雜則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ
地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申
出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受ケタル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏
面ニ其事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル
一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ 二 恩給證書亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ
第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸
長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○大藏省令第二十四號 二十三年十月一日

本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受ケルモノハ每期受領ノトキハ
本人生存證書ヲ恩給證書ニ添ヘ差出スヘシ

第七款 退官賜金

○勅令第九十八號 二十三年六月二十日

文官判任以上ノ者在官滿一年以上ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年
數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終
ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス

本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後
退官シタルトキハ前項ニ掲クル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス

恩給ヲ受ケタル者並自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル
者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

第八款 官吏遺族扶助

○法律第四十四號 二十三年六月二十日

官吏遺族扶助法

- 第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス
 - 一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ
 - 二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
 - 三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ
- 第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ
- 第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ
- 政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ノ俸給及兼官ニ依テ受クル加俸ニ對シテハ第二條ノ納金ヲ要セス
- 第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受タル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス
 - 公務ノ爲メ受ケタル傷病ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス
- 扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム
- 第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料孤兒ニ給ス

- 第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス
- 第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歲未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル
- 第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス
- 第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得
- 其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル
- 第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歲未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得
- 第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三個年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス
- 第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス
- 第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス
 - 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
 第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナ
 キトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶
 助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス
 第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶
 助料ノ支給ヲ廢ス
 公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス
 扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス
 第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助
 金ヲ給ス
 前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス但一年未滿ノ在官月
 數ハ計算セス
 第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス
 行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタルトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具
 申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十九條 明治十七年達官更恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料
 ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル
 第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス
 ○閣令第四號 二十三年七月二日
 官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム
 官吏遺族扶助法施行規則

第一章 扶助料ノ請求
 第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者ア其遺族ニシテ本屬屬可決死者ノ履
 歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ
 第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘ
 第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬屬ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷疾
 若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ
 其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
 第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉
 給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
 第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲ス
 第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ廢疾不具ニシテ産業ヲ營
 ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ
 第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アルハ其後親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名
 逆署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調
 書ヲ添附シ地方官長ニ差出スヘシ
 第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ
 内閣總理大臣ニ差出スヘシ
 内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時
 ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
 扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 納金ノ徴收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徴收シテ國庫ニ納ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル

雜則

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキニ於テハ恩給證書ヲ亡失シタルトキ

二 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ヲ爲スルハ其職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九款 軍人恩給

○法律第四十五號 二十三年六月二十日

軍人恩給法

第十款 人民吊祭扶助療治料

○達第六十七號 十五年十二月十二日

警視廳

府縣東京府 神戶府 函館府 札幌府 仙台府 青森府 岩手府 秋田府 山形府 宮城府 福島府 茨城府 栃木府 群馬府 埼玉府 千葉府 東京都 東京府 神奈川府 新潟府 富山府 石川府 福井府 山梨府 長野府 岐阜府 愛知府 三重府 滋賀府 京都府 大阪府 和歌山府 奈良府 和歌山府 徳島府 香川府 高松府 愛媛府 高知府 福岡府 佐賀府 熊本府 大分府 宮崎府 鹿兒島府 那覇府

一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條此旨相達候事

吊祭扶助療治料

一 吊祭料 重傷死ニ至ル者へ金三十圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ戸長役場ニ付シ便宜處分セシム

遺族扶助料

一 遺族扶助料 父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシモノへ金五十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

傷痕扶助料

一 傷痕扶助料 終身不具トナリ自用ヘ金六十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二等 終身不具トナル者モ自用ヲ辨シ得ル者ヘ金拾圓ヨリ少カラス五十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

療治料

一 療治料 傷痕ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

○内乙第十七號

十一年二月二十八日

東京警視本署府縣東京府 神奈川府 新潟府 富山府 石川府 福井府 山梨府 長野府 岐阜府 愛知府 三重府 滋賀府 京都府 大阪府 和歌山府 奈良府 和歌山府 徳島府 香川府 高松府 愛媛府 高知府 福岡府 佐賀府 熊本府 大分府 宮崎府 鹿兒島府 那覇府

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

東京府

府縣

一般人民時機不得止場合ニ於テ身ノ危難ヲ不顧巡查同様ノ働ヲナシ死傷ノ者吊祭及扶助料給與方ニ付明治八年太政官第八十六號御達ノ趣有之候處自家ノ賊難ニ罹リ死傷スル者ハ給與ノ限ニアラス候條此旨爲心得相違候事但特ニ感諒ノ事情アツテ救恤セサルヲ得サルモノハ其都度事實具狀可伺出候事

○警第一七〇四號

警察雇員ニシテ職務上一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者へ吊祭、扶助、療治料下賜之儀具申ノ節ハ自今左ノ事項ヲ取調必ス付記セラルヘシ

明治廿一年十二月十八日

大分縣警部長 師岡 毅

- 一 死傷ノ狀況、場所、年月日及全治、死亡等ノ年月日
- 一 傷痕ノ等級明治十五年十二月第六十七號公達三項ニ依ル
- 一 療治料ノミヲ請求スル時ハ二項三項ノ取調ヲ要セス一時ノ治療ヲ以テ身體ノ運用全ク舊ニ復スル旨ヲ明記スヘシ
- 一 療治料ノ實費
- 一 相等醫員ノ診斷書
- 一 戸籍寫

第十一款 警察官吏考蹟條規

○本訓令文第二十二號 二十年四月十八日 警察本部署分署 警察官吏考蹟條規左ノ通相定ム

警察官吏考蹟條規

第一條 考蹟ハ警察課署長警部以下職員ノ功過行能ヲ考覈シ進退褒貶ノ資ニ供スルモノトス
第二條 考蹟ノ法三善五功七過トス其目左ノ如シ

- 一 操心公正
- 一 制行廉潔
- 一 職務勉勵
- 一 以上三善トス

警察ノ學力ヲ具ヘ事体ニ達シ明敏嚴肅事務ヲ整理シ所部ヲ獎勵シ能ク職務ヲ盡スヲ課署長ノ功績トス

警察大意ニ通曉シ所部ヲ監督シ嚴肅勇毅能ク職務ヲ盡スヲ外勤係長ノ功績トス

警察事務ニ通曉シ處務敏捷文理通達能ク事ヲ舉ルヲ課僚署員警部以上内勤係長ノ功績トス

感覺銳敏剛毅活潑注意周到公正無私能ク職務ヲ盡スヲ監督ノ功績トス

勤儉身ヲ修メ嚴明ニ紀律ヲ守リ事ニ臨ミ剛毅活潑務ニ處シ忍耐沈著人ニ對シ温和慈篤能ク保護ノ道ヲ盡スヲ巡查ノ功績トス

- 一 以上五功トス
- 一 公ヲ忘レ私ニ徇ヒ職務ヲ曠廢スル者
- 一 諂諛名ヲ求メ巧詐貪汚ノ行アル者
- 一 變ニ臨ミ遂巡卑怯事ニ處シテ怠惰粗漏人ニ對シテ愛憎偏頗ナル者
- 一 干涉ニ過キ苛察ニ涉リ又ハ威權ヲ振ヒ警察ノ体面ヲ汚損スル者
- 一 濫リニ隱惡ヲ摘發シ又ハ故ラニ犯罪ヲ檢舉セサル者
- 一 虛構ノ申告ヲ爲シ又ハ私黨ヲ企テ若クハ上官ノ命令ニ抗シ及ヒ不遜ノ行爲アルモノ
- 一 素行修ラヌシテ他ノ侮慢ヲ招キ又ハ機密ヲ漏泄シタル者
- 一 以上七過トス

第十二款 巡查精勤證書

(六五二)

○内務省訓令第二十一號 二十二年五月二十五日 廳 府 縣東京府ヲ除ク

巡查看守精勤證書授與規則

第一條 精勤證書ハ巡查看守ノ精勤ヲ證シ其名譽ヲ表スルモノトス
第二條 精勤證書ハ警察署長若クハ典獄ノ具狀ニ依リ廳府縣長官審査ノ上之ヲ授與スルモノトス
第三條 精勤證書ハ左ノ諸項ニ適合スルモノニ授與スヘシ

一 行狀方正

二 勤務勉勵

三 事務熟達

四 滿三年奉職

第四條 第三條ニ適合ノモノト雖トモ左ノ事項ニ該當スルモノハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得

ス

一 官吏服務規律ニ違背シ若クハ巡查懲罰例ニ依リ月俸一箇月百分ノ二十以上ノ罰金ヲ科セラ

レタルモノ及ヒ月俸百分ノ二十以下ノ罰金ト雖トモ一年二回以上ニ及フモノ

二 奉職後刑法其他ノ法律規則ニ依リ處分ヲ受ケタルモノ

第五條 精勤證書ヲ所持スルモノニシテ退職後再任ヲ求ムルトキハ試験ヲ爲サスシテ採用スルコ

トヲ得

但年齡制限及體格試験ハ此限ニアラス

第六條 水火災若クハ盜難等ニ罹リ精勤證書ヲ亡失シタルトキハ再ヒ之ヲ授與スヘシ

第七條 精勤證書ヲ受ケタル後其行狀修ラス若クハ第四條ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ其證

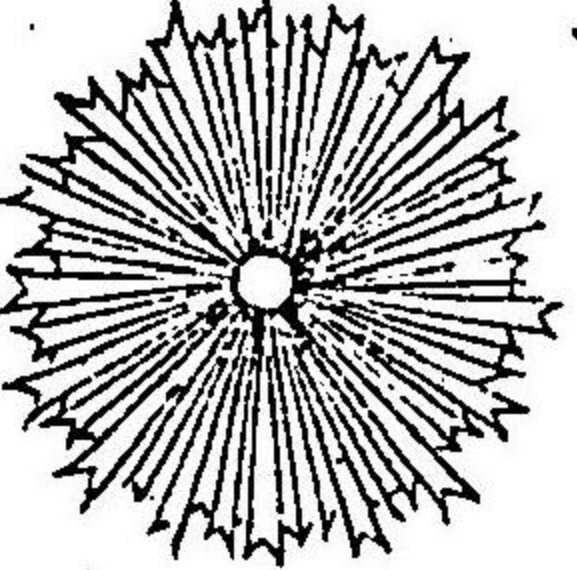
書ヲ沒收スルコトアルヘシ

第八條 精勤證書ハ左ノ雜形ニ依リ調製スヘシ

用紙鳥ノ子紙 「ノ中ハ號レモ朱書

六寸

(七五二)

| | |
|--|---------------------------------------|
|  | 第 號 |
| 「巡查看守」精勤證書 「廳府縣巡查 看守」氏名 | 右行狀方正ニシテ勤務 勉勵事務ニ熟達ス因テ 此證ヲ付與スル者也 |
| 年月日 | 「官位勳爵氏名印」 |

六寸

○訓令文第壹號

二十三年一月八日

第二部

監獄課

警察本部

各課主計課 巡查教習所、警察署、分署

巡查看守精勤證書授與規則取扱手續左ノ通相定ム

巡查看守精勤證書授與規則取扱手續

第一條 巡查ニシテ本則ニ依リ精勤證書ヲ與フヘキ者アルトキハ所屬課、所、署長ヨリ本部長ニ具

申シ部長ハ其當否ヲ審査シ知事ノ裁決ヲ請フヘシ

看守ニシテ精勤證書ヲ與フヘキ者アルトキハ典獄ヨリ具申スヘシ

第二條 前條ノ具申書ニハ左ノ各項ヲ取調記載スヘシ

一 職名氏名年齢

一 素行

一 一家親睦及同僚又ハ人民ニ對シ交際ノ如何

一 事務ノ履歷例ヘハ巡查ニ在テハ内勤、豫備、署所在地受持駐在以上明治廿一年七月本縣訓令文第二十

監督明治十九年十月本縣訓令文第分署長心得警部補代理明治十四年十月司法省達丙第十三號探偵係等ノ來

職務上功勞

一 巡查ニ在テハ注意年表、保護ノ雜事表、犯罪告發年表ノ惣件數看守ニ在テハ犯則防止及摘

發其他注意雜件

但本文件數記載方ハ歷年度毎ニ各別ニ調査スルモノトス

一 皆勤及欠勤、休暇日數

一 前各項外審査上材料トナルヘキ必要ノ事項

第三條 本則第四條ニ該當シ過誤失錯ニ依リ處分ヲ受ケタル後勤績精勤セシ者ニハ其處分翌月ヨ

リ起算シ同則第三條ニ適合スルトキ該證書ヲ與フルコトアルヘシ

第四條 本則第三條四項ノ年期ハ發布以前ニ溯リ起算ス但巡查ヨリ看守ニ看守ヨリ巡查ニ轉シタ

ル者ハ前後其年月ヲ通算シ滿三年ニ及フモ同項ヲ適用セス

第五條 精勤證書ハ各部ニ於テ部長之ヲ傳達スルモノトス但時宜ニ依リ所屬課、所、署長、典獄ヲ

シテ之ヲ傳達セシムルコトアルヘシ

第六條 精勤證書盜難若クハ水火其他不慮ノ變災ニ罹リ紛失セシトキハ其事由ヲ具シ所屬課、所、

署長又ハ典獄ノ證明ヲ受ケ更ニ下渡ヲ出願スルコトヲ得

第七條 左ノ各項ニ該當スルモノハ精勤證書ヲ沒收ス但本條ノ場合ニ於テハ沒收狀ヲ作り知事ノ

裁決ヲ受ケ巡查ハ所屬課、所、署長看守ハ典獄ヲ經テ本人ヘ傳達シ之ヲ徵收セシムルモノトス

一 懲罰例ニ依リ免職セシ者

一 在職中行狀修ラスシテ体面ヲ汚シタル者巡查懲罰例第二條ニ該當セサル者

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

付録

本則發布以前已ニ滿三年以上奉職ノ巡查看守ニシテ精勤證書ヲ與フヘキ者アラハ本文取扱手續ニ

依リ本年四月三十日限リ具申スヘシ

○警第一二〇一號 二十二年九月十七日

巡查看守精勤證書授與并沒收等ノ儀ニ付内務大臣ヨリ甲號ノ通訓令内務書記官ヨリ乙號ノ通り通

牒アリタリ

(甲號) 訓第五九八號(内務大臣) 二十二年八月廿四日

巡查看守精勤證書授與并沒收之件左ノ通施行セラルヘシ

巡查看守精勤證書授與規則第四條ニ該當シ過誤失錯ニ依リ處分ヲ受ケタル後勤績精勤セシモノニ

ハ其處分翌月ヨリ起算シ同則第三條ニ適合スルトキ該證書ヲ授與スルコトアルヘシ

巡查懲罰例ニ依リ免職シ若ハ在職中行狀修ラスシテ體面ヲ汚シ巡查懲罰例第二條ニ該當セサルモノ又ハ退職後ト雖モ禁

銅以上ノ刑ニ處分セラレタルモノハ精勘證書ヲ沒收ス可シ

第十三款 勳章年金褫奪停止取扱方

〇閣令第十九號 十九年七月一日

明治十六年九月第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續ヲ改正スルコト左ノ如シ
勳章年金褫奪及停止取扱手續

第十四款 官吏懲戒令

〇達第三拾四號 十九年四月十四日

今般官吏懲戒例左ノ通相定候條此旨相達候事

院省使廳 府縣

官吏懲戒例

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條 懲戒ノ法三種トス第一譴責第二罰俸第三免職

第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條 罰俸ハ一月十分ノ一ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ十三年一月第四號達ヲ以テ改正俸ヲ

追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領置シ數滿ヲ大藏省ニ送付ス

第五條 懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返

上セシム但懲戒ニ由ルニアラスシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條 諸省長官ハ所屬奏判任ヲ懲戒ス

第七條 府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣並警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條 四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ他ノ奏

任以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

第九條 府縣長官警視廳長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ其譴責ヲ專行スルヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ内務卿ニ届出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ届出ヘシ

第十條 其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ニ處分スルヲ得ス

〇達番外 九年六月八日

院省使廳 府縣

本年四月第三十四號達官吏懲戒例ノ儀ニ付尙又左ノ通相達候事

一 準官吏並ニ等外吏ハ本例ニ照シテ處分シ履其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スル者ハ本屬長官ノ見込ヲ以テ適宜處分スヘシ

一 官國幣社神官並ニ教導職ノ過失發見スル時ハ所在地方官ヨリ其狀ヲ具シテ「教部省」ヘ届出

ヘシ

(明治十三年三月第二十三號達ヲ以テ削除)

一 巡查及ヒ學校其他諸工場等ノ如キ別ニ懲罰規則有之分ハ本例ノ限ニアラス

一 民費ヲ以テ俸給ニ充ル者ノ罰俸ハ各其民費ニ割戻スヘシ

〇本 職員懲戒例別紙之通相定候條爲心得此旨相達候事

各 課 署

(別紙)

職員懲戒例

第一條 凡各課署雇並郡役所雇町村役所用掛筆生及ヒ病院師範學校等ノ職員ニシテ職務上ノ過誤失錯不注意ニ出ツルモノ或ハ怠惰ニ出ルモノ亦過失トス其素行修ラスシテ職務ノ体面ヲ汚ス者

(二六二)

亦過失ニ准シ此例ニ依テ處分ス
 第二條 懲戒ノ法三種トス第一譴責第二罰俸第三免職
 第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシ譴責書ヲ付ス
 第四條 罰俸ハ一ヶ月分十分ノ一ヨリ少カラス三ヶ月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ
 俸ヲ追スルハ其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ追徴ス
 第五條 第一條ニヨリ處分スル者ハ總テ手續書ヲ徴ス

第十五款 巡查懲罰例

○内務第九十二號 九年八月五日
 巡查懲罰例別紙ノ通改正候條此旨相達候事

廳 府 縣 東京府
 津 除ケ

(別紙)

第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審案シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少
 カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ阿責ニ止ム
 第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス
 第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス
 第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム但月俸ノ三分一ヲ過クルコトヲ得ス
 第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム
 ○警第六八號 廿七年二月十二日
 其署詰巡查ニ於テ犯罪人護送又ハ看守中不注意ニ依リ其犯人ヲ逃走ニ至ラシメタル場合從來懲罰
 具申ニ先立チ一應署長ヨリ所屬檢事ノ意見ヲ尋ネ來候處自今其儀ニ及ハス直ニ處分方具申セラル
 ベシ
 但シ檢事ニ於テ刑事ニ付スルノ模様アラバ其旨直チニ報告セラルベシ

第十章 公布式

第一款 公文式

○勅令第一號 十九年十二月二十四日

公文式

第一 法律命令

第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス
 法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル
 第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨ
 リ上奏裁可ヲ請フ
 第三條 法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任大
 臣ト俱ニ之ニ副署ス其各省專任ノ事務ニ屬スルモノハ主任大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス
 第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律
 勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得
 第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス
 第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス
 第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス
 第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム
 第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七
 條ノ例ニ依ル
 第二 布告

(三六二)

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナ

ス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ新署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上ノ勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

○太政官第十四號布達 十六年五月廿六日

今般第十七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通り之ヲ定ム

到達日數

| | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| 京都府 | 四日 | 大坂府 | 四日 | 奈良縣 | 四日 |
| 神奈川縣 | 即日 | 兵庫縣 | 四日 | 長崎縣 | 十一日 |
| 新潟縣 | 五日 | 埼玉縣 | 即日 | 群馬縣 | 即日 |
| 千葉縣 | 即日 | 茨城縣 | 二日 | 栃木縣 | 二日 |
| 三重縣 | 四日 | 愛知縣 | 三日 | 静岡縣 | 二日 |

第二款 縣令告示等公布式

○本甲第一號 十九年八月二十五日

本縣布達自今縣令ト改メ右施行期限左ノ通相定ム

第一條 縣令ハ各郡役所ヘ到達ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス

第二條 縣令ノ急施ヲ要シ即日ヨリ施行セシムルモノ及ヒ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ前條ノ例ニ依ラス

○大分縣令第二十二號 廿七年三月二十九日

今般縣報發行ニ付本縣諸公文ノ備來四月一日ヨリ縣報ニ登載スルヲ以テ公式トス

但明治廿六年三月縣令甲第二十號ハ本年三月三十一日限り廢止ス

第二款 警察公報

| | | | | | |
|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 山梨縣 | 二日 | 滋賀縣 | 四日 | 岐阜縣 | 四日 |
| 長野縣 | 四日 | 宮城縣 | 五日 | 福島縣 | 四日 |
| 岩手縣 | 七日 | 青森縣 | 十五日 | 山形縣 | 五日 |
| 秋田縣 | 八日 | 福井縣 | 八日 | 石川縣 | 七日 |
| 富山縣 | 六日 | 鳥取縣 | 七日 | 島根縣 | 八日 |
| 岡山縣 | 六日 | 廣島縣 | 七日 | 山口縣 | 八日 |
| 和歌山縣 | 六日 | 德島縣 | 六日 | 愛媛縣 | 九日 |
| 香川縣 | 九日 | 高知縣 | 八日 | 福岡縣 | 九日 |
| 大分縣 | 十一日 | 佐賀縣 | 十一日 | 熊本縣 | 十一日 |
| 宮崎縣 | 十一日 | 鹿兒島縣 | 十二日 | | |

○警第一二八七號 廿一年八月三十一日
自今警察月報ヲ廢シ警察公報例規左ノ通り相定メ來ル九月十五日ヨリ施行ス

警察公報例規
第一條 本報ハ警察ニ關スル諸令達訓令同指令其他參考トナルベキ事項ヲ毎日警察本部ニ於テ發刊スルモノトス

第二條 警察本部ノ諸達訓示等ハ本報ニ登載スルヲ以テ公式トス
第三條 本報ハ令達同指令任免賞與懲罰雜件ノ各部門ニ分テ登載ス

第四條 同指令任免賞與懲罰等ハ其要旨ヲ摘載スベキヲ以テ原文ノ繁雜ナルモノハ省略スルコトアルベシ

第五條 本報送達方ハ事ノ緩急ニヨリ毎日或ハ數日分ヲ繼メ送達スルコトアルベシ

第六條 本報ハ警部警部補及巡查ハ自費ヲ以テ購讀ノ義務アルモノトス

第七條 本報購讀ノ代價及納付手續ハ別ニ報告ス
○警起第七四號 二十七年四月二十六日
自今警察公報ヲ左記部門ニ區別シ毎月一回發行ス但部門ノ區別ハ每葉ニ附記シ其索引ハ每年六月十二月ノ兩度ニ發兌ス

甲號 法律勅令閣省令其他各省通知及同指令等
乙號 縣令并ニ訓令訓示指令其他例規トナルヘキ通達等
丙號 告示諭達其他令達通達照會通知等ニシテ一時限ノ事項
丁號 任免賞罰彙報其他雜

○警起第七四號 廿七年四月廿六日
自今警察公報每號其課所署(署ハ其駐在所 貸與分共)備品トシテ配付候條左ノ手續ニ依リ整理保存スヘシ

一各課所署及駐在所ニ於テ警察公報ノ配付ヲ受ケタルトキハ遂號其部類ヲ分テ順次編綴保存スル

モノトス

但編冊ハ各部共一ケ年ヲ以テ一冊トスヘシ

一編綴保存并ニ訂正記入等ハ各課所署ハ其擔當員ヲ定メ駐在所ハ駐在巡查ヲシテ擔當セシメ左ノ例ニ於テ取扱ハシムルモノトス

一公報中甲乙號ノ部其他將來例規トナルヘキ事項ニシテ改正追加削除廢止等ノ場合ハ公報接手ヨリ三日内ニ朱字ヲ以テ其條項(前其全文ヲ登載シタル公報)ノ上欄ニ何年何月第何號ヲ以テ(改正)(追加)(削除)(廢止)等ノ字ヲ記入シ參照ノ便ニ供スルモノトス

第十一章 紀律

第一款 官吏服務紀律

官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルハコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス
官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳賞榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其變態ヲ受ルコトヲ得ス

一 官廳ノ工事ヲ受負フ者 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者

一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ルコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルヒキハ事狀ヲ具ヘテ

之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

第二款 警部巡查門札

○警第五一號 二十三年二月二十日

警部ハ堅八寸横三寸厚五分ノ木札ニ官氏名ヲ記載シ各住居ノ門頭ニ掲クベシ

巡查表札ノ寸法ハ勤務規程第二百二十六條ニ規定有之候ヘテ猶右警部表札ノ寸法ニ依ルベシ

第二款 巡查名刺

○警第一七七八號 二十一年十二月二十八日

巡查名刺様式左ノ通定ム

巡查名刺様式字体楷書

〔警察部詰ハ〕

曲尺二寸八分

大分縣警察部詰
巡查氏名

〔警察署所在地受持巡查ハ〕

曲尺二寸八分

大分縣(何郡警察署詰)
第何聯合區第何區受持
巡查氏名

〔駐在巡查ハ〕
曲尺二寸八分

大分縣(何郡警察署詰)
第何聯合區第何區何(町)(村)駐在
巡查氏 名

〔豫備巡查ハ〕
曲尺二寸八分

大分縣(何郡警察署詰)
豫備
巡查氏 名

〔内勤巡查ハ〕
曲尺二寸八分

大分縣(何郡警察署詰)
内勤
巡查氏 名

第四款 警察官吏尊稱々呼法

○警第五〇號 二十三年二月十九日
警察官吏尊稱々呼法内規左ノ通定ム
警察官吏尊稱々呼法内規

警察官吏尊稱々呼法ハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 警部長以下知事ヲ呼フニハ知事閣下
- 二 課、所、署長以下警部長ヲ呼フニハ警部長殿 又ハ貴下
- 三 課僚ニシテ課長ヲ 所員ニシテ所長ヲ 署員ニシテ署長ヲ呼ブニハ課長殿 若クハ何課長殿 又ハ何警部殿 所長殿 若クハ何所長殿 全 署長殿 若クハ何署長殿 全
- 四 巡查雇員ヨリ警部 巡查部長ヲ呼フニハ何警部殿 何巡查部長殿
- 五 上官 下官ヲ呼フニハ總ヲ殿ヲ稱セス
- 六 同僚相呼フニ殿ヲ付スルト否ハ適宜タルヘシ警部ヨリ巡查部長ヲ呼フ亦全シ
- 七 尊稱々呼ハ第三ノ人ニ對話スルトキ亦之ヲ稱ス但第三ノ人自己ノ所屬部外ニ屬スルトキハ之ヲ稱スヘカラス

第五款 警察上人民待遇方

○警第二九〇號 二十二年二月十八日
警察上人民待遇ノ温威ハ宜ク勢態ノ進化ト伴ハサルヘカラス依テ茲ニ重ナル例ヲ掲ケ之カ方針ヲ示スコト左ノ如シ

- 一 行政警察上人民ニ對スルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ
何某殿又ハ何社御中
書面ノ宛ハ

- 言語ノ宛所ニ在ル人ハ
人民ト相對スルトキハ言語ハ
何某殿又ハ何某さん
おなた、はい等ノ類
- 二 前項ノ例ハ貸坐舖、娼妓、監視人等凡ソ社會ノ正面ニ立ツコト能ハサル者又ハ車夫、馭者、馬
丁、僕婢等下等人民及下等ノ社會等ニ適用スヘキ者ニアラス
- 三 行政警察上ト雖トモ人民ニ命令スル場合ハ必シモ第一項ノ例ニ泥ムヘカラス
- 四 行政警察上、喚出ニ應シ又ハ自ラ出頭シタル人民ハ空ク五分間以上停待セシムヘカラス若
シ此期限内ニ面接スルコト能ハサル事故アルトキハ其旨告知スヘシ
- 前項出頭シタル者ニ係ル事件ハ二時間以内ニ處置スヘシ若シ此期限内ニ處置スルコト能ハ
スト認ムルトキハ豫メ其旨ヲ告知シ二時間以上停待スルトキハ人民ノ自由ニ任スヘシ

第六款 官廳執務時間

○閣令第六號 廿五年十一月二十二日
各官廳執務時間自今左ノ通り改定ス

- 四月二十日ヨリ七月十日迄 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 七月十一日ヨリ九月十日迄 午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル
- 九月十一日ヨリ四月十九日迄 午前九時ヨリ午後五時ニ至ル
- 但シ土曜日日曜日ハ從前ノ通
- 事務繁劇ノ場合ニ於テハ上官ノ指揮ニ依リ晝夜ニ拘ハラヌ執務スベシ

第十二章 巡查薰陶

第一款 巡查教習規則標準

○内務部訓令第一二四號 十九年四月八日

自今新ニ召集スル巡查ハ其職務ニ服從セシムル前ニ於テ別紙教習規則標準ニ依リ粗ホ警察ノ要領ヲ訓授シ實務ヲ練習セシムルヘシ

(別紙)

巡查教習規則標準

- 第一條 巡查教習所ハ新募巡查ヲシテ其實務ヲ練習セシムル所トス
- 第二條 巡查教習所ハ警察本署内若クハ府縣廳所在地ノ警察署内ヘ設置スヘキモノトス
但便宜ニヨリ警察本署若クハ警察署ノ附屬舎ヲ以テ之ニ充ルヲ得
- 第三條 教師ハ警官練習所ニ於テ卒業シタル警部警部補ノ内一人若クハ二人ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス
- 第四條 授業ハ警察ノ職務ニ關スル要領ヲ示スモノトス其科目左ノ如シ
 - 一 巡查職務ノ本分並ニ服務紀律ノ大意
 - 一 衣類ノ着裝及帶劔ノ心得
 - 一 巡查懲罰例及賞與規則給助例ノ大意
 - 一 禮式及ヒ姿勢運動ノ作法
 - 一 緊要ナル取締規則ノ要領
 - 一 諸興行場其他ノ場所監視方ノ心得
 - 一 人民ニ對スル言語動作ノ心得
 - 一 非常警戒ノ心得
 - 一 遞傳護送ノ心得
 - 一 注意申報ノ心得
 - 一 警備警備ノ心得
 - 一 報告書其他公用文書記録方心得
 - 一 外國人取扱方ノ心得
 - 一 服務中告訴發受ケタル取扱方心得
 - 一 現行ノ重刑罪犯人アルヲ見聞シタル取扱方心得
 - 一 現行ノ違警罪犯人取扱方心得
- 第五條 新募巡查ハ定期間練習ヲ經タル者ニアラサレハ實務ニ從事セシムヘカラス
但シ非常警戒ヲ要スヘキ事アルトキハ本文ノ限ニアラスト雖モ先任巡查ノ部伍ニ編入スヘキ

(四七二)

ヲ要ス

- 第六條 教習ノ期限ハ一个月ヨリ短カラス二个月ヨリ長カラサルモノトス
- 第七條 授業時間ハ一日七時間ヨリ下ルヘカラス
但修業時間ノ外見習ノ爲メ先任巡查ノ部伍ニ編入シテ實務ニ服セシムルコトアルヘシ
- 第八條 教習期限ノ終ニ於テ修業ノ成績ヲ試験スヘキモノトス
- 第九條 試験ニ於テ及第シタル者ハ直ニ實務ニ服セシメ其落第シタル者ハ仍ホ一个月間練習セシメ更ニ試験ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第二款 巡查教習所設置

○本課第二十七號 十九年五月廿四日 警察本部
 巡查教習所ヲ設ケ其署ニ附屬セシム
 右相違候事

第三款 巡查教習所并教習規則

○訓令官第九十九號 明治二十六年十一月二十九日
 巡查教習所并教習規則左ノ通相定ム

- 第一章 構成及權限
- 第一條 巡查教習所ハ巡查タルヘキ者ヲ訓育練習スル所ニシテ警察部内ニ於テ之ヲ設ケ警察部長ノ直轄ニ屬セシム
- 第二條 巡查教習所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長 教官 教官補

(五七二)

- 第三條 所長ハ警部ヲ以テ之レニ充テ所中一切ノ事務ヲ統率セシム
- 第四條 教官(警部)並ニ教官補(巡查部長)ハ各一名トス所長ノ指揮ヲ承ケ訓練上一切ノ事務ヲ擔當ス

但教官補ハ本條擔當ノ外所内ノ庶務ニ從事スルモノトス
 受業生合宿心得教場心得等ハ所長ニ於テ之ヲ定メ警察部長ノ認可ヲ受クヘシ

- 第二章 教習課程
- 第六條 教習科目ハ左ノ如シ

一 實務
 二 操練 (點檢式及警察官吏禮式ヲ包含ス)

第七條 教習ノ課程方法及日課時間割ハ巡查教習所長警察部長ニ稟議シテ之ヲ定メ教場及休憩所ニ揭示スヘシ

第八條 教習ハ教官之ヲ口授シ受業生ヲシテ筆記セシメ又ハ應問等ヲ爲サシメ若クハ教官ヲシテ受業生ヲ引卒セシメ實地ニ就キ教習セシムルモノトス

第九條 操練ハ教官ノ指揮ニ從ヒ運動ヲ爲シ兼テ小操練ヲ授クルモノトス

第十條 教習期限ハ二ヶ月トシ二教習期ニ分ツ
 但巡查教習所長ハ受業生修業ノ成績ヲ案シ警察部長ニ稟議シテ本文期限ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條 授業時間ハ土曜日ヲ除キ毎日五時間以上トス

第十二條 授業生ノ休暇ハ試験成績調査日其他ハ一般官衙ノ例ニ依ル

第十三條 各教習期ノ終ニ於テ修業ノ成績ヲ試験スルモノトス

第十四條 試験ハ對策應問操練武術ノ四科ニ分チテ試験ス

(六七二)

第十五條 試験ノ方法ハ各科目ニ就キ巡查教習所長警察部長ニ稟議シテ之ヲ定メ試験執行前揭示スヘシ

第十六條 試験成績ノ評點ハ一課目毎ニ一百點ヲ以テ最高點トス

第十七條 試験ノ成績ハ優等及第落第ノ三種ニ分チ其成績ハ警察公報ニ掲載スルモノトス

一 優等 總點十分ノ九以上ヲ得タルモノ

一 及第 總點十分ノ六以上ヲ得タルモノ

一 落第 總點十分ノ六ニ達セサルモノ

第十八條 第一教習期ノ試験ニ於テ落第シタルモノハ數日間ノ猶豫ヲ與ヘ再試験ヲ受ケシメ又ハ時宜ニ依リ之ヲ受ケシメスシテ次期ノ課業ニ移ルコトヲ得セシムルコトアルヘシ

第十九條 第二教習期ノ試験ニ於テ及第シタルモノニハ卒業證書ヲ與ヘ優等ノモノニハ尙ホ褒狀ヲ附與ス

第二十條 第二教習期落第者ノ處分ハ巡查教習所長警察部長ニ具申シテ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條 卒業證書及褒狀授與ハ巡查教習所長ノ申請ニ依リ警察部長之ヲ授與スルモノトス

但警察部長不在ノトキハ巡查教習所長之ヲ授與スヘシ

第四款 巡查訓授例

○内務訓令第壹貳五號 十九年四月八日

新ニ召募スル巡查訓練ノ儀今回及訓令候處右ハ素トヨリ警察ノ大要ヲ領得セシムルニ止マルモノニ付キ其教習ヲ經テ現職ニ服シタル者ヲシテ仍ホ實務ニ練熟セシムル爲メ別紙標準ニ據リ訓授ヲ爲スヘシ

右訓令ス

(七七二)

巡查訓授例

第一條 警察署長警察分署長若クハ其代理官ハ巡查ヲシテ其實務ヲ習熟セシムル爲メ警察ニ關スル法律命令及ヒ該縣ノ取締規則其他ノ執務方法中緊要ナル條件ヲ訓授スヘキモノトス

第二條 訓授ハ毎朝點檢交代ノ際之ヲ爲スヘシ其時間ハ三十分間ヨリ少ナカルヘカラス

第三條 訓授ノ材料ハ別表記載ノ條件ヲ標準トシ之ヲ定ムヘキモノトス

| | |
|----------|---|
| 明治十九年三月調 | 何々縣警部氏名印 |
| 一 日 | 警察事務ノ要旨 |
| 二 日 | 巡邏巡察ノ際最注意スヘキ條件 |
| 三 日 | 行狀及心得ノ事 |
| 四 日 | 注意申報ノ心得 |
| 五 日 | 帶劔心得ノ要領 |
| 六 日 | 該地方長官ノ告達ニ係ル取締規則中緊要ナル條項 自何條至何條 |
| 七 日 | 警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中緊要ノ條件 |
| 八 日 | 集會條例及ヒ之ニ關スル告達中緊要ノ條項 自何條至何條或ハ何年 第何號達若クハ布告 |
| 九 日 | 嘯聚暴動及群集喧噪ノ警防方心得ノ事 |

| 警 | 察 | 署 | 巡 | 查 | 訓 |
|------|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 十日 | 傳染病豫防規則中ノ要領及檢疫心得 | | | | |
| 十一日 | 藥品取締規則及之ニ關スル告達中緊要ノ條項 | | | | |
| 十二日 | 爆發物取締規則中ノ要項 | | | | |
| 十三日 | 火藥取締規則中主要ノ條項 | | | | |
| 十四日 | 銃砲取締規則中ノ要項 | | | | |
| 十五日 | 警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官告達類中主要ノ條件應問 | | | | |
| 十六日 | 賭博犯處分規則及細則中緊要ノ條項 | | | | |
| 十七日 | 古物商及質屋條例並其細則中緊要ノ條項 | | | | |
| 十八日 | 出版條例寫真條例新聞條例中緊要ノ條項 | | | | |
| 十九日 | 度量衡取締規則要項 | | | | |
| 二十日 | 諸印紙稅規則中緊要ノ條項 | | | | |
| 二十一日 | 鳥獸獵規則中ノ要項 | | | | |
| 二十二日 | 警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中ノ要件 應問 | | | | |

| 授 | 表 |
|------|-----------------------------------|
| 二十三日 | 墓地埋葬取締規則中ノ要項 |
| 二十四日 | 水火風震等ノ變災ニ關スル心得方ノ要旨 |
| 二十五日 | 人命急變救援方心得ノ事 |
| 二十六日 | 難破船及漂流物取扱規則中緊要ノ條項 |
| 二十七日 | 遺失物取扱規則中ノ要項 |
| 二十八日 | 警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中重要ナル條件 |
| 二十九日 | 治罪法中巡查ニ必要ナル條項 |
| 卅日 | 別法中最注意ヲ要スヘキ條項 |
| 卅一日 | 教會講社祭典葬儀等取締方ノ要件 |

第五款 巡查訓授規則

○警起第二三二號 廿七年十月三十日
 巡查訓授ノ義ハ明治廿六年訓令官第百九號警察部署處務規程第八十九條ノ規定有之候處當分ノ内
 左ノ方法ニ依リ召集訓授セラルヘシ此段命ニ依リ訓示ス
 但署所在地受持巡查每朝ノ點檢訓授ハ尙從前ノ例ニ依ル
 巡查訓授規則

- 第一條 本則ハ巡查職務上ノ要件則チ執行務ノ方法並ニ心得其他禮式操練等ヲ訓練セシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 警察ニ關スル法律規則並ニ實際ノ執行務ニ就キテハ其方法並ニ心得方等ヲ訓授若クハ問ヲ設ケテ之ニ應答セシムルモノトス
- 第三條 訓授ハ署長之ヲ行フヘキト雖トモ署長不在ノ節ハ其職務ヲ代理スル者之ヲ行フモノトス
- 第四條 心術涵養ハ警察官吏ニ最モ肝要ナルヲ以テ署長訓授ノ際ハ特ニ此ニ注意スルヲ要ス
- 第五條 訓授ハ點檢ノ場所ニ於テ之ヲ行フヘシト雖トモ重要ノ訓授ヲ爲ス場合ハ椅卓ニ就キ筆記セシムルコトヲ得
- 第六條 訓授ノ大要ハ必ス筆記シ順次之ヲ編綴保存スルモノトス
但毎月訓授シタル要領月日並ニ訓授者ノ氏名ハ翌月五日マテ警部長ニ申報スヘシ
- 第七條 禮式ハ言語動作ノ端肅ヲ主トシ操練ハ姿勢嚴正ニシテ動作ノ慎重ナルヲ主トシ訓練セシムル者トス
- 第八條 訓授召集ハ警察署所在地並ニ一里以内ニ在ル受持巡查ハ毎周一回以上其他ノ受持巡查ハ各聯合區ヲ甲乙二部ニ分チ各部隔周ニ一回以上トシ其日時場所ハ署長之ヲ指定スルモノトス
- 第九條 召集ハ可成午前ニ之ヲ行ヒ當日出席即日歸所セシムヘキモノトス
- 第十條 一日ニ往復シ難キ駐在所ハ豫メ警部長ノ認可ヲ得テ宿泊セシムルコトヲ得
但四回ノ内三回迄ハ未明ニ出發歸所セシムヘシ
- 第十一條 署長ハ定期召集ノ外時々署内又ハ便宜ノ地ニ非常召集ヲ試ミ非常ニ際スル心得其他緊要ノ事項ヲ訓授應答セシメ巡查ヲシテ常ニ警戒ノ意ヲ怠ラシメサルヲ要ス
但此場合ハ定期召集ヲ減スルコトヲ得

第六款 巡查練習概則

○本縣監第六十一號 十九年五月三日
巡查職務ヲ全フセシムル爲別紙練習概則ニ據リ非番ノ者ヲシテ研究セシムヘシ此旨及達候也
(別紙)

巡查練習概則

- 第一條 巡查練習ヲ分チ左ノ三科トス
 - 第一科 法律規則 一 作文 一 警察ノ要旨 但警察要書并司法警察規則ノ類 一 經史
 - 第二科 捕繩法 一 擊劍 一 柔術 一 水練
 - 第三科 英語
- 第二條 警察署長分署長及警部警部補ハ之ヲ教諭スルモノトス尤巡查ノ内人撰補助セシムルモ妨ナシ
- 第三條 但教師ヲシテ教授セシムル片ハ格別トス
練習ハ非番ノ者ニ限ルヘシ
但當直ト雖モ休息時間ニ出席スルハ隨意トス
- 第四條 練習ハ一日第一第二科各一項以上ヲ修メ其時間ハ四時間ヨリ少カラサルモノトス
- 第五條 水練ハ七月十日ヨリ九月十日マテ毎日其時間ハ四時間トス
但水練中ハ他ノ練修ハ休業トス
- 第六條 土曜日日曜日ハ休業トス
- 第七條 疾病其他正當ノ事故ニヨリ欠席スル片ハ署長ニ届出認可ヲ請フヘシ
- 第八條 練習ニ關スル費用ハ自辨トス

第九條 細則方法ハ署長之ヲ定ムヘシ

第七款 巡查職務練習會練習科目及評點法

○教訓第七二號 二十三年三月四日

巡查職務練習會練習科目及評點法左ノ通り内定ス

練習科目

- 一 對策 (設問起案) 二 應問 (口頭答辯)
- 三 劍術 (試合又ハ形) 四 柔術 (捕合又ハ形又ハ捕繩用法)
- 五 點檢 (職務上携帶スヘキ器具及被服等ノ検査)

評點法

- 一 一科目ノ問點ヲ一百トシ合計滿點ヲ五百トス其ノ四百五十點以上ノモノヲ優等トス
- 一 對策ハ立論正確文字鮮明ニシテ其主旨問題ニ的中スルモノヲ滿點トス
- 一 應問ハ言語明晰應答流暢ニシテ問題ニ的中スルモノヲ滿點トス
- 一 劍術ハ精神確固姿勢嚴格ニシテ操刀ノ運用ニ長シタルモノヲ滿點トス
- 一 柔術ハ精神確固姿勢完備ニシテ技術ノ應用ニ熟シタルモノヲ滿點トス
- 一 點檢ハ動止號令ニ據リ式ノ次第ヲ違ヘス被服並ニ諸般ノ器具保存上ノ注意周到ナルモノヲ滿點トス

時宜ニ依リ禮式、構外小操練ヲ練習セシメ點檢ト通算評點スルヲ得

第八款 竹刀寸法

○本縣監第七十二号 十八年七月十日

竹刀寸法量目ノ義自今左ノ通相定候條制限外ノモノ相用サル様取締可有之此旨及達候也

- 一 竹刀寸法 曲量目
- 一 四尺迄 但目方制限ナシ
- 一 四尺以上四尺二寸迄 但目方百七十匁以上

第十三章 禮式

第一款 警察禮式

○内務省訓令第十五號 二十四年八月十日

廳 府 縣 鐵道 除ク

警察禮式左ノ通り相定ム 但明治十九年當省訓令第十九號ハ自今廢止ス

警察禮式

- 第一條 警察官吏ニシテ定制ノ服裝ヲ爲シタルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス
- 第二條 本禮式中上官ト稱スルハ巡查ノ警部以上、警視警部長以上、警視警部長ノ警視總監北海道長官府縣知事ニ於ケルヲ云フ但署員ノ其署長ニ於ケル亦同シ
- 第三條 禮式ハ定制ノ服裝ヲナセシ人ニ行フヲ正例トス然レトモ單獨ノ禮式ハ服裝ノ如何ニ拘ハラヌ上官タルコトヲ認知シタルトキハ成可ク之ヲ行フヘシ
- 第四條 大禮服又ハ制服ヲ著シ勳章ヲ佩用シタル者ニハ其官職ノ如何ヲ問ハス成可ク敬禮ヲ行フヘシ
- 第五條 職務執行ノ爲メ止ヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ必ス禮式ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班ハ互ニ禮式ヲ行フヘシ但答禮ハ時宜ニヨリ畧スルモ妨ナシ
- 第六條 禮式ヲ別テ室内ノ最敬禮敬禮、室外ノ最敬禮敬禮トス室内トハ居室事務室應接所等ニシテ廊下階段厨等ノ如キハ室外トス
- 第七條 室内ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシメ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ但シ佩刀セザルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

- 第七條 室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ正面シ姿勢ヲ正シ其限ニ注目シ右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握ルヘシ但佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ
- 第八條 室外ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍々外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ敬スヘキ人ニ注目スヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ
- 第九條 室外ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握ルヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ
- 第十條 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ
- 外國ノ皇帝皇后及ヒ皇族ニ於ケルモ亦前項ニ同シ
- 第十一條 内閣總理大臣各省大臣正式勅使及ヒ上官ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ
- 各國公使タルコトヲ認知シタルトキハ亦前項ニ同シ
- 第十二條 儀式祭典等ノ爲メ其場所ニ整列セルトキハ 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太子孫妃皇族ニ對シ又ハ其儀式祭典ニ就キ禮式ヲ行フノ外總テ敬禮セサルモノトス
- 第十三條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行フヘシ
- 第十四條 警衛、消防、囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ禮式ヲ行フ限リニアラス
- 第十五條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ一手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當テヘシ但シ巡查步行中ナルトキハ停止シテ敬禮ノ意ヲ表スヘシ
- 第十六條 職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキハ之ニ答禮スベキモノトス
- 第十七條 敬禮ハ階級ノ異ナル人二人以上ニ對シテハ其最高級ノ人ニ對向シ行フモノトス
- 前項ノ場合ニ於テハ上官皆答禮ヲ行フヘシ
- 第十八條 官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘシ但下班ノ者ノ室内ニハ脱帽セサルモ妨ケナシ

- 第十九條 兩陛下ニ拜謁スルトキハ 御室ニ入り一タヒ最敬禮シ更ニ 玉座ヲ離ル、コト凡ツ五歩ノ所ニ進ミニタヒ最敬禮ヲ行ヒ其儘二三歩退歩シ右回轉ヲナシ御室ノ出口ニ於テニタヒ最敬禮シ然ル後退去ス可シ但特ニ式アルトキハ此限ニアラス
- 太皇太后 皇太后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族並ニ外國皇帝皇后皇族ニ謁見スルトキハ亦前項ニ同シ
- 第二十條 上官ノ室内ニ入ラントスルトキハ其入口ニ直立シ來意ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ上官入室ヲ許ストキハ其席ヲ離ル、コト凡三四歩ノ所ニ於テ敬禮スヘシ若シ數名アルトキハ先ツ其最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スヘキモノトス其居室ヲ去ルトキ亦同シ
- 第二十一條 官記位記勳記辭令書ノ類ヲ受クルトキハ授與者ノ席ヲ離ル、コト凡三四歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ
- 第二十二條 室内ニ於テ上官ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ前條ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ若シ返簡又ハ領收等ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ
- 上官ヨリ命令諭告等ヲ承ケ或ハ事ヲ上官ニ陳述スルトキハ亦前項ニ同シ
- 第二十三條 上官居室ニ來ルトキハ一同椅子ヲ離レテ敬禮スヘシ而シテ其關係アル者ノ外ハ一旦敬禮ノ後著席シテ各其事ニ服シ上官居室ヲ去ルトキハ復タ敬禮ヲ行フヘシ
- 第二十四條 同班又ハ下班ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同班ナレバ椅子ヲ離レテ敬禮シ下班ナレバ其儘答禮スヘシ
- 第二十五條 室内ニ於テ公事ヲ談スルトキハ下班ノ者ハ椅子ヲ離レテ立テ姿勢ヲ正スヘシ但上官許可スレハ著席スルモ妨ケナシ
- 第二十六條 上官ノ者下班ノ者ノ居室ニ入ルトキ著帽ノ儘ナレバ答禮ハ舉手注目シ脱帽ナレバ只

之ニ注目シ答禮ノ意ヲ表スヘシ

第二十七條 宴會集會等總テ公會ニ於テ上官ト同席スルトキハ之ニ注意ヲ加ヘ先ニ椅子ニ倚ルコトナク先ニ食卓ニ就クコトナク先ニ食卓ヲ離ルコトナク先ニ喫烟スルコトナキヲ禮トス但シ上官ノ許可アルトキハ此ノ限リニアラス

第二十八條 行幸 行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍々前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面シ車駕五六歩前ニ近クトキ最敬禮ヲ行ヒ五六歩過キ去ル迄其姿勢ヲ保ツヘシ皇族及外國ノ皇帝皇后皇族ニ於ケル亦同シ

前項ノ場合ニ於テ馬上ニアルトキハ其儘馬ヲ駐メ正面シ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ韁ヲ縮メテ馬首ヲ擧ケ乘車ナルトキハ下車スヘシ

第二十九條 上官ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ姿勢ヲ正シ敬禮ス可シ但巡查ハ上官ヲ距ル三四歩前ニ停止シ本文ノ敬禮ヲ爲スヘシ

第三十條 駐立ノ際上官其傍ヲ通過スルトキハ上官ノ方ニ正面シ敬禮ヲ行フヘシ其駐立シアル上官ノ許ニ至ルトキハ上官ヲ離ル、三四歩ノ所ニ止リ敬禮ヲ行フヘキモノトス

第三十一條 乘馬ニテ馳歩若クハ速歩ヲ以テ行進中上官ニ遇フトキハ先ツ常歩ニ移シ敬禮ヲ行フヘシ若シ後方ヨリ來リテ先ニ行カントスルトキハ其旨ヲ陳ヘ然ル後馳歩若クハ速歩ニ復スヘシ但至急ノ公務ヲ帶ヒタルトキハ其由ヲ告ケ常歩ニ移サ、ルモ妨ケナシ

第三十二條 乘車ニテ上官ニ遇フトキハ乘車ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フモ妨ケナシト雖モ後方ヨリ來リテ先ニ行カント欲スルトキハ其旨ヲ陳ヘ然ル後通過スヘシ

第三十三條 室外ニ於テ上官ヨリ書類其他物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈セントスルトキハ第三十條後段ノ項ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ呈スヘシ若シ受クル所ノ物其場ニ於テ披見スルヲ要スレハ左手ヲ副テ披見スヘシ返簡又ハ領證ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ

上官ヨリ命令諭告等ヲ承ケ或ハ事ヲ上官ニ陳述セントスルトキ亦前項ニ同シ

第三十四條 警察官吏ノ葬式ニ行遇フトキハ其櫃ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第三十五條 上官ト同行スルトキハ其左側或ハ後方ニ就クヲ禮トスレトモ爲メニ上官ニ不便ヲ與ヘ若クハ危險ノ恐れアルトキハ宜キニ應シ右側ニ就クモ妨ケナシ但シ誘導者ハ左側若クハ後方ニ就クノ限リニアラス

第三十六條 狹隘ノ道路橋梁又ハ廊下階子段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ立止リテ其通過ヲ待ツヘシ若シ既ニ進行中ナルトキハ便宜立戻リ上官ヲシテ己レノ通過ヲ待タシメサルヲ禮トス

第三十七條 警視廳消防官吏ハ本式ニ依リ各身分相當ノ禮式ヲ行フヘシ

第二款 新年并三大節賀表書式

○宮内省達第十二號 十九年十月十八日
 新年紀元節天長節賀表書式左之通改正ス

賀表書式

- 一 書式ヲ別テ四種トス 第一ハ准奏任以上第二ハ非役有爵者同從六位以上同勳六等以上ノ賀表書式トス其第三判任官准判任第四ハ非役正七位以下同勳七等以下ノ參賀言上書式トス其料紙ハ大奉書ヲ用ユ可シ但便宜ニ依リ美濃紙薄葉ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ
- 一 賀表ハ新年ニ朝拜シ又ハ新年紀元節天長節ニ宮内省ニ參賀シ得ヘキ身分ニシテ他所出張或ハ在勤在住ノ者ハ書式ノ通り認メ直ニ式部職ヲ經テ上ル可シ但シ奏任官並准奏任ハ連名ヲ以テ上ルモ便宜タル可シ
- 一 判任官准判任ハ所屬廳ニ參賀ス可シ内閣省元老院府縣各廳ノ長官(臨時建築局ハ總裁内閣中會計検査院鐵道局ハ其長官)ハ所轄判任官ノ參賀及出張若クハ各所在勤者ノ賀表ヲ受ケ參賀言上書式ノ通り認メ式部職ヲ經テ上ル可シ其所屬廳ニ參賀又ハ賀表差出サセ方ハ各

一 應ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ但シ郵送スル賀表ヲ取纏ル爲メ時日ヲ要スル時ハ數日ノ後言上スルモ妨ケナシ
 一 陸海軍兵卒生徒等ニシテ正七位以下勳七等以下ヲ有スル者ハ總テ本項ノ例ニ准シ書式ノ通り認テ上ル可シ
 一 神官判任ハ其長官ニテ參賀ヲ受ケ書式ノ通り認メ式部職ヲ經テ上ル可シ若長官不在ニシテ代理者判任ナル時ハ一同直ニ内務省へ賀表ヲ差出シ同省ヨリ第三書式ニ准シ認メ上ル可シ
 一 北海道廳判任官在京ノ節ハ内閣へ地方判任官神官判任在京ノ節ハ内務省へ參賀シ又判任官ニシテ其長官ニ從ヒ他所出張中ハ長官參賀ヲ受ケ書式ノ通り認メ上ル可シ
 一 非役正七位以下勳七等以下ノ者ハ所在地方廳へ參賀シ該廳懸隔ノ地ニ在ル者ハ賀表ヲ差出ス可シ其賀表書式並差出サセ方ハ地方廳ノ適宜ニ依ル尤其廳長官ヨリ書式ノ通り認メ上ル事第三項ノ例ニ准ス
 一 有爵者及從六位以上勳六等以上ニシテ判任官奉職ノ者ハ第二書式ニ依リ認メ上ル可シ又正七位以下勳七等以下ニシテ等外或ハ雇等ノ名義ヲ以テ官廳ニ使用セラル、者ハ所在地方廳ニ參賀ス可シ該廳懸隔ノ地ニ在ル者ハ第六項ニ准ス
 一 祝節ニ當リ艦船ニ乗組又ハ航海中ノ者ハ賀表ヲ上ルニ及ハス
 第一書式
 第二書式

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| | | |
|--|---------------------|----------------|
| | 謹奉賀新年 紀元節 天長節 | 年月日 官位勳爵苗字名 |
|--|---------------------|----------------|

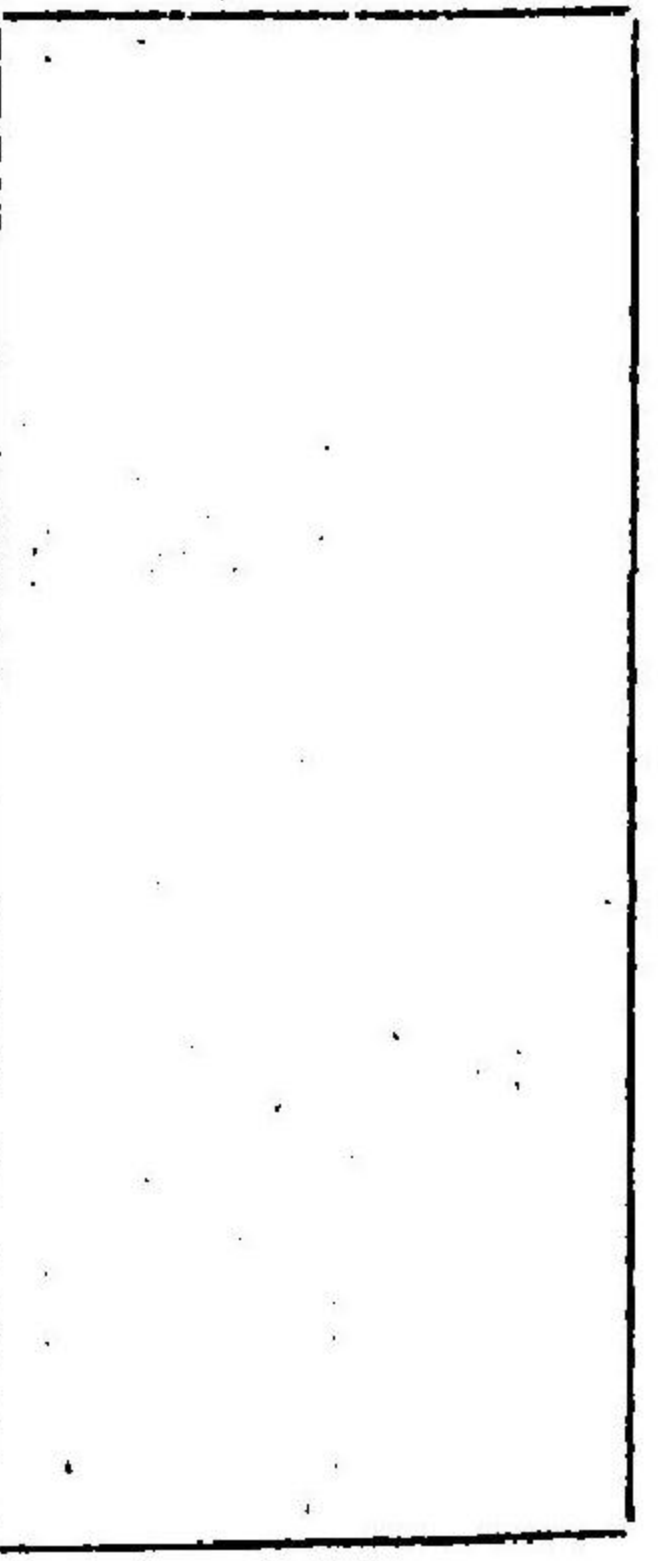
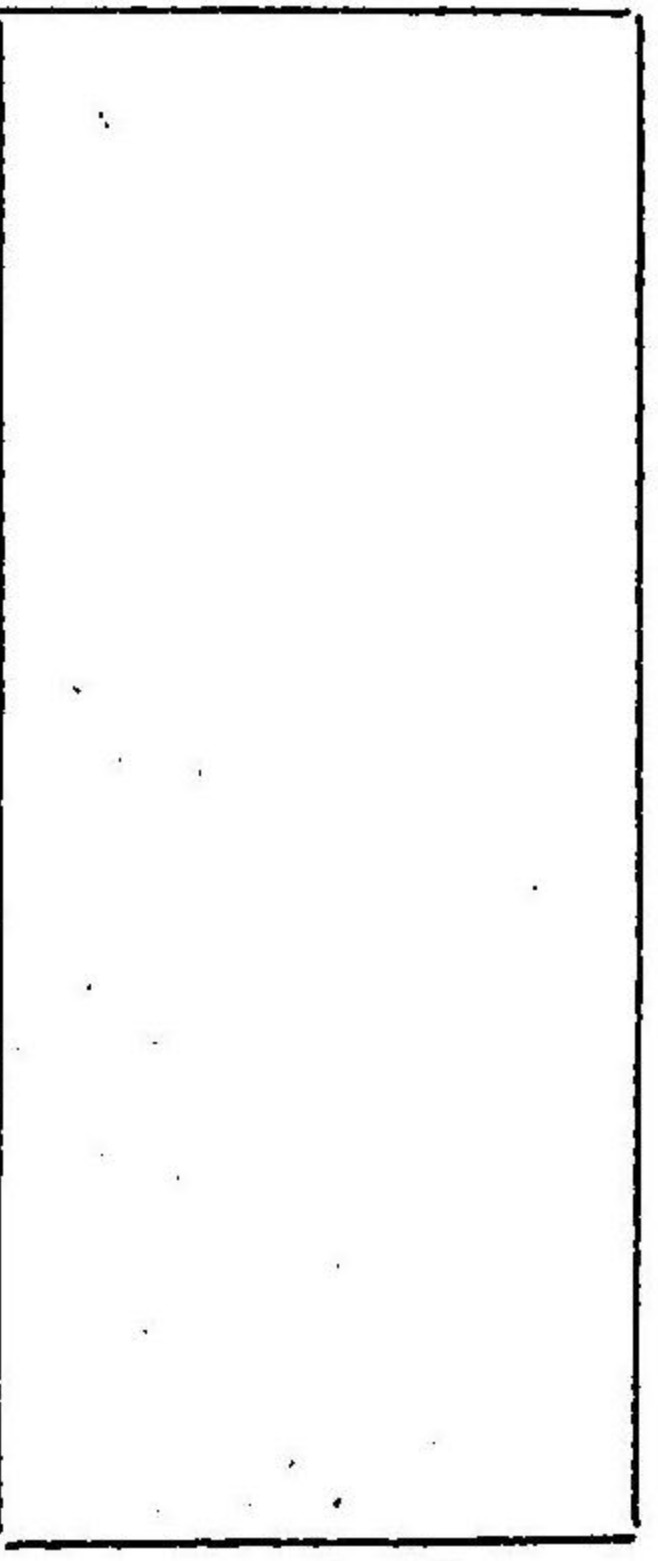
| | | |
|--|----------------------|---------------|
| | 謹奉賀新年 〃 〃 〃 | 年月日 位勳爵苗字名 |
|--|----------------------|---------------|

第三書式

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>賀相受此段及言上候也</p> <p>年月日 長官苗字名</p> | <p>新年 紀元節ニ付(内閣)省(院)(廳)(府)(縣) 天長節 (某神社)判任官准判任 (在京北 判任在京地方判任在 海道廳 京神官判任、隨從判任) 一同 參</p> |
|------------------------------------|--|

第四書式

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>賀相受此段及言上候也</p> <p>年月日 長官苗字名</p> | <p>新年 紀元節ニ付(兵卒生徒等管内非役) 天長節 正七位以下勳七等以下ノ輩一同之 參賀相受此段及言上候也</p> |
|------------------------------------|--|



○警第五七號 廿七年二月七日
在地方判任官以下ニシテ有位帶勳ノ輩ニ大節賀表差出候節ハ非役同様賀表書式中第二書式ニ依
リ差出スヘキ儀ニ有之候處 往々官名ヲ記載セル者有之不都合ノ趣ニ付右等ノ儀無之様豫テ課
(所)(署)員ニ示諭シ置カルヘシ

第二款 國旗掲揚定日

○本庶第四百十號 九年十二月廿七日
御祝日等之節御國旗掲揚定日明治七年十二月當廳甲第百廿九號ヲ以テ豊後國內へ相達置候處今般
左ノ通改定候條此旨相達候事

| | | | | | |
|-------|-------|-----------------------------------|--------|-------|-------|
| 元旦 | 一月一日 | 元始祭 | 一月三日 | 孝明天皇祭 | 一月三十日 |
| 紀元節 | 二月十一日 | 神武天皇祭 | 四月三日 | 神嘗祭 | 九月十七日 |
| 天長節 | 十一月三日 | 新嘗祭 | 十一月廿三日 | 春季皇靈祭 | 春分日 |
| 秋季皇靈祭 | 秋分日 | 春秋季皇靈祭ハ明治十一年九月十 二日庶連第八拾壹號ヲ以テ追加 | | | |

右掲揚定日トス尤臨時掲表スヘキ節ハ其時々相達スヘシ

第十四章 服裝及携帶品

| | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|------|------|--------|-------|
| 衣 | | | | 帽 | | | |
| 消防機關士 | 消防司令補 | 消防司令 | 警部補 | 警部 | 副總監 | 消防司令副長 | 消防司令長 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 分線一小 | 同 | 五線一分 | 金大織 | 平織 | 上側線ハ | 次幅五分 | 次幅五分 |
| 襟下地緋絨 | 小緣ハ | 小緣ハ | 上側線ハ | 上側線ハ | 上側線ハ | 次幅五分 | 次幅五分 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 小各ノ線 | ノ中シ | ノ上上 | 又シ長 | フシ長 | 小線三 | ハ線三 | ハ線三 |
| ノ寸ト | ヨ幅マ | ハヨハ | ハヨハ | ハヨハ | ハヨハ | ハヨハ | ハヨハ |
| ノ間ハ | ハ左 | ハ右 | ハ右 | ハ右 | ハ右 | ハ右 | ハ右 |
| 各 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |

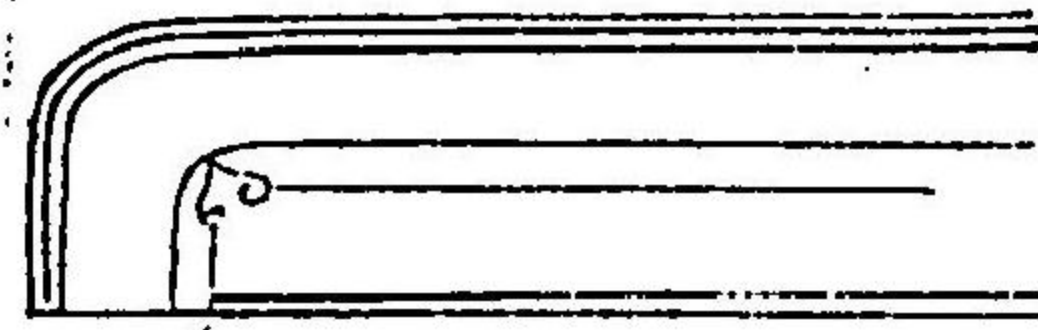
| | | | |
|------|----|---------|---------|
| 正 | 名 | 帽 | |
| 總 | 稱 | 消防機關士 | 消防司令補 |
| 監 | 地質 | 同 | 同 |
| 絨濃紺 | 卸 | 同 | 同 |
| 分徑厘五 | 品質 | 同 | 同 |
| 五小 | 襟 | 同 | 同 |
| 分徑厘五 | 裝 | 同 | 同 |
| 五小 | 式 | 同 | 同 |
| 分徑厘五 | 品質 | 同 | 同 |
| 五小 | 袖 | 頂端線同 | 頂端線同 |
| 分徑厘五 | 裝 | 大線幅八分二條 | 小線幅一分一條 |
| 五小 | 式 | 同 | 同 |
| 分徑厘五 | 製 | 頂端線同 | 頂端線同 |
| 五小 | 式 | 同 | 同 |
| 分徑厘五 | 形狀 | 同 | 同 |
| 五小 | | 同 | 同 |

| 帶 | 飾 | 名 | 肩 | 名 |
|--------|------------|--------|--------|--------|
| 消防司令副長 | 消防部副總長 | 消防司令副長 | 消防部副總長 | 消防司令副長 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 同上 | 略日章ヲ附セス其他ハ | 同上 | 同上 | 同上 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |

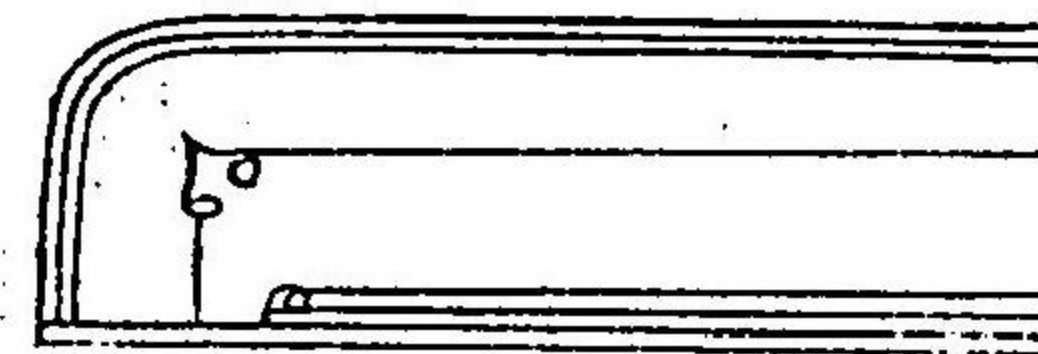
| 覆日 | 袴夏 | 衣夏 | 套外種乙 | 套外種 |
|-----|-------------|---------------------|---------|---------|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 薄白布 | 同 | 白布 | 同 | 同 |
| | 製式袴ニ同シ但側章ナシ | 白色組絲品質適宜 | 胸部三箇ヲ附ス | 黑角徑五分五厘 |
| | | 白色組絲品質適宜 | | 黑角徑五分五厘 |
| | | 品質適宜 | | 黑角徑五分五厘 |
| | | 同シ | | 黑角徑五分五厘 |
| | | 常衣ニ | | 黑角徑五分五厘 |
| | | 但全邊ノ毛線ヲ白六分幅ノ杉打線ニ換フス | | 黑角徑五分五厘 |
| 如圖 | 同 | 同 | 如圖 | 如圖 |

衣 正

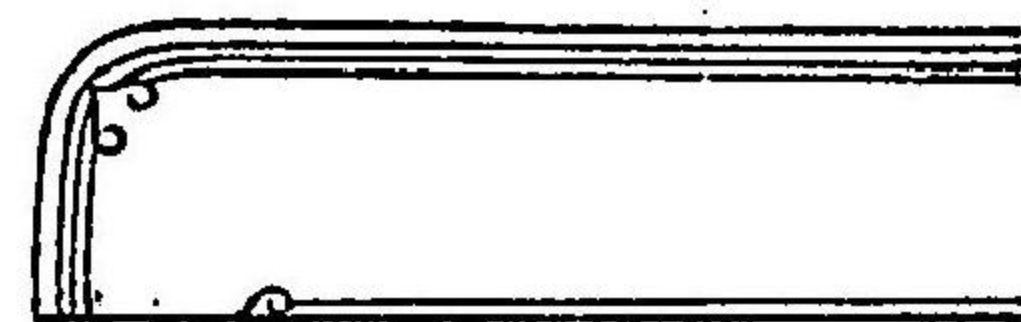
監 總



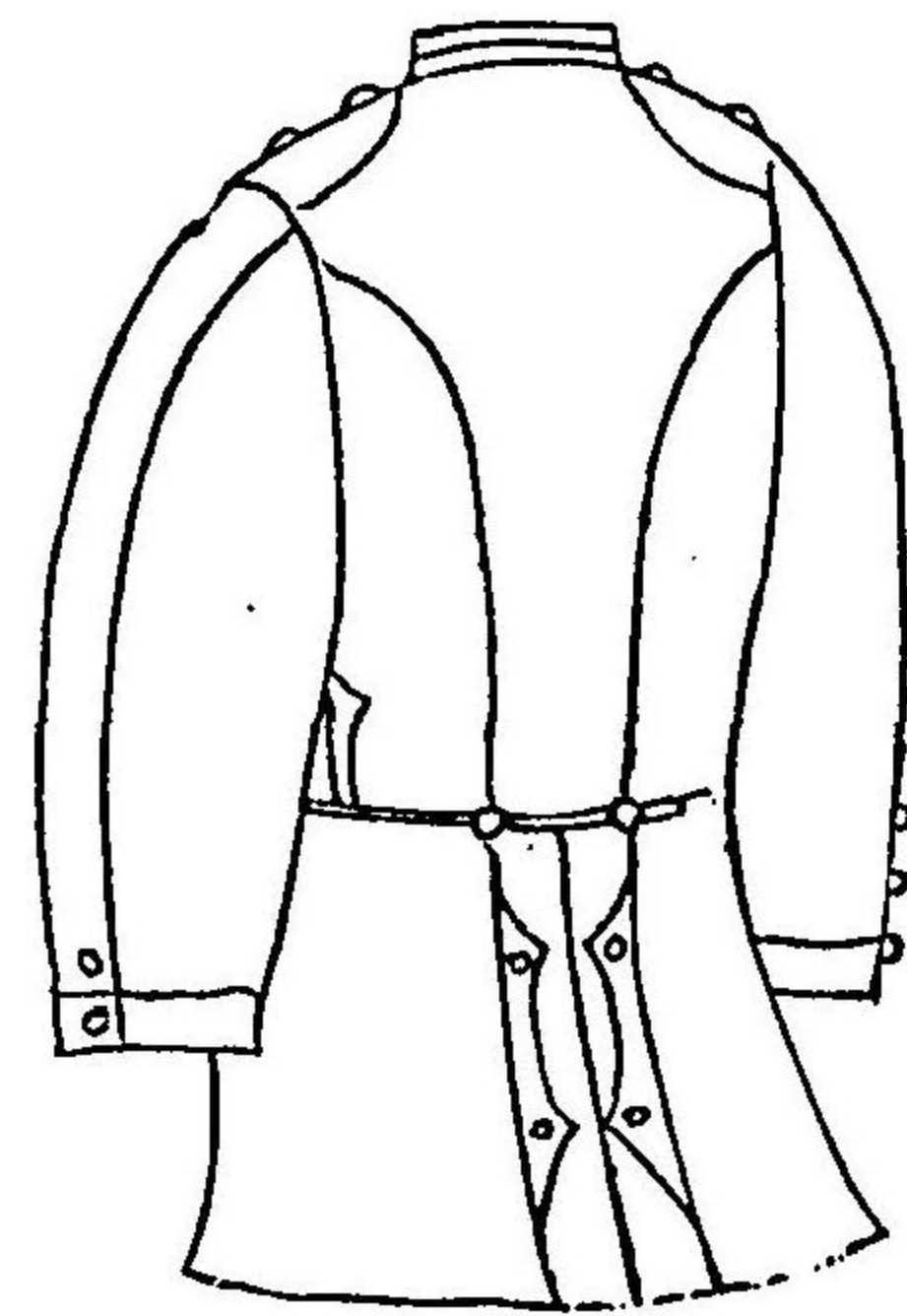
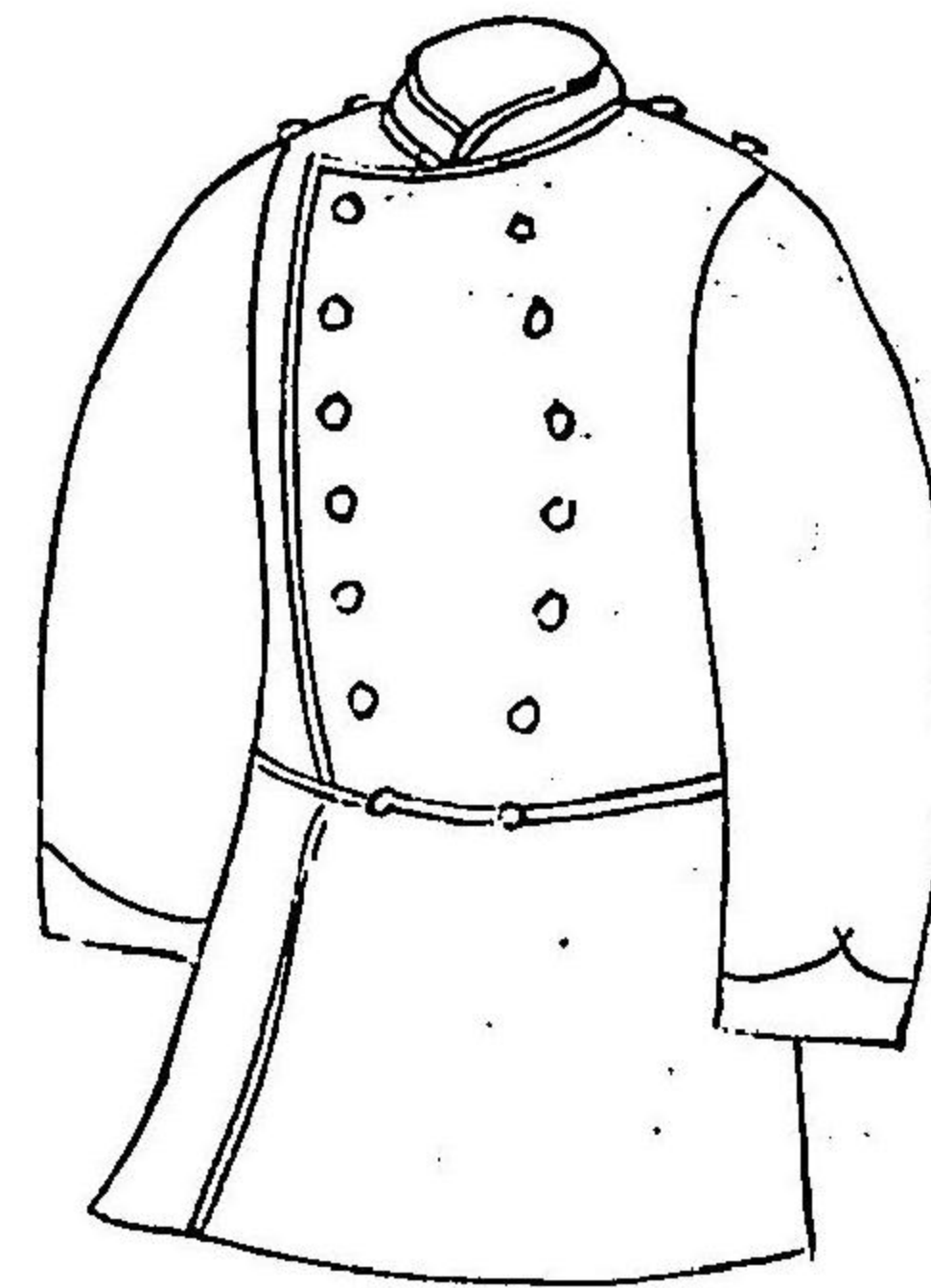
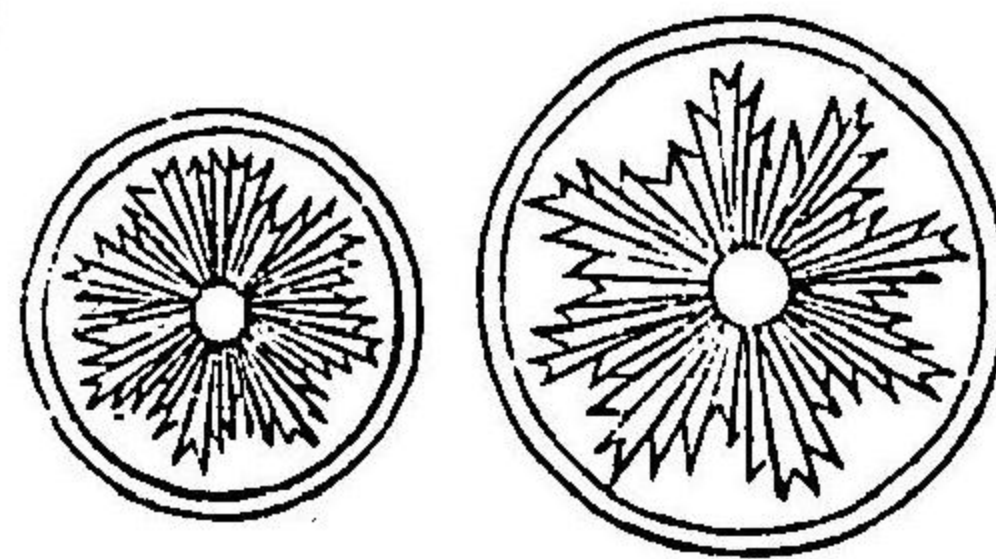
長司正消部視監副
令副防長警警總



關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警

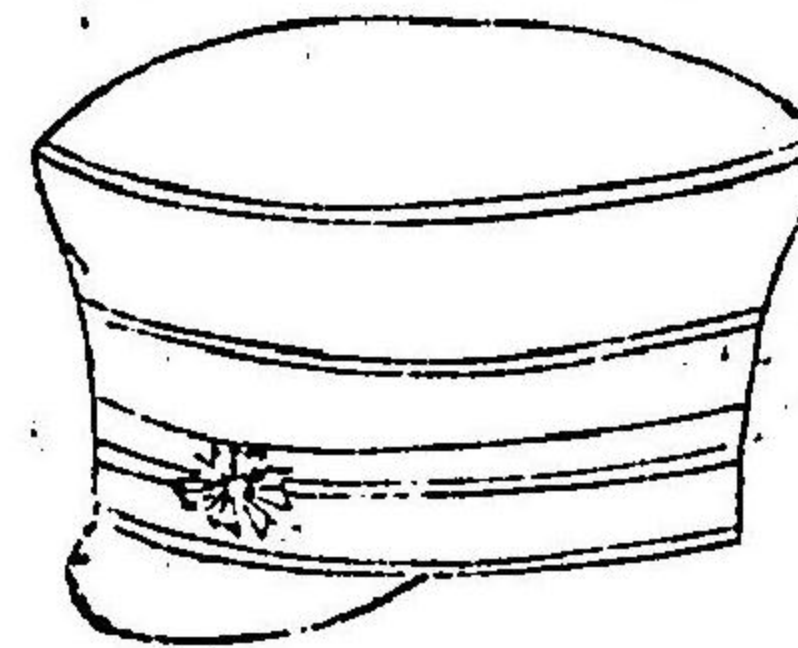


釦



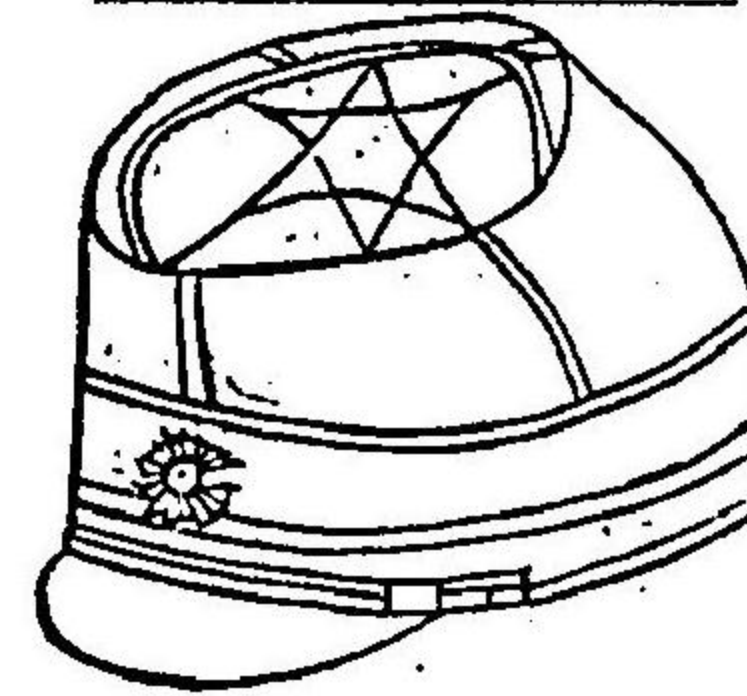
帽 常 帽 正

監 總

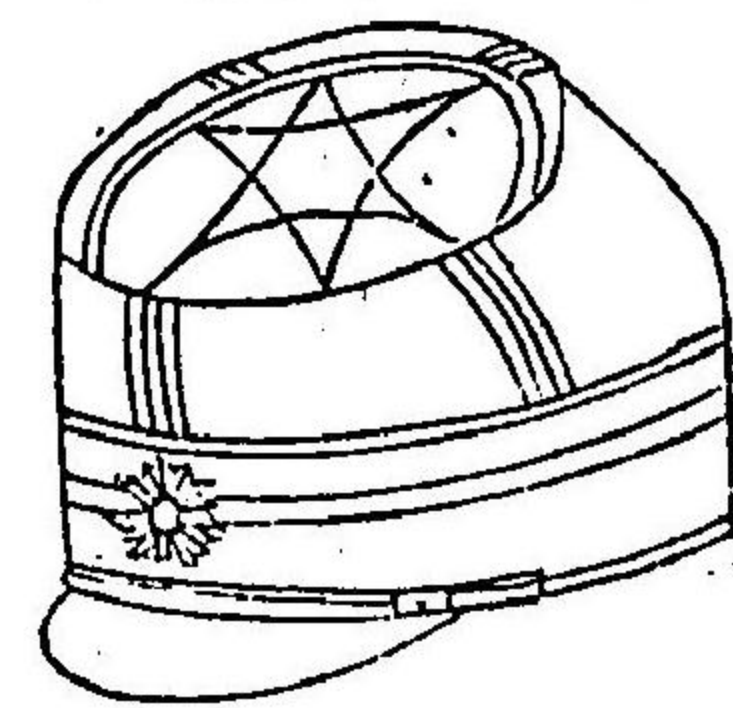


長司正消部視監副
令副防長警警總

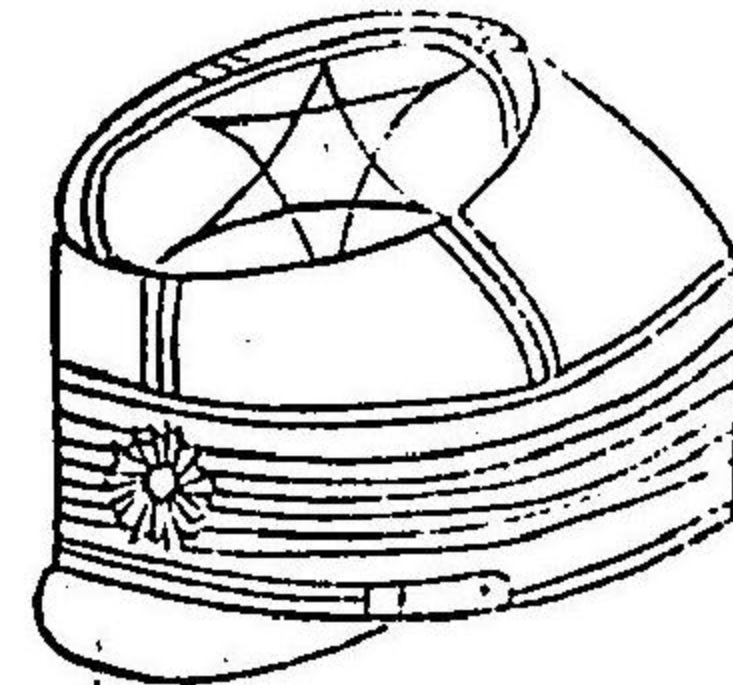
關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警



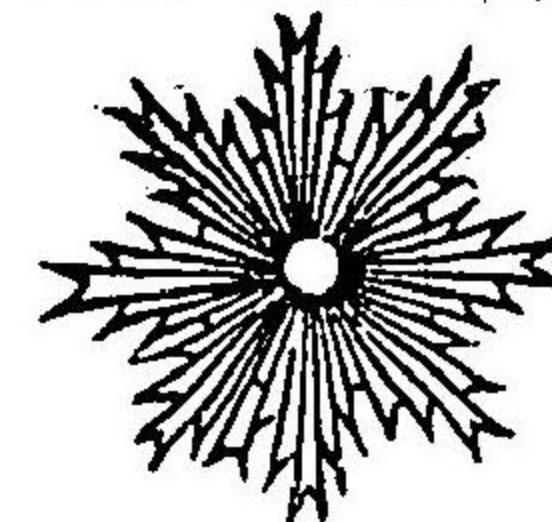
監 總



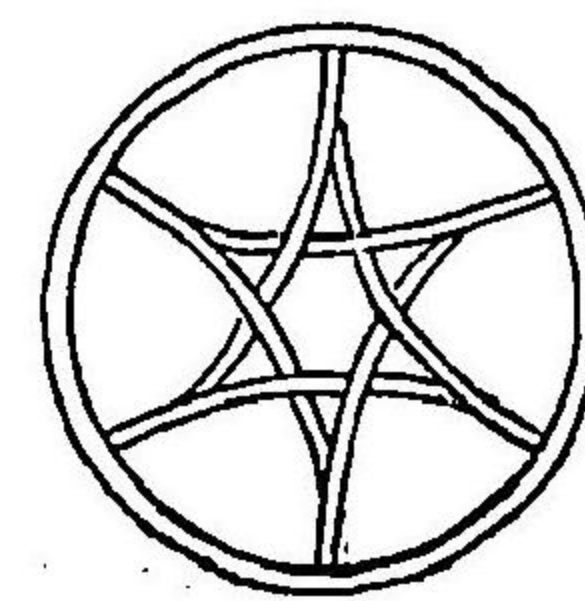
監 總 副



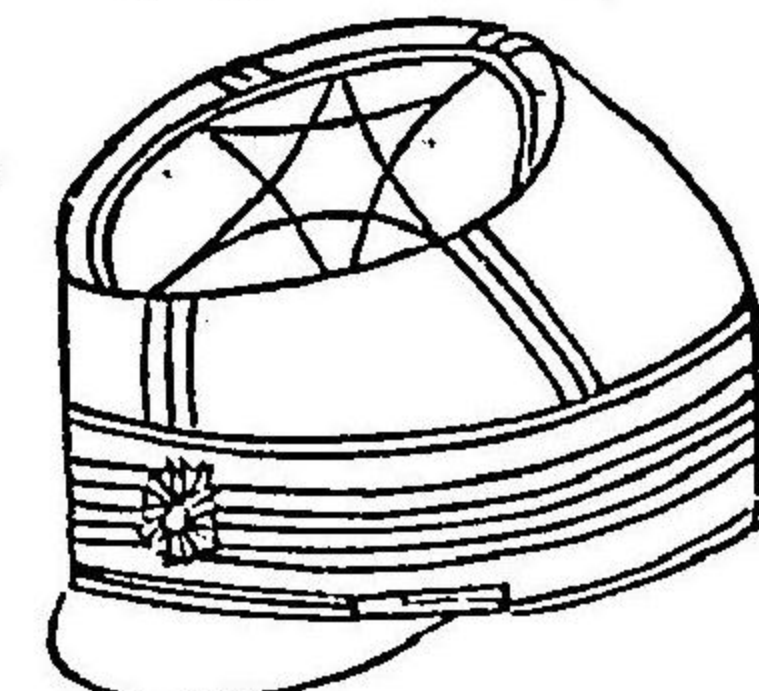
章 日



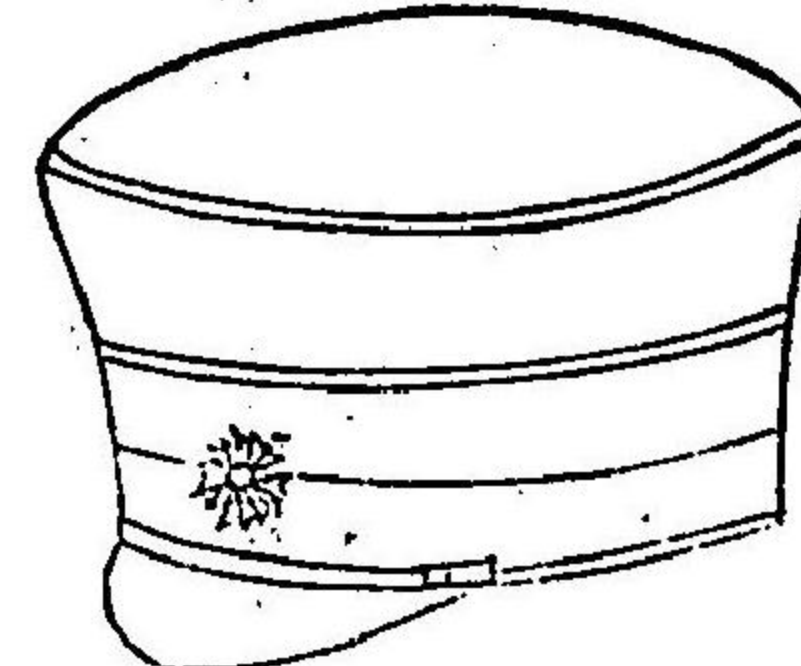
章 上 頂



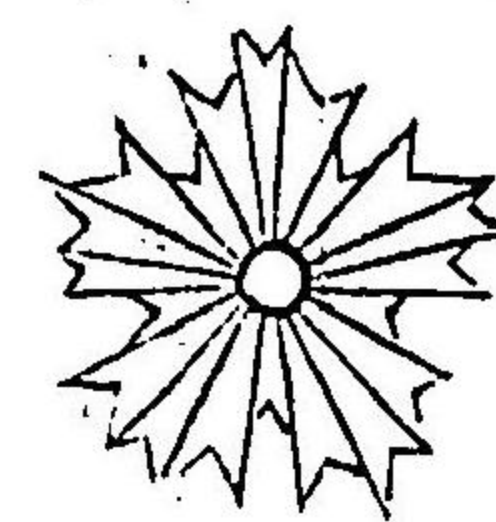
長消視以奏
防警上任
司部ノ四
令長警等



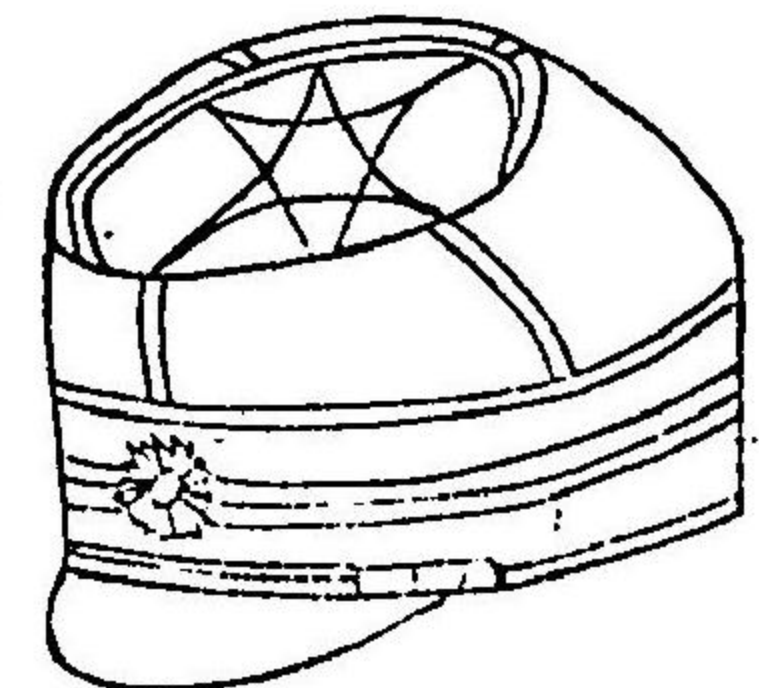
關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警



章 日 略

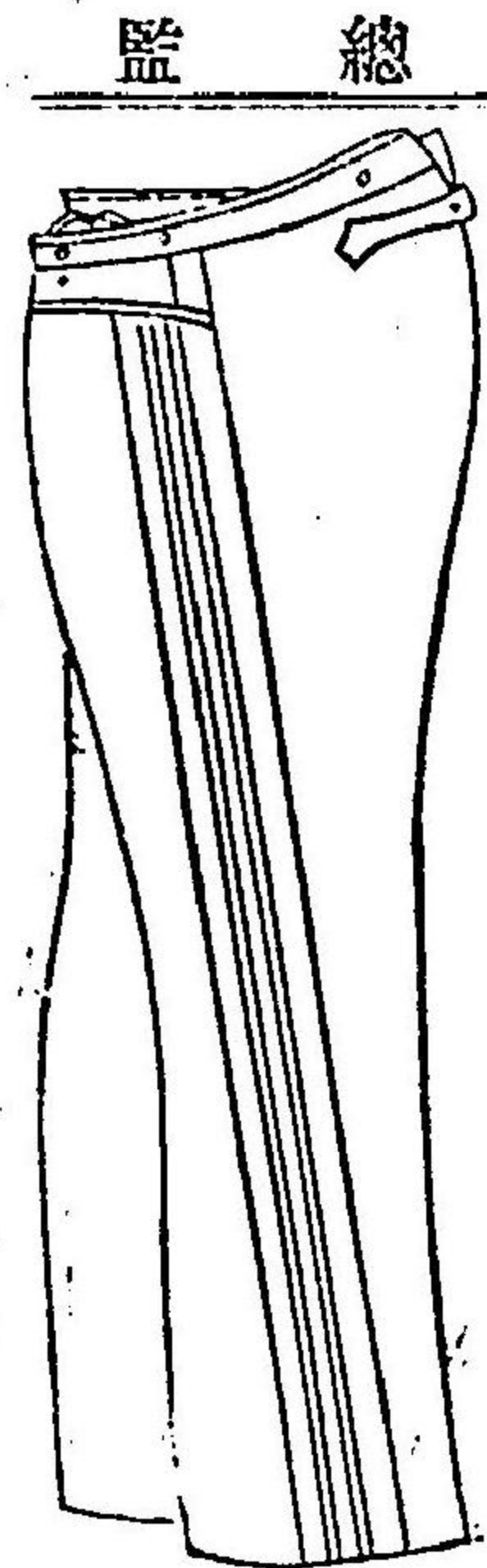


令消警ノ等奏
副防部警以任
長司長視下五

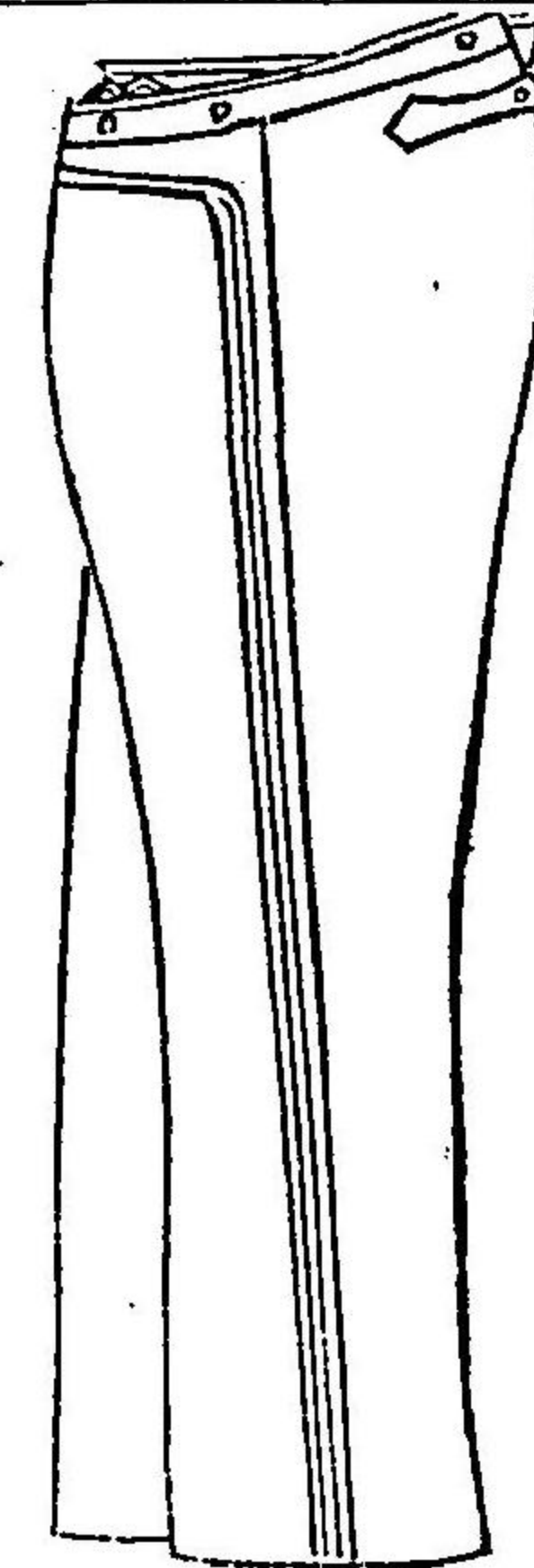


(三〇三)

袴常正

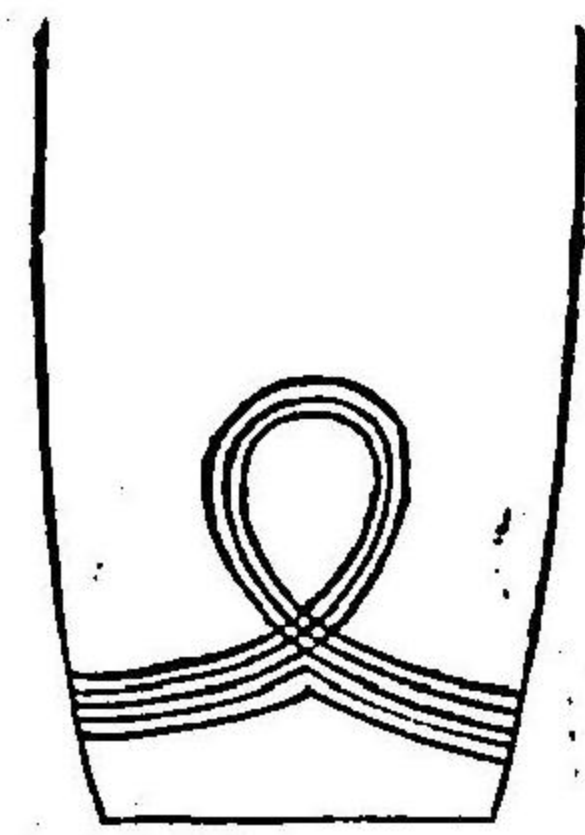


長司正消部視監副
令副防長警警總

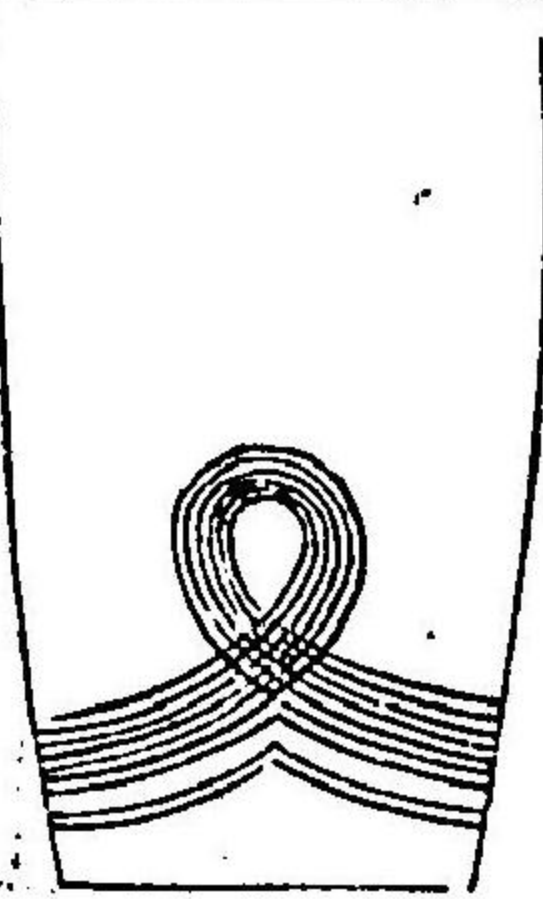


章袖衣常

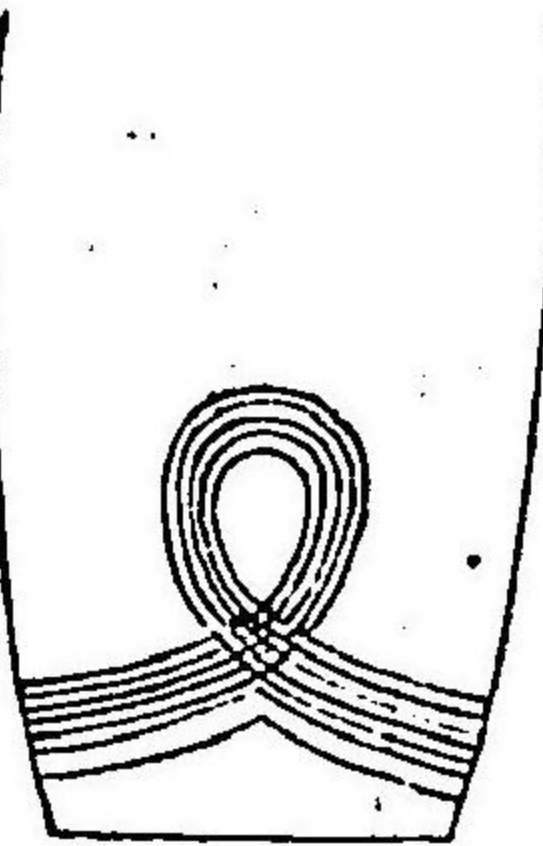
副消長警等奏
長防視以任
司警下官
令部ノ五



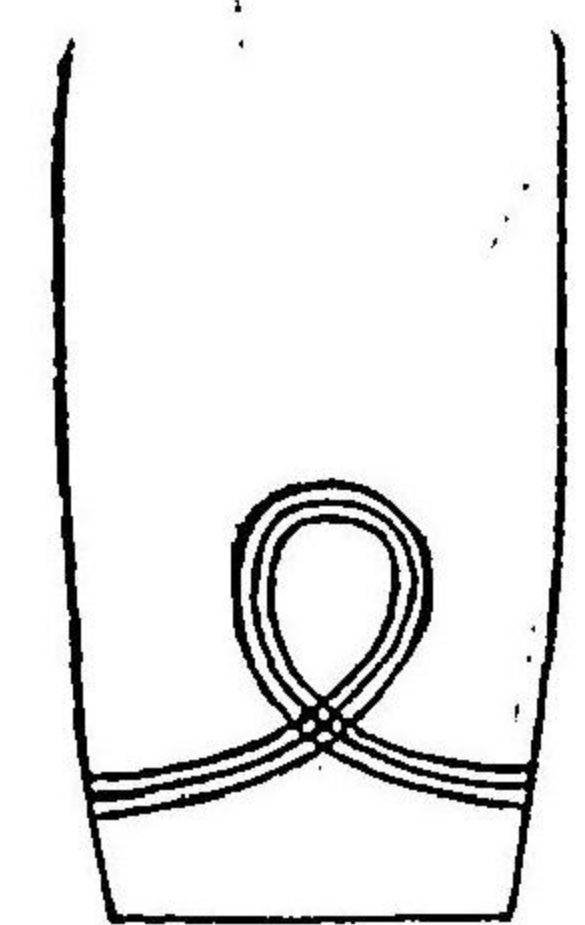
監 總



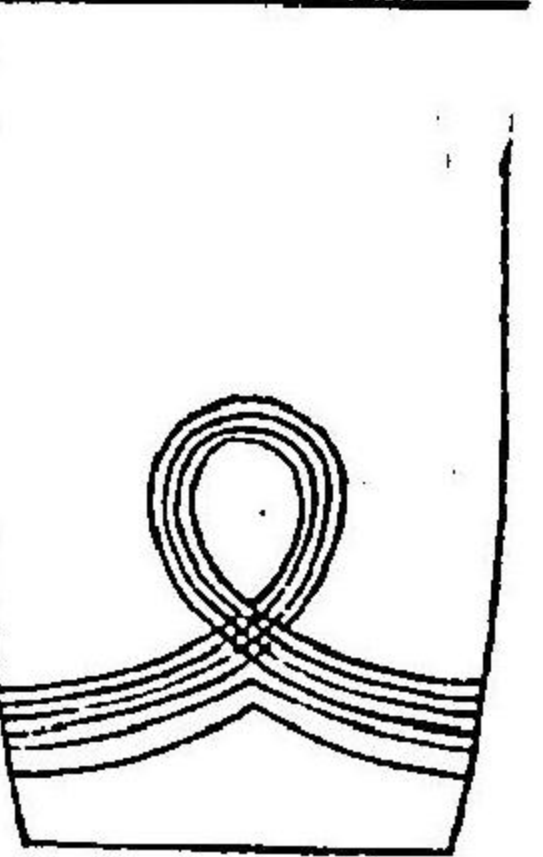
監 總 副



關補消消補警
士消防防部
防司司警
機令令部

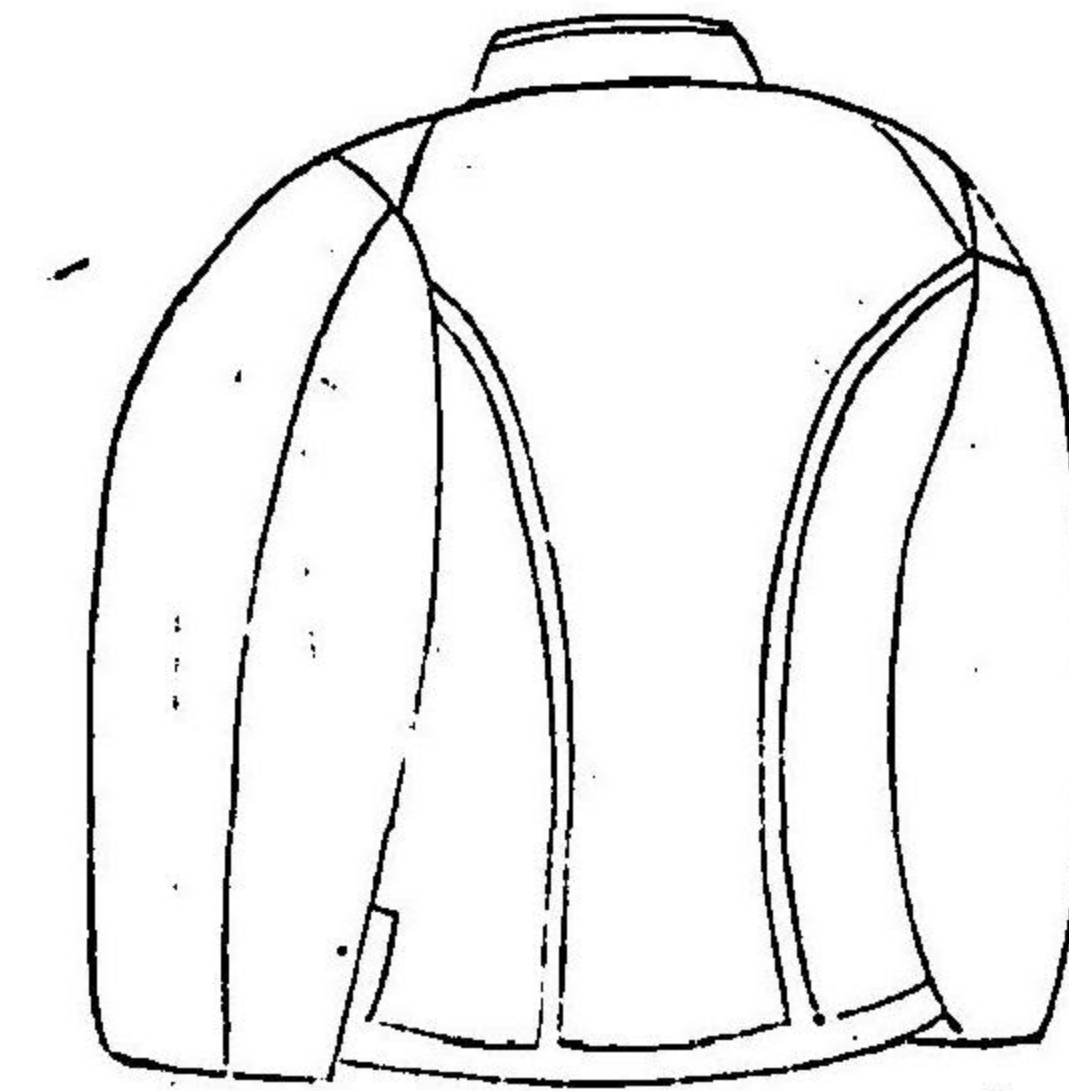
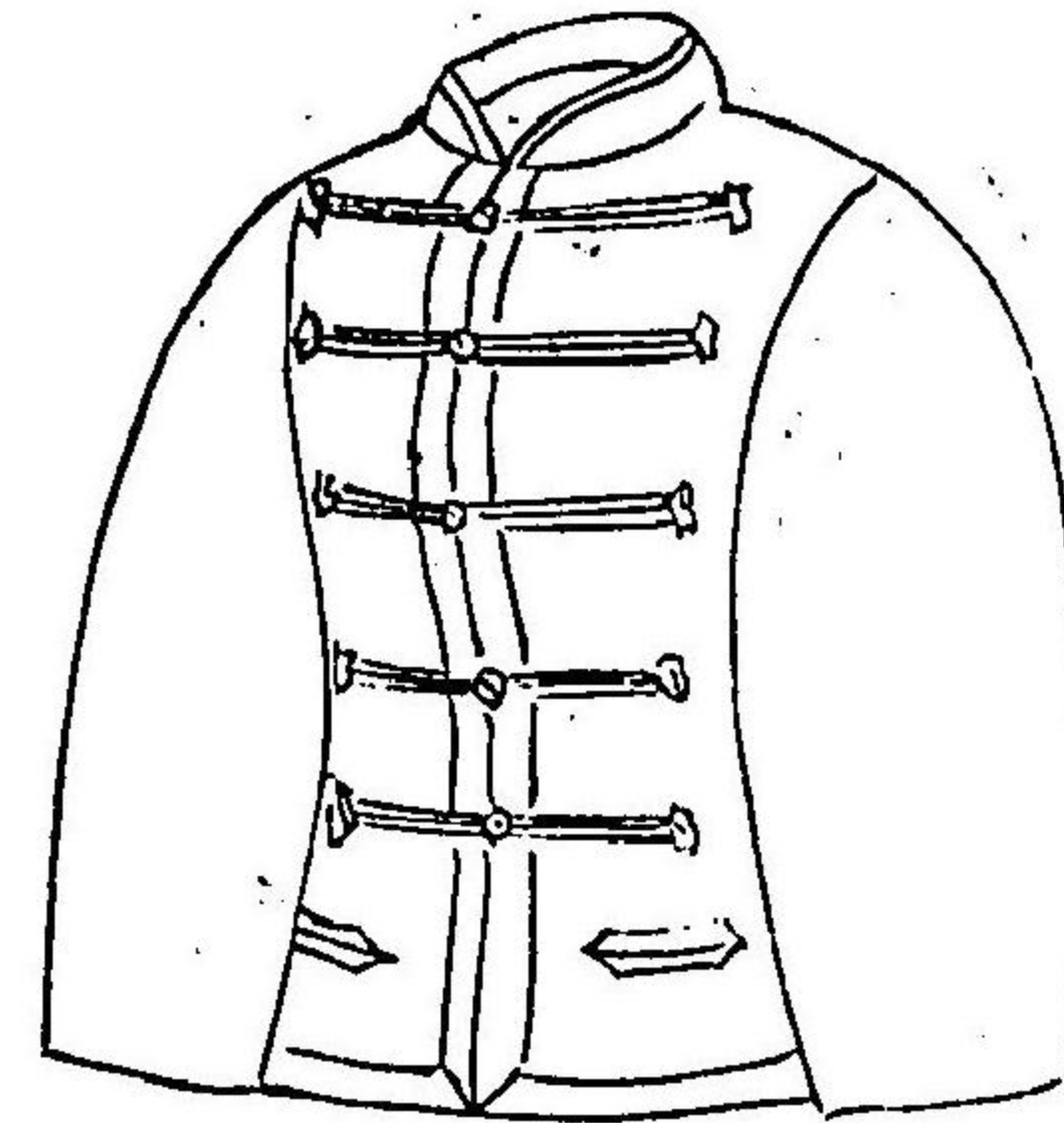


長消視以奏
防警上
司部ノ四
令長警等



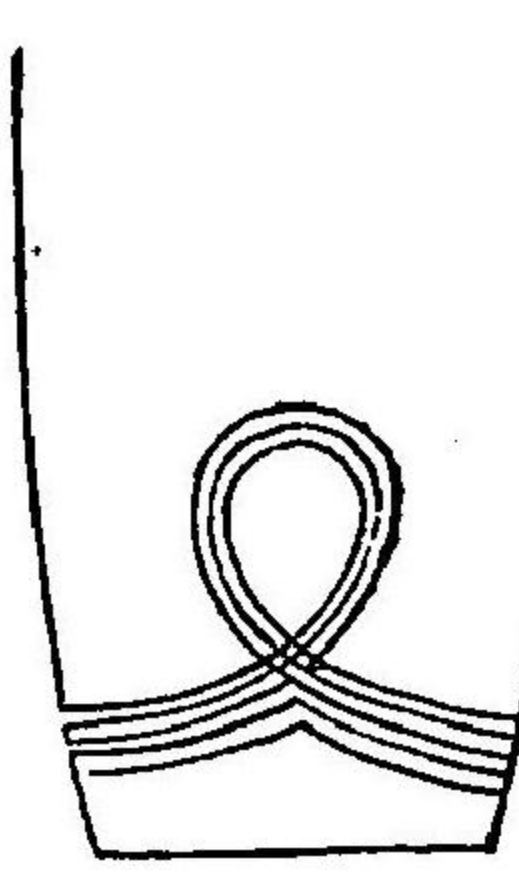
(二〇三)

衣 常

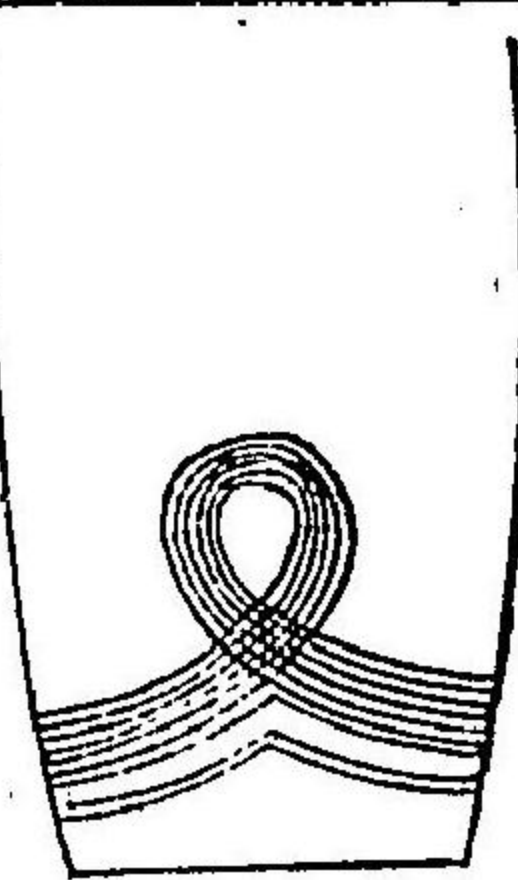


章袖衣正

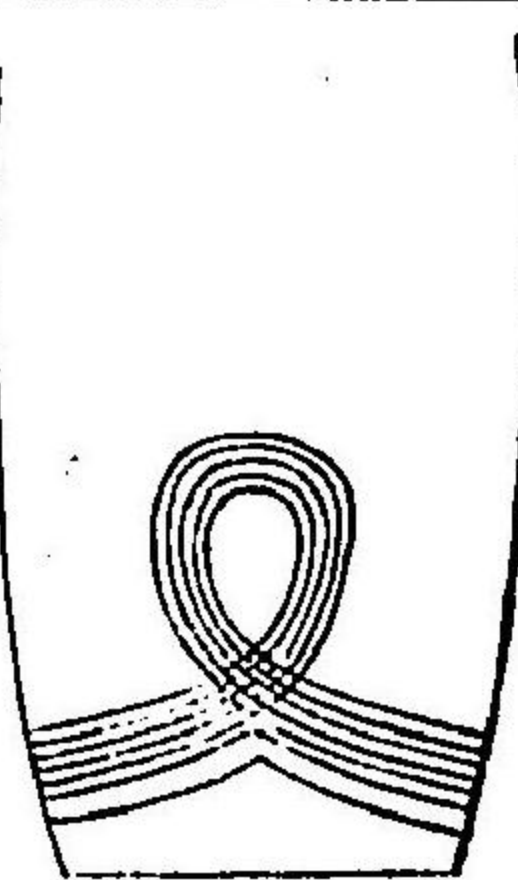
副消視以奏
長防警下任
司部ノ五
令長警等



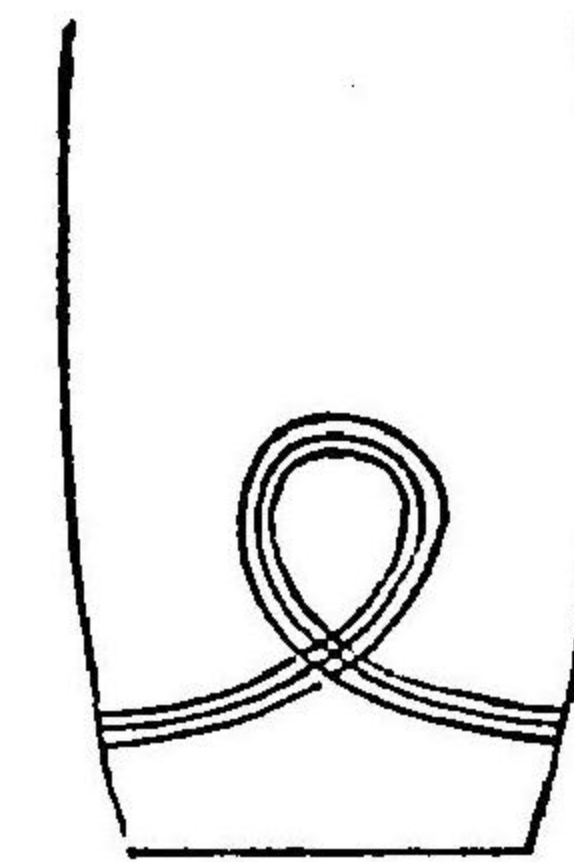
監 總



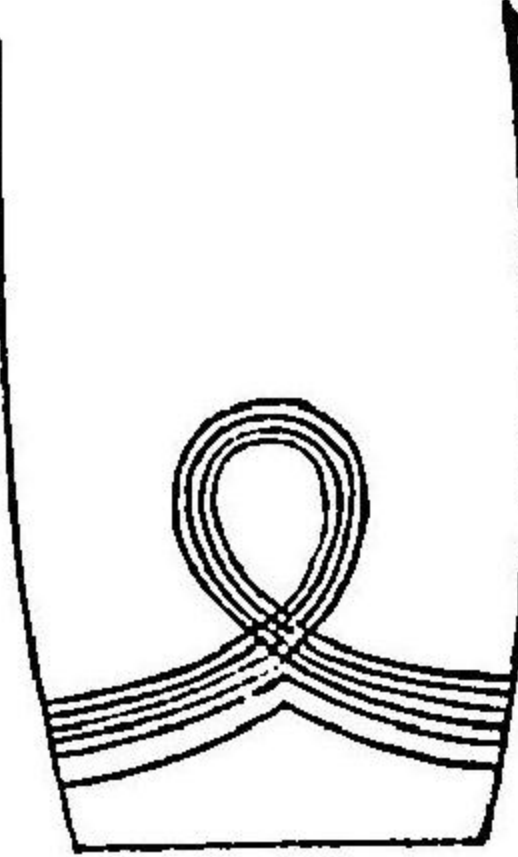
監 總 副



關補消消補警
士消防防部
防司司警
機令令部



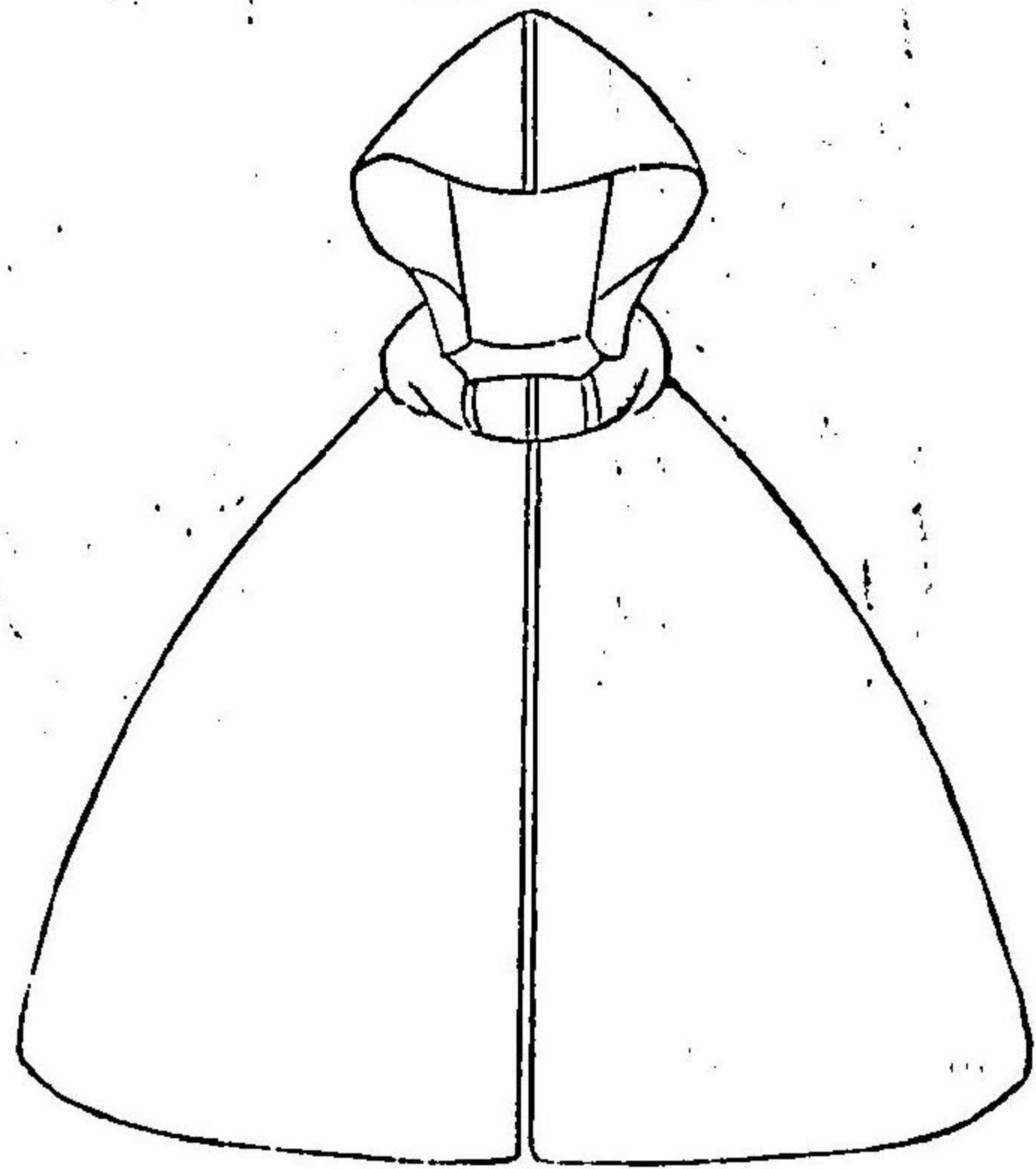
長消視以奏
防警上
司部ノ四
令長警等



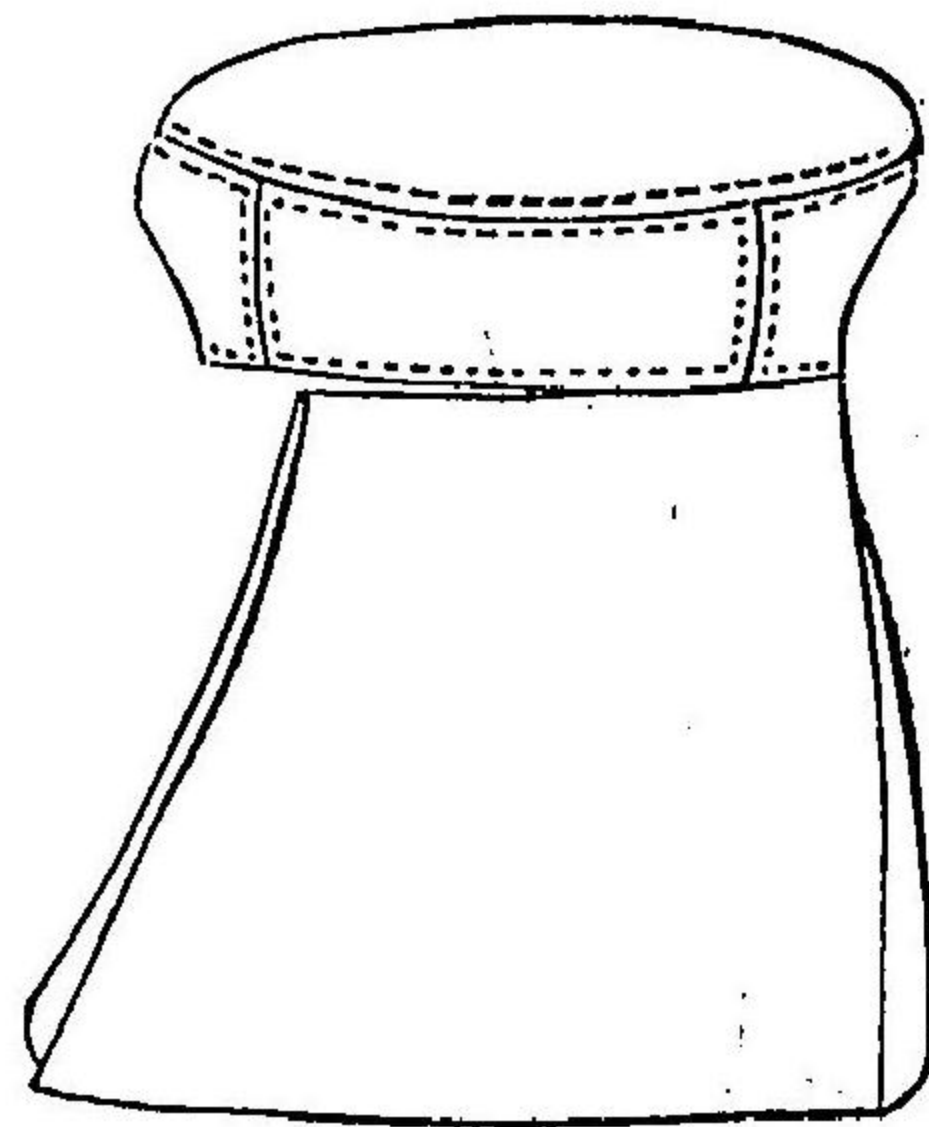
(五〇三)

套外種乙

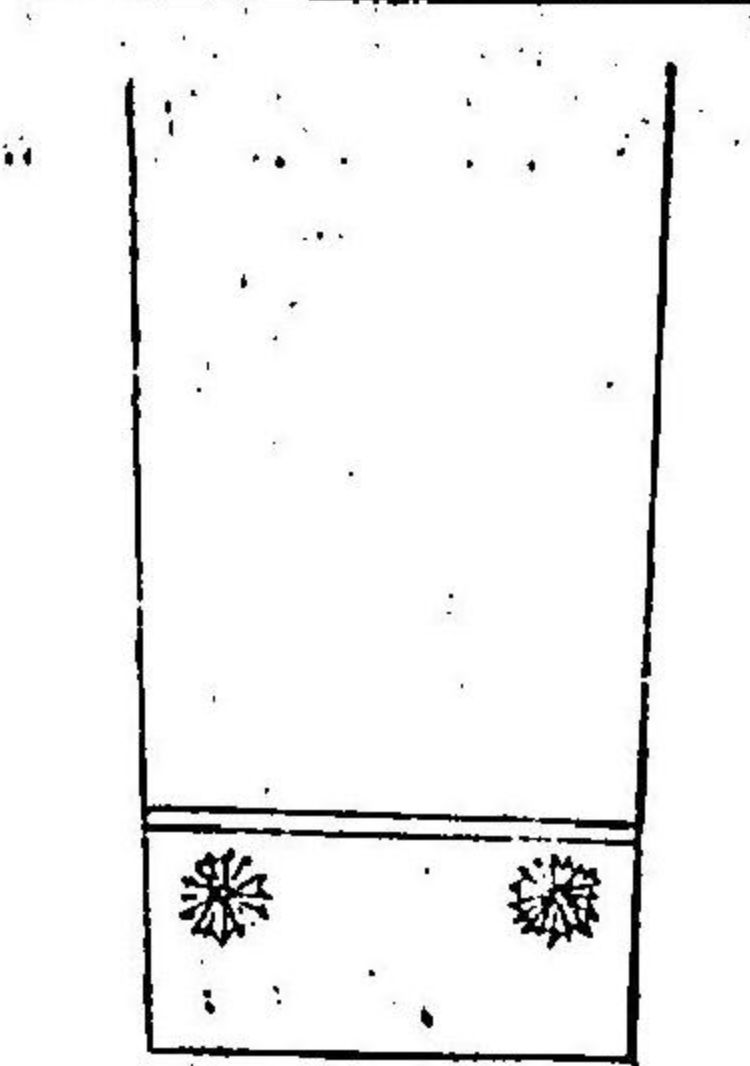
正副總警
部部長
副司令
警司
副司令
警司
消防
機關
士補



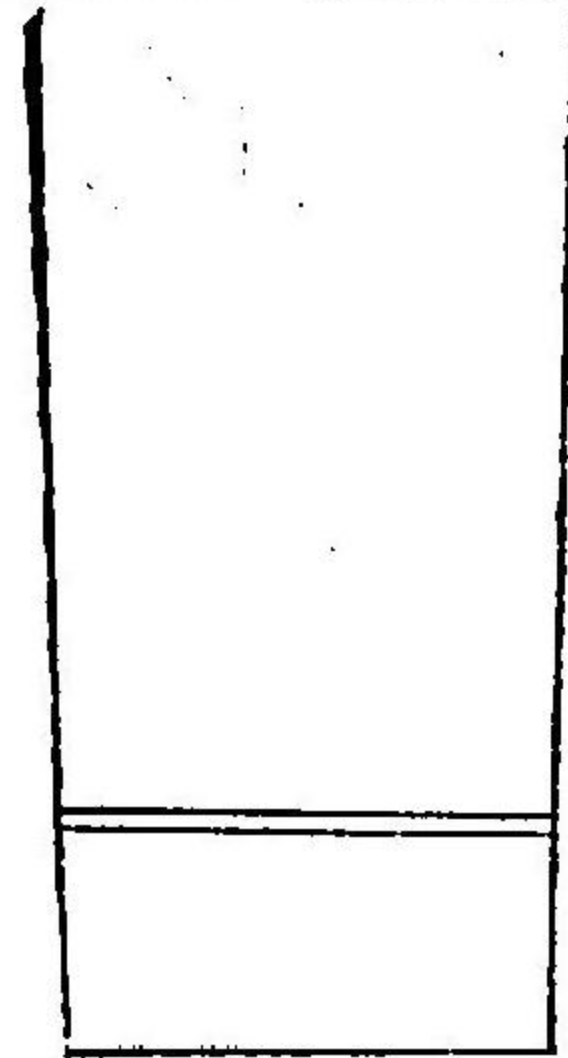
日 覆



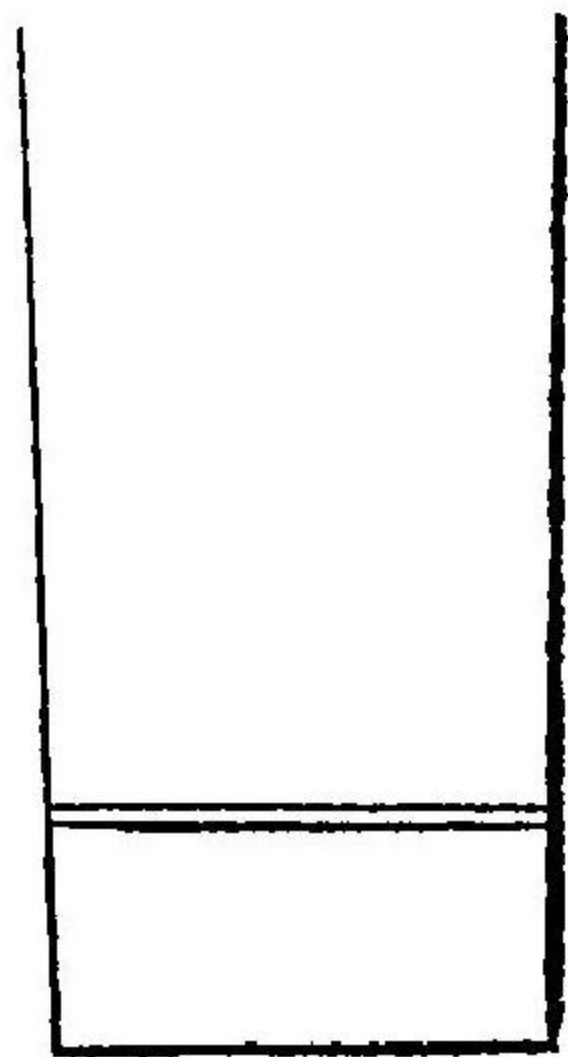
章 袖
監 總



副警總
警部長
消防
部副
正司令
司長



警部
副警
部補
消防
司令
消防
機關
士補

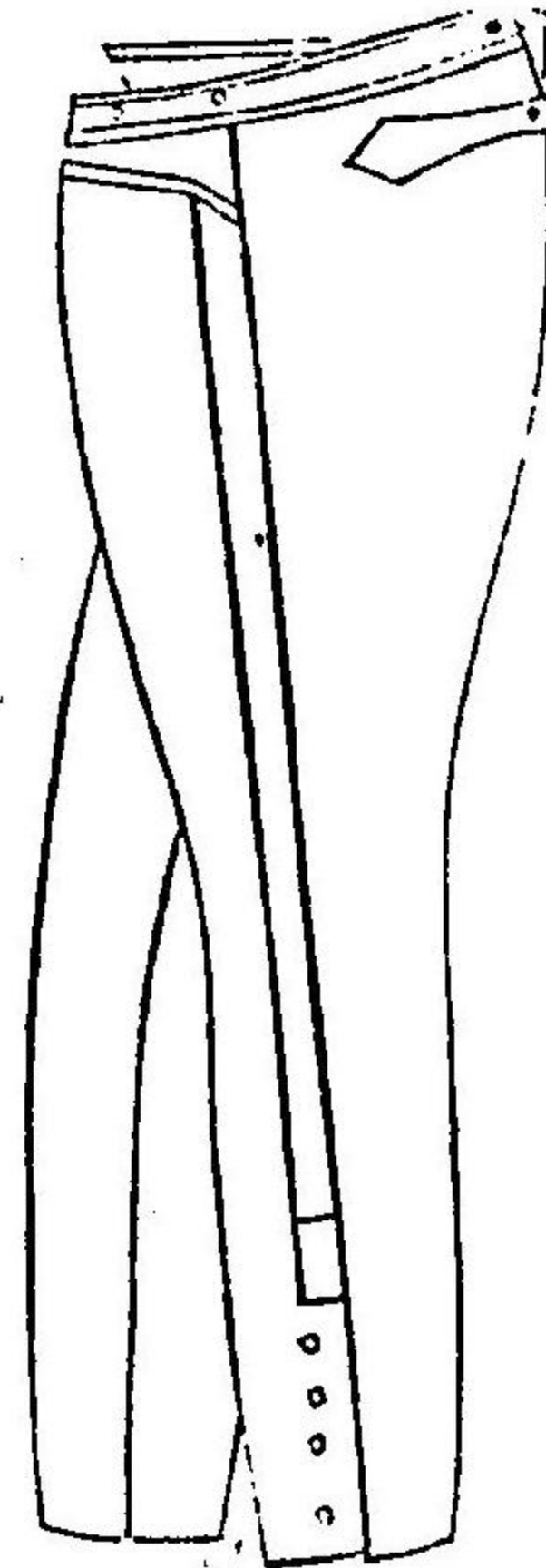
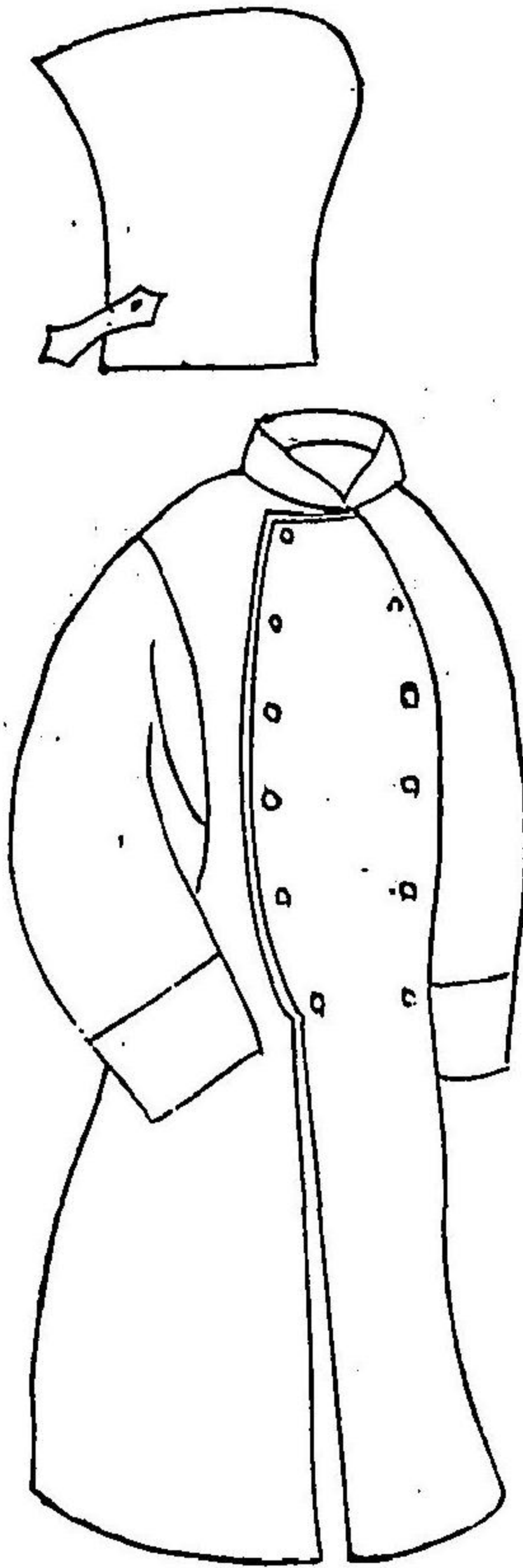
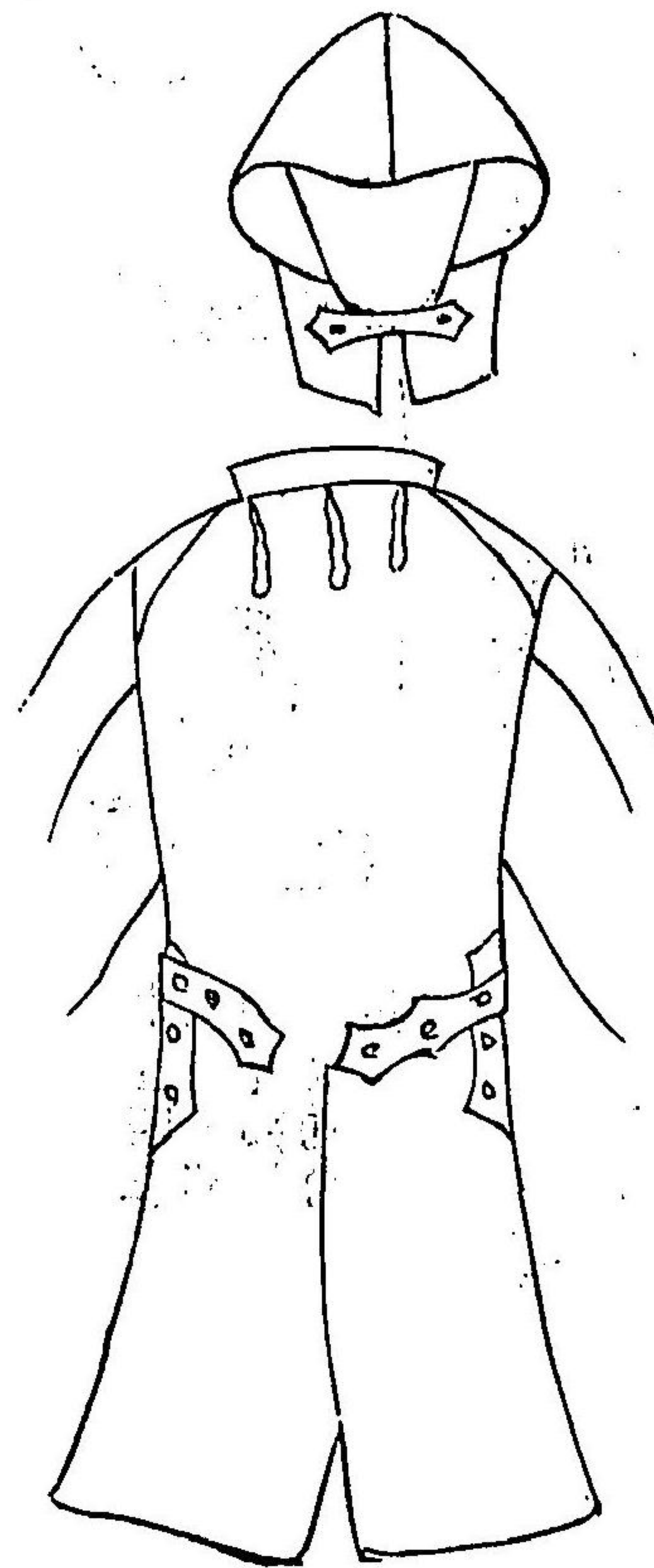


(四〇三)

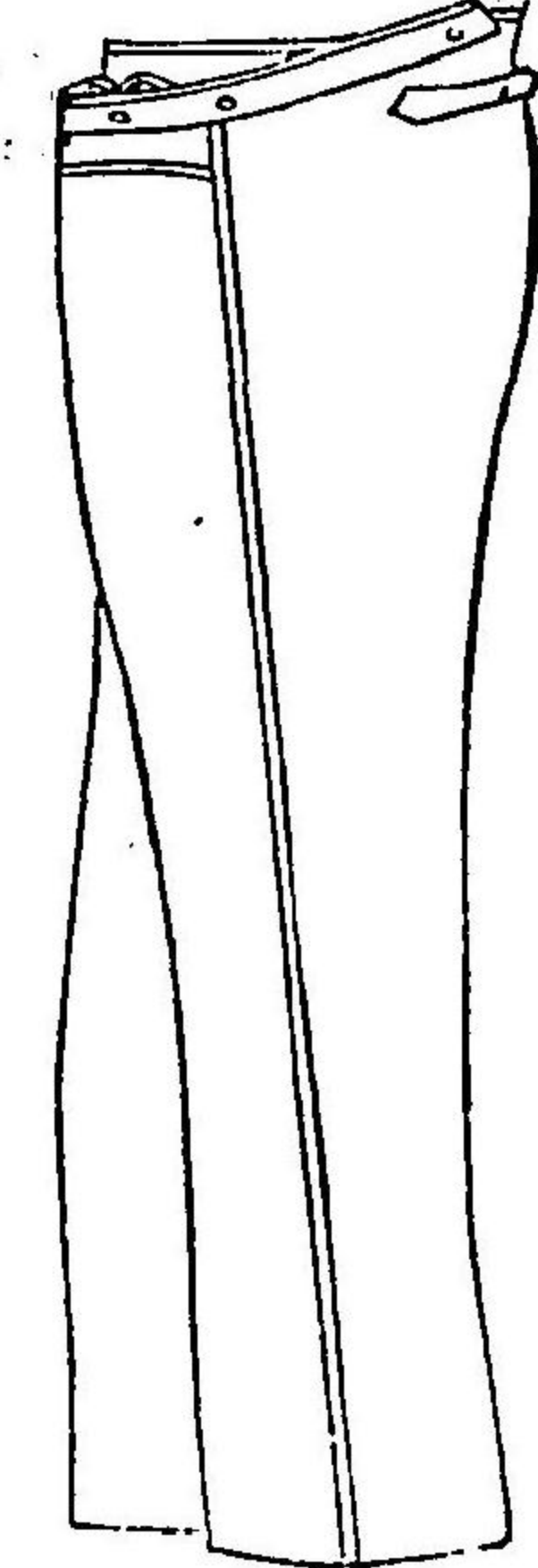
套外種甲

正副總警
部部長
副司令
警司
副司令
警司
消防
機關
士補
卸正衣同

警部
副警
部補
消防
司令
消防
機關
士補

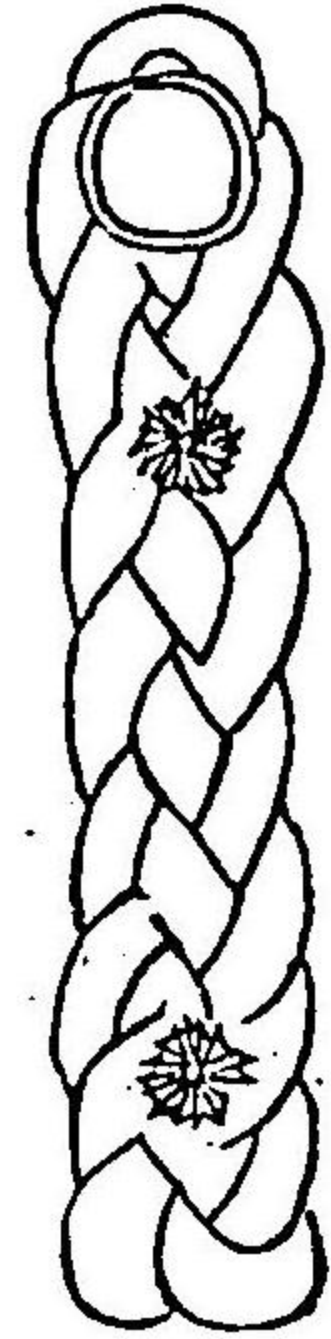
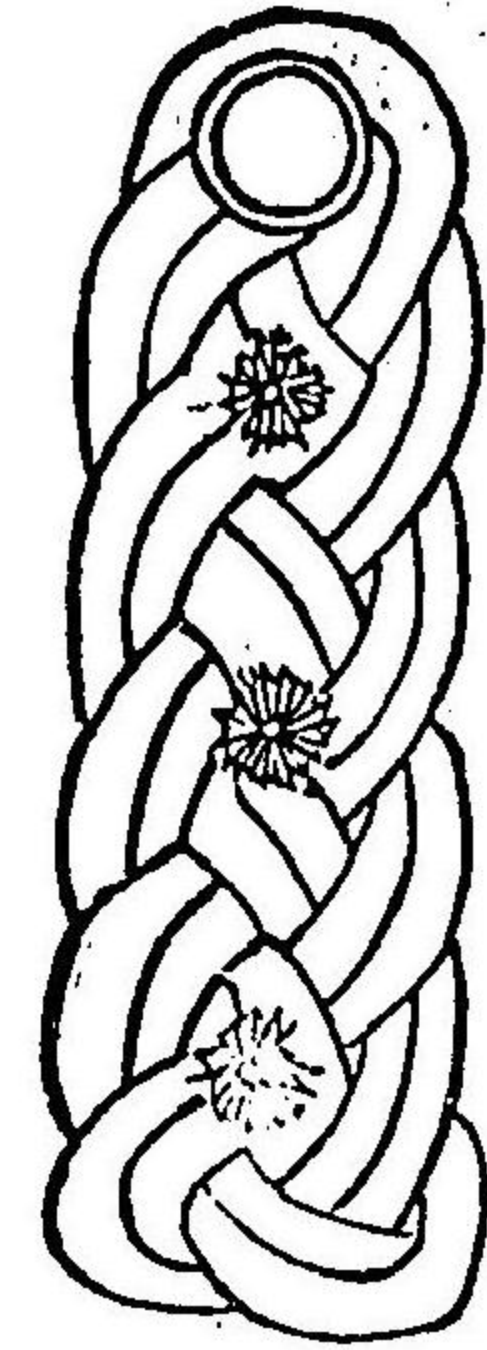
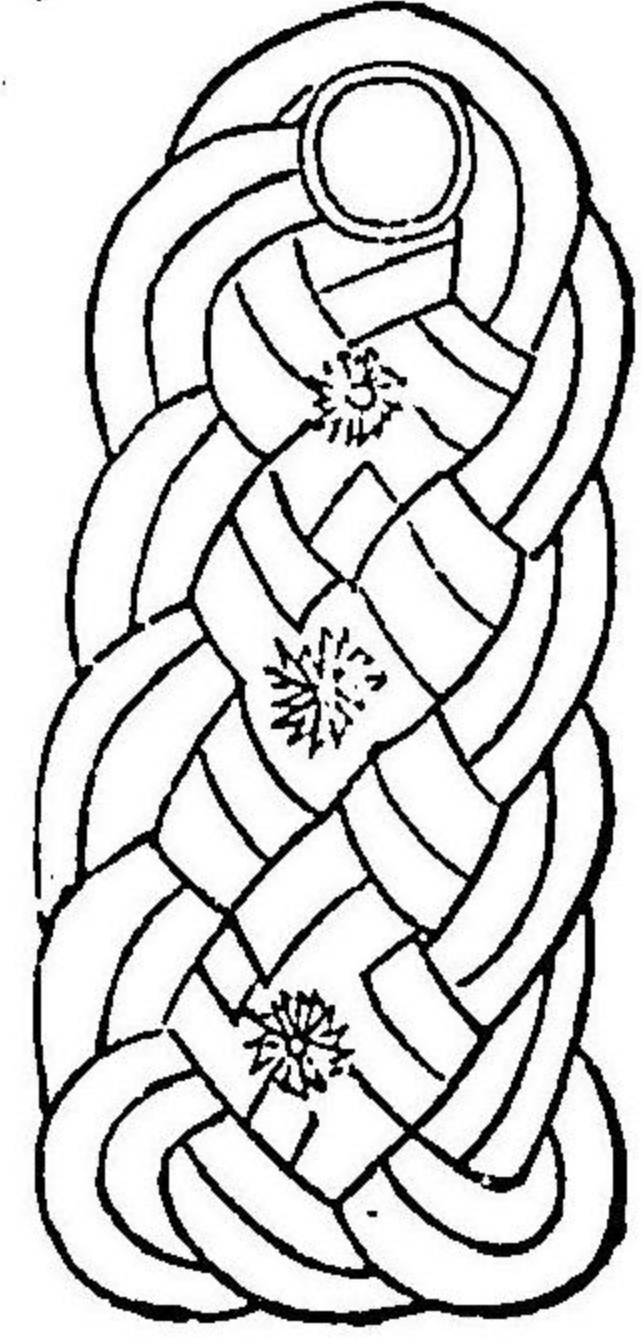


袴 短



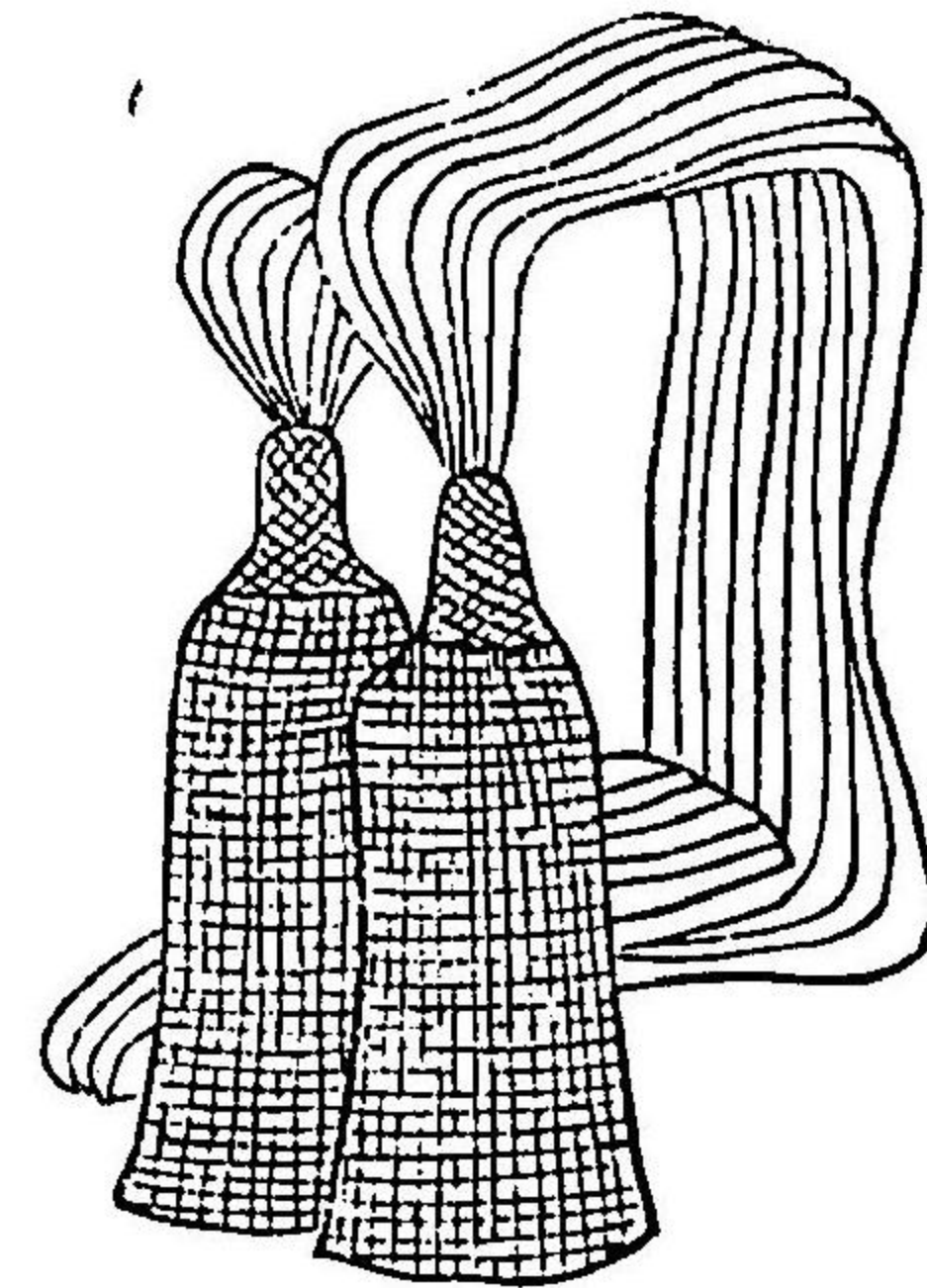
肩章

總監
副警監
部長
正司
副司
警部
補防
司防
司防
補防
關防
士機



飾帶

高等官



○内務省訓令第二十七號

二十三年七月二十九日

警察官及消防官服裝規則左ノ通之ヲ定ム

警察官及消防官服裝規則

第一條 警察官及消防官ノ服裝ヲ分テ正裝禮裝常裝ノ三種トス

第二條 正裝トハ正帽、正衣、袴、肩章、飾帶高等官以上、刀、正緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ云フ

第三條 禮裝トハ正帽、正衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ云フ

時宜ニ依リ常裝ニ正帽正緒ヲ用非ルヲ以テ禮裝ト爲スコトヲ得

第四條 常裝トハ帽正帽、常衣、袴、刀、略緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ云フ

第五條 消防官ニ在テハ常裝ヲ著用スルトキニ限リ短劍ヲ佩用スルコトヲ得但消防機關士ハ便宜

之ヲ脱スルモ妨ナシ

第六條 正裝ハ儀式祭典等總テ大禮ノトキ著用スルモノトス其場合概テ左ノ如シ

一新年參賀

一新年參賀新年宴會起元節參賀

一靖國神社招魂社大祭參拜

一任官叙位叙勳

第七條 禮裝ハ概テ左ニ列記スル場合ニ於テ著用スルモノトス

一通常行幸啓御先驅及供奉ノトキ

一行幸啓ノ場所ヘ參集シ若ハ奉送奉迎スルトキ

一政始出廳

一天覽ノ場所ニ臨ミ陪覽スルトキ

一正式勅使警備

一歲暮參賀

一任官叙位叙勳ノ御禮及之ニ齊シキ場合ニ參内スルトキ

一巡閱ヲ行ヒ及巡閱ヲ受クルトキ

一夜會其他廉アル宴會ニ臨ムトキ

- 一 通常禮服及「フロックコート」着用ノ場合 一 自家親屬其他ノ賀儀葬祭
- 第八條 常装ハ平常勤務ノ際着用スル所ノ服装トス
- 第九條 已ムヲ得サル場合ニ於テハ國儀式並公式行幸啓御先驅ニ參スルトキ任官叙位叙勳ノトキニ限リ禮装ヲ着用スルコトヲ得
- 第十條 行幸啓ノ道筋警衛及監臨等ノ場合ニ於テハ常装ニ正帽ヲ用フヘキモノトス但急遽ノ場合ニ於テ監臨ヲ要スルトキハ正帽ヲ用ヒサルモ妨ケナシ
- 第十一條 夏衣ハ炎暑ノ際凡ソ六月一日ヨリ九月常衣ニ限リ着用スルコトヲ得但夏衣ヲ着用スルトキハ必ス夏袴ヲ着用スルモノトス
- 第十二條 夏袴ハ炎暑ノ際着用スルモノニシテ何レノ服装ニ在テモ袴ニ代用スルコトヲ得
- 第十三條 甲種外套ハ何レノ服装ヲ論セス雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ着用スルモノトス尤防寒ノ爲メ特ニ室内ニ於テ着用スルコトヲ得但儀式祭典ノ場所及上官ノ居室内ニ在テハ此限ニ在ラス
- 第十四條 乙種外套ハ雨雪ノ際甲種外套ノ上ニ着用スルモノトス尤時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ着用スルモ妨ケナシ
- 第十五條 覆面ハ雨雪ノ際甲種又ハ乙種ノ外套ニ附屬シテ用フルモノトス
- 第十六條 日覆ハ炎暑ノ際常帽ニ限リ之ヲ用フルコトヲ得但便宜垂布ヲ除クモ妨ケナシ
- 第十七條 頸紐ハ何レノ服装ヲ論セス職務執行ノ場合ニ於テ必ラス之ヲ用ユヘシ其他ノ場合ニ於テハ各自ノ便宜ニ依ル
- 第十八條 刀ハ室ノ内外ヲ問ハス上部ノ鑲ヲ刀帶ノ鈎金ニ掛ケ乘馬ニ在テハ之ニ掛ケサルヲ法トス
- 第十九條 刀帶ハ其正衣ヲ着スルトキハ衣ノ上ニ常衣ノトキハ衣ノ下ニ締ムルモノトス
- 第二十條 正緒ハ正裝禮装ノトキニ常緒ハ常装ノトキ刀柄ニ装着ス
- 第二十一條 短袴ハ何レノ服装ニ在テモ長靴ヲ穿ツトキ着用スルモノトス炎暑ノ際ハ夏袴ヲ短袴ニ製シ着用スルモ妨ケナシ

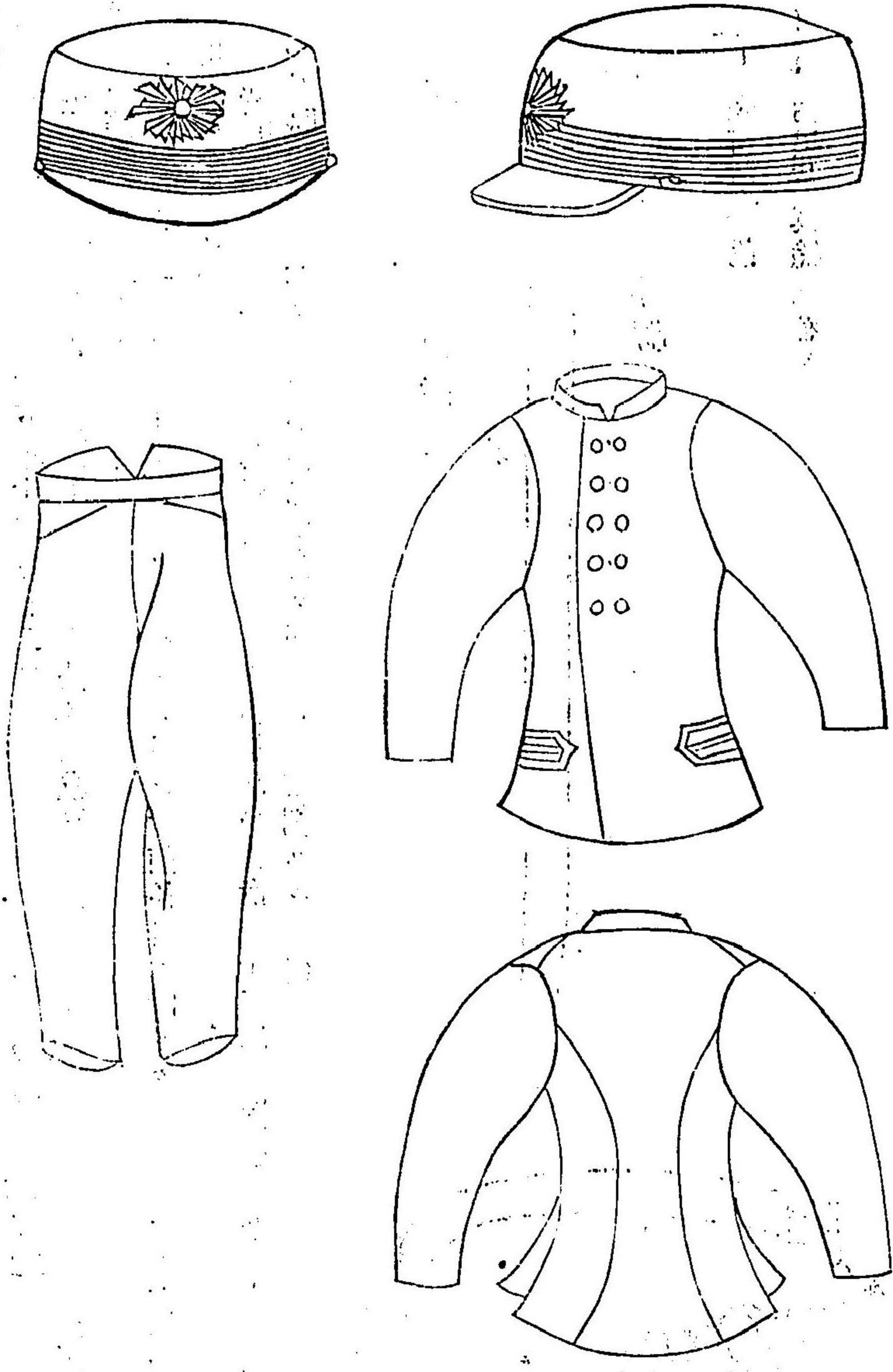
- ニ製シ着用スルモ妨ケナシ
- 第二十二條 手套ハ何レノ服装ヲ論セス白色ノモノヲ用フヘシ
- 第二十三條 下襟ハ何レノ服装ニ在テモ白布製ノ立襟ヲ用ユヘシ
- 第二十四條 靴ハ長短ヲ問ハス黒色革製トシ袴下ニ穿ツヲ法トス但長靴ハ常装ニ限リ袴上ニ穿ツモ妨ケナシ
- 乘馬者ニ在テハ短靴長靴共ニ必ス拍車ヲ附着シ其短靴ヲ穿ツトキハ袴ニ留草「スロー」ヲ附着スヘシ
- 第二十五條 勳章其他ノ記章ハ何レノ服装ニ在テモ之ヲ佩用ス其佩用方ハ明治二十一年十一月勅令第七十六號及明治二十二年二月七日賞勳局告示第一號ニ據ルヘシ
- 第二十六條 奉送奉迎御先驅正式勅使警備其他儀式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各員齊一ノ服装ヲ爲スヘシ
- 第二十七條 外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ乘馬者ニ在テハ後鞍ニ締結シ徒歩者ニ在テハ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス
- 勅令第二百二十二號 二十二年十二月二日
- 警察官及消防官帶劍ノ制左ノ通定ム
- 但明治二十四年一月迄ハ從來用フル所ノ刀劍ヲ佩用スルコトヲ得

劍制圖例

| 名 | 稱 | 中 | 身 | 鏢 | 柄 | 鞘 | 形狀 |
|---|---|---|---|---------|---|--|--------|
| 總 | 監 | 鍊 | 鐵 | 金色 櫻 | 唐 | 草 | |
| | | | | | 鐵甲 絲金線三條背面 ヲ覆フタル金具 ハ金色地ハ石目 櫻唐草ヲ置ク | 鍍 尼 結 兒 ト シ 兩 箇 ノ 鈎 鑲 ヲ 付 ス | 如 圖 |

| 常 | 緒 | 正 | 名 | 帶 劔 短 |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|----|-----------------------------|
| 總 監 | 消防防 司機部 令關司 補士令補部 | 消防防 司司部 總 令令長長 副長長 | 稱 | 消防防 司司部 總 令令長長 副長長 |
| 黑絹絲 長サ帶共一寸三分 圓徑中央ニテ八分 | 銀線 長サ一寸三分 圓徑中央ニテ八分 | 金線 長サ二寸五分 圓徑中央ニテ九分 | 總 | 同 |
| 黑絹絲 製式ハ各其正緒ノ例ニ同シ | 緒同銀線 緒同銀線 | 同 | 緒 | 同上 但長適宜釣革六寸五分 |
| 同 | 同 | 同 | 形狀 | 同 |

| 帶 刀 | 名 | 劔 短 | 刀 |
|----------------------------|-------|--|---|
| 消防防 司機部 令關司 補士令補部 | 稱 | 消防防 司司部 令令長長 副長長 | 消防防 司司部 總 令令長長 副長長 |
| 同 | 品 質 | 裏 藍 表 黑護謨革 | 同 |
| 同 | 前 金 具 | 金色徑一寸三分五厘 中央日章ヲ置キ 其周圍ハ櫻唐草ト | 同 |
| 同上 但茄子鍔ヲ付セス | 製 式 | 長サ凡ソ三尺五寸幅一寸釣革長 サ第一ノ分八寸第二ノ分二尺二 寸ニシテ幅七分其下端茄子鍔ヲ 附ス各一箇ヲ附ス其他金具總テ金 色トス | 藍絞 絲金線三條背面 ヲ覆フタル金具 ハ金色地ハ石目 櫻唐草ヲ置ク |
| 同 | 同 | 高等官ハ黑革鞆口 日章唐草 飾物金色 判任官ハ總鐵磨キ | 同 |
| 同 | 同 | 同 | 同 |



| | |
|-----------|-----------|
| 緒 | |
| 消防部 司令 補士 | 消防部 司令 副長 |
| 同 | 同 |
| 同 | 同 |
| 同 | 同 |

(以下圖例ハ畧ス)

第一款 巡查服裝附劍制

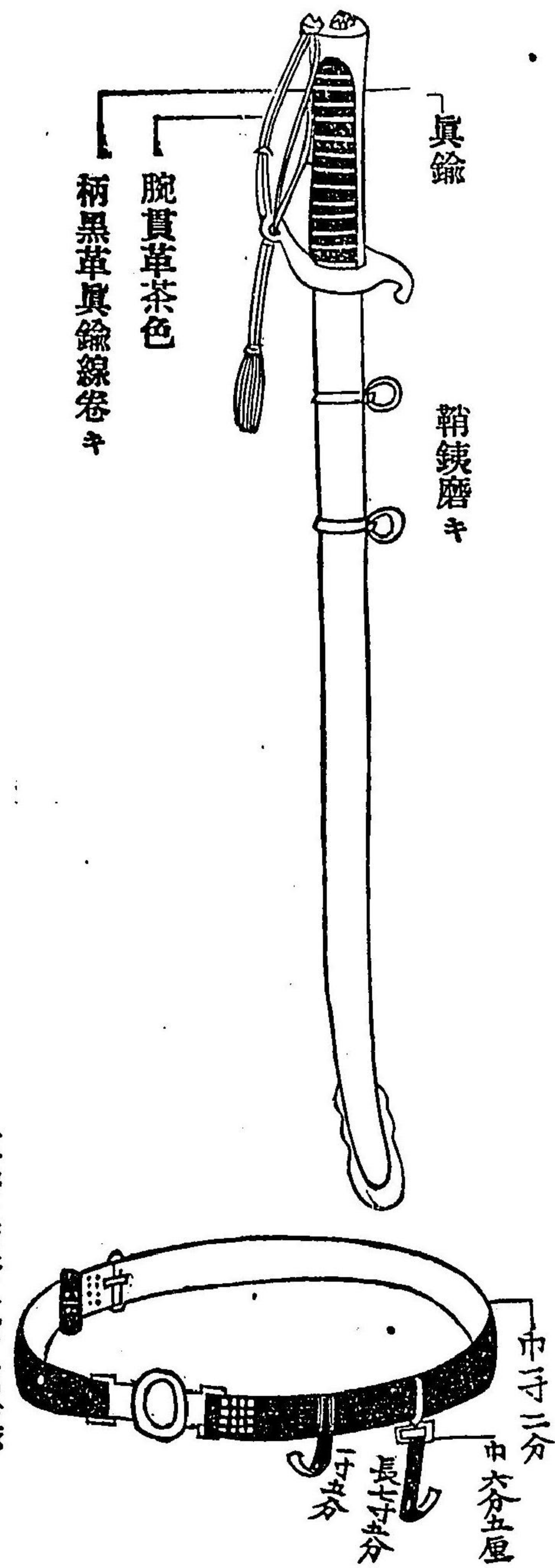
○達第六拾五號 十三年十二月二十八日 府 縣(東京府ヲ除ク)
 本年二月九號達巡查制服ノ徽章ヲ除キ制帽徽章左ノ通改正候條此旨相達候事但明治十四年夏服ヨ
 リ實施スヘシ

巡查制帽制服表

| | | | | | |
|------------|----|----------|---------|------|------|
| 帽 | 徽章 | 服 | 衣袴 | 地 | 卸 |
| 前日章白銅徑一寸五分 | 無 | 無 | トモ | 同 | 同 |
| 橫線黃一分四條 | 徽章 | 冬紺羅紗又ハ小倉 | 夏白小倉又雲齋 | 眞鍮日章 | 眞鍮日章 |

(四一三)

○達第六十三號 十五年十二月二日 廳 府 縣
 自今巡查ニ帶劔セシムルコトヲ得ヘシ此旨相達候事
 ○内乙第七十一號 十五年十二月廿二日 警視廳 府 縣(東京府)
 今般第六拾三號ヲ以テ巡查ニ帶劔セシムル儀公達相成候ニ付テハ左ノ二項可心得此旨相達候事但
 調製費用ハ警察費ヲ以テ支辨ス可シ
 一 劔ハ日本刀ニシテ製作及ヒ革帶ハ圖ノ如シ但シ從前各署ニ備置ク洋刀ノ分モ當分取雜セ帶
 用シ苦シカラス
 一 帶劔者ハ明治八年第二十九號公達行政警察規則第四章第十五條ノ旨趣ニ基キ尙ホ一層慎重
 シ兇賊逮捕ノ際ト雖モ不得已場合ニ在サレハ拔劔スルヲ得ス



○内乙第三號 十七年一月廿一日 警視廳 府 縣(東京府)
 明治十五年當省乙第七拾壹號ヲ以テ巡查帶劔者不得止場合ニ非サレハ拔劔スルヲ得サル旨相達置
 候處尙ホ左ノ各條ノ通可心得此旨更ニ相達候事但第一條ノ場合ニ非ラスシテ傷害スルニ於テハ
 假令過誤ニ出ルモ都テ法衙ノ處分ニ付スヘシ
 巡查帶劔心得方

第一條 帶劔ハ左ノ場合ノ外拔劔スルヲ得ス
 一 兇器ヲ持シ人ノ身體財産ニ對シ暴行ヲ爲シ拔劔スルニ非サレハ保護スルニ術ナキトキ
 一 暴行人兇器ヲ持シ拔劔スルニ非サレハ防禦スルニ術ナキトキ
 一 犯罪人逮捕ノ片又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劔スルニ非サレハ防禦スルニ術
 ナキトキ

第二條 前各項ハ不得止場合ニ際シ拔劔スト雖モ兇人畏服ノ摸樣アルニ於テハ穩ニ取押フヘシ
 第三條 不得止場合ニ際シ拔劔スト雖モ關係ナキ者ニ負傷セサル様深ク注意スヘシ
 第四條 拔劔シタル片ハ兇人ヲ傷スルト否トニ掲ハラヌ其景況ヲ速ニ所屬長ニ具申スヘシ
 ○本課第八號 明治十六年一月廿七日 警察本部署分署
 自今巡查制服着用ノ節帶劔セシムヘシ此旨相達候事
 ○本訓令文第十八號 二十年四月十五日 警察本部署分署
 警察官吏服裝及帶劔心得左ノ通相定ム

(五一三)

第一條 警察官吏ノ服裝ハ正當ノ職權ヲ有スル者タルヲ明示スルノ標識ナレハ其職務ニ服スル
 片ハ必ス定規ノ服裝ヲ爲スヘシ
 第二條 制服ハ悉ク釦ヲ掛ケ帽ハ正面ニ載キ其緒ヲ頤ニ掛クヘシ

- 第三條 定規ノ服装ヲ爲シタルハ腹巻腰帶等ヲ顯ハシ又ハ腰部ニ物品ヲ下ケ若クハ手傘杖等ヲ携ヘ容儀ヲ亂ルノ體裝ヲ爲ス可カラス
- 第四條 定規ノ服装ヲ爲シタルハ色換リ又ハ異様ノ眼鏡呼吸器襟卷上帶等ヲ用ユヘカラス
- 第五條 定規ノ服装ヲ爲シタルハ必ス白色ノ襟ヲ着ケ靴ハ黑色ニシテ常ニ光澤ヲ帶ハシムヘシ
- 第六條 定規ノ服装ヲ爲シ草鞋ヲ穿ツハ必ス紺色ノ足袋脚半ヲ用ユヘシ
- 第七條 晴天ニ長靴ヲ用ヒ雨天ニ短靴ヲ用ヒ又ハ袴ノ裾ヲ折リ裏ヲ露ハスヘカラス
- 第八條 巡查ハ非番タリトモ定規ノ服装ヲ爲シタルハ必ス捕繩呼子笛手帖名刺ヲ携帶スヘシ
- 第九條 (廿一年七月訓令文第廿六號削除)
- 第十條 (全上)
- 第十一條 外套ヲ着スルハ降雪霰ノ外晝間ハ必ス襟ヲ折ルヘシ但夜間及村落巡回ノ時ハ此限ニアラス
- 第十二條 外套ハ冬服用期限間防寒ノ爲メ着用スルヲ得但シ室内ニ於テハ着用スルヲ得ス
- 第十三條 外套ヲ携帶スルハ之ヲ細長ク卷束シ兩端ヲ締メ左肩ヨリ右腋下ニ斜擔スヘシ
- 第十四條 夏服ハ例年六月一日ヨリ冬服ハ十月一日ヲ着用ノ期限トシ日覆ヲ用フルハ夏服用ノ期限内トス
- 第十五條 凡テ被服及ヒ職具品ハ勉メテ清潔ニ保存スヘシ
- 第十六條 帶劍ハ護身ニ供シ濫リニ之ヲ弄シ人ヲ威嚇スヘカラス假令兇賊逮捕ノ際ト雖モ亦宜ク戒慎ヲ加フヘシ
- 第十七條 左ノ場合ニ於テハ已ムヲ得ス拔劍スルヲ得但シ兇人畏服ノ摸樣アルハ穩カニ取押ヘ決シテ其勢ニ乘シ負傷モシムル等ノヲアルヘカラス
- 一 兇器ヲ持シ人ノ身體財產ニ對シ暴行ヲ爲ス者アルニ當リ他ニ保護ノ術ナキハ

- 二 兇器ヲ以テ暴行ヲ受クルニ當リ他ニ防禦ノ術ナキハ
- 三 犯罪人逮捕又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒スルニ當リ他ニ防禦捕獲ノ術ナキハ
- 第十八條 已ムヲ得サルニ出テ拔劍シタル場合ト雖モ誤テ傍人ニ負傷セシメサル様注意スヘシ
- 第十九條 囚人護送罪犯逮捕等ノハ不意ニ奪劍セラレ、等ノ不覺アルヘカラス
- 第二十條 拔劍シタルハ何レノ場合ヲ問ハス其情況ヲ速ニ上官ニ申報スヘシ
- 第二十一條 職務上制服ヲ着用シタルハ必ス帶劍スルモノトス但室内ニ於テ事務ニ従事スルハ此限ニアラス
- 第二十二條 帶劍ノハ革帶ハ上衣ノ下ニ締メ柄ヲ前面ニ出シ歩行スルハ左手ニテ其柄ヲ握ルモノトス
- 第二十三條 巡查外套ヲ着スルハ其上ニ帶劍スシヘ但降雨ノ節ハ其下ニ帶ヒ劍ノ柄頭ヲ外部ニ顯スヘシ
- 第二十四條 劍及革帶ハ丁寧ニ保存シ金屬ノ部分ハ錆銹ヲ生セシムヘカラス
- 警第二二八號 二十三年六月十八日
- 巡查部長外套釦ノ件ニ付別紙甲號香川縣知事伺ニ對シ乙號ノ通內務大臣ヨリ指令相成候趣ヲ以テ內務省警保局長ヨリ通知アリタリ
- (甲號)
- 警第四二四號香川縣知事伺 二十三年五月七日
- 巡查部長外套釦ノ義ニ付伺
- 本年三月廿八日御省訓令第拾六號ヲ以テ巡查部長ノ職ヲ置カレ左腕ニ徽章ヲ付スヘキ制ニ候處本縣ノ如キハ肩懸給與候ニ付右着用ノ際爲メニ徽章ヲ蔽ヒ自然其用ヲ缺ク場合モ之レアルヘク旁一般巡查ト容易ニ識別シ得ラル、爲メ當縣巡查部長外套ハ金色日章釦ヲ附着致サセ度此段伺候也

(八一三)

明治二十三年五月七日
(乙號) (指令)

本年五月七日警第四二四號同巡查部長外套鈕ノ件ハ眞鍮日章鈕ヲ外套ニ附着スルハ苦シカラス
二十三年六月六日 內務大臣

○訓令官第八拾號 明治廿七年四月廿六日

自今巡查部長外套ハ眞鍮日章鈕ヲ附着シ尙刀帶ノ釣草寸法左之通相定ム

一 第一 釣草 中六步五厘 長八寸

一 第二 釣草 中六步五厘 長八寸 長貳尺貳寸

第二款 巡查提灯

○達第三十三號 十年三月六日 府

警部制服徽章並巡查用小丸提燈(大小區)記載方別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但本文ノ外ハ總テ明治八年十一月第十一號第九十四號ノ通

縣(東京府ヲ除ク)



巡查用小丸

重線ハ赤

地名警察署或ハ地名警察署地名分署

○警第一六五號

巡查部長提燈ノ儀ニ付香川縣ヨリ別紙伺ニ對シ朱書ノ通指令相成候旨內務省警保局長ヨリ通知アリタリ

明治二十三年五月一日

(別紙)

○警第一一一號(香川縣知事巡查部長提燈ノ儀ニ付伺)

廿三年四月十五日

巡查部長提燈ハ一般巡查同様ノ品攜帶可爲致儀ト相考候得其他ノ巡查ト區別スル爲メ徽章制規ノ通ニテ府縣等ノ文字ヲ除キタル騎馬提燈相渡不苦候哉此段相伺候也

(指令) 內務大臣 廿三年四月廿六日

廿三年四月十五日警第一一一號同巡查部長提燈ノ儀ハ伺之通

第十五章 休暇及服忌

第一款 巡查看守休暇

○内務外

十八年七月三十日

警視廳 府 縣(東京府ヲ除ク)

巡查看守休暇概則左ノ通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届出此旨相達候事

但本文ニ牴觸スル從前ノ指令ハ取消候事

巡查看守休暇概則

第一條 巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許サ、ルヘキモノナレモ其勤務上差支

ナキニ於テハ皆勤ノ者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與ルコトヲ得

第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ

休暇日數

一ヶ年間皆勤ノ者

三週間

半ヶ年間皆勤ノ者

一週間

第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス

(九一三)

(〇二三)

第四條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス
○本縣本課第五拾六號 十八年十月十四日 警察本署署分署
巡查休暇規則別紙之通改定來ル十一月一日ヨリ施行候條此旨相達候事
(別冊)

巡查休暇規則
第一條 巡查ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スト雖モ勤務上差支ナキ場合ニ於テハ皆勤ノ者ニ限リ其勤勞ヲ甄別シ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與フヘシ
第二條 休暇日數左ノ如シ
一 一年皆勤ノ者 三週間以内 半年皆勤ノ者 一週間以内
第三條 皆勤年數ハ本人就職ノ當日ヨリ起算スヘシ
第四條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス
第五條 休暇ハ一年內ニ於テ分與スルヲ得
第六條 休暇日數ハ數年ヲ通算シテ併與スルヲ得ス
第七條 一年又ハ半年ノ皆勤ヲナシタル者ハ所屬警察署長ニ届出ヘシ
第八條 署長前條ノ届書ヲ受ケタル所屬警察署長ハ平素ノ勤意ヲ視察シ賜休日數ヲ定メ左ノ休暇證ヲ附與スヘシ

表
滿一ケ年(又ハ半ケ年)
皆勤ニ付慰勞休 巡查何之誰
暇何日ヲ賜與ス
裏 年 月 日 署印
本帳割印 用紙小奉書十六切

第九條 休暇セント欲スル者ハ休暇證ヲ添へ所屬警察署長へ願出テ許可ヲ受クヘシ但持區外ニ出テ宿泊ヲ要セント欲スル者ハ願書中へ行先ヲ記載スヘシ
第十條 休暇ハ勤務ノ都合ニヨリ署長ノ見込ヲ以テ中止又ハ停止スルコトアルヘシ
○本縣監第二百四拾四號 十八年十月廿九日
今般本課第五拾六號ヲ以テ巡查休暇規則御改正相成候ニ付テハ各署取扱上區々セサル爲メ別番之通内規相定メ候條此旨及達候也
(別紙)

巡查休暇規則取扱内規
第一項 規則第二條ニ基キ第七條ニ依リ皆勤シタル巡查ノ届出方ハ壹ケ年半ケ年ノ區別其本人ノ意ニ任スト雖モ可成壹ケ年ニシテ届出ヲ爲サシメ賜休ノ取扱ヲ爲ス可シ
但壹ケ年皆勤セント欲スルモ七八ヶ月目ニシテ病氣或ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ届出ヲ爲シタル節ハ第二條第二項ニ基キ第七條ノ取扱ヲ爲ス可シ
第二項 規則第三條中就職トハ拜命ノ日病氣其他ノ事故ニテ欠勤セシモノハ出勤ノ日ヨリ起算スルモノトス
第三項 鑿劍柔術等ノ爲メ負傷シ及ヒ傳染病豫防ノ爲メ患者ニ直接又ハ消毒法施行吐瀉物取除ケ等ニ從事シ該病ニ感染シタルモノ、欠勤ハ規則第四條ニ準シ取扱フ可シ
附錄

(一二三)

一 改正規則施行以前休暇券ヲ與ヘアル者ハ舊規則ニ依リ賜休ス可シ
一 改正規則施行以前ノ拜命又ハ休暇券ヲ與ヘタル後ノ皆勤日數ハ繼續計算シ改正規則ニヨリ賜休ノ取扱ヲ爲ス可シ
巡查休暇臺帳様式別紙ノ通相定ム 二十二年八月七日
本紙ハ本部ニ於テ調製シ各署ノ請求ニ應シ配賦ス (〇ハ課、署長檢印) (用紙大判紙)

京都府伺

明治七年十一月十八日

服忌令ノ義ハ遐テ被仰出ノ品モ可有之云々本年第百八號ヲ以テ御布告相成右武家制服忌令ノ義ハ元祿年中改正元文年中増補ノ別冊相用ヒ可然哉爲念伺

〔別冊〕

服忌令

一父母

忌五十日

服十三月閏月ヲカゾヘズ

一養父母

忌三十日

服百五十日

遺跡相續或ハ分地配當ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ異姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖母父伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類ハ服忌無之遺跡相續セス或ハ分地配當セサル養子ハ同姓ニテモ異姓ニテモ養父母ハ定式ノ通服忌可受之養方ノ兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之

一嫡母

忌十日

服三十日

對面無之候ハ、不可受服忌通路致シ候ハ、對面無之共服忌可受之父死去ノ後他へ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ妾ノ子不可受服忌

但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之

一繼父母

忌十日

服三十日

初メヨリ同居セサレハ無服忌
父死去ノ後繼母他へ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌
但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之

一離別ノ母

忌五十日

服十三月閏月ヲカゾヘズ

一夫

忌三十日

服十三月閏月ヲカゾヘズ

一妻

忌二十日

服九十日

一嫡子

忌二十日

服九十日

家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス

一末子

忌十日

服三十日

一養子

忌十日

服三十日

家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一夫ノ父母

忌三十日

服百五十日

一祖父母

忌三十日

服百五十日

一母方

忌二十日

服九十日

離別セラレ候祖母モ服忌無別儀

一曾祖父母

忌二十日

服九十日

母方ニハ服忌無之但シ遠慮一日

一高祖父母

忌十日

服三十日

母方ニハ服忌無之但シ遠慮一日

一伯叔父姑

忌二十日

服九十日

一母方

忌十日

服三十日

父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之

一兄弟姉妹

忌二十日

服九十日

別腹タリトイフトモ服忌無差別

一異父兄弟姉妹

忌十日

服三十日

一嫡孫

忌十日

服三十日

嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十日十二月ノ服忌可受之此外ノ親類服忌差別ナシ曾孫玄孫タリトイフモ同例也

- 一末孫 忌三日 服七日
- 一女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娘方ノ孫服忌同前
- 一曾孫玄孫共ニ服忌無之
- 一從父兄弟姊妹 忌三日 服七日
- 一父ノ姉妹ノ子並母方モ服忌同前
- 一甥姪 忌三日 服七日
- 一姉妹ノ子モ服忌同前
- 一異父兄弟姊妹ノ子ハ半減之服忌可受之
- 一七歳未滿ノ小兒ハ無服忌
- 一父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮日數過承候ハ、追テ不及遠慮但シ八歳ヨリ定式ノ服忌可受之
- 一附七歳未滿ノ小兒ノ方ヘモ忌服無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共聞付ル日ヨリ五十日遠慮ス可シ
- 一聞忌之事
 - 一遠國ニオイテ死去忌月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ聞付ル日ヨリ忌五十日服十三月外ノ親類ハ聞付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前
 - 一重ル服忌之事
 - 一父ノ服忌イマタ不明内母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十二月ノ服忌可受之オモキ服忌ノ内輕キ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アラハ殘ル忌服ノ日數可受之

追加

一養父死去以後養母同居セストイフトモ他ヘ不嫁候ヘハ服忌可受之他ヘ嫁スルニ於テハ服忌無之

- 一養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハ、嫡母ニ准シ其親類服忌無之
- 一父ノ後妻ト通路イタシ候ハ、對面無之トモ繼母ノ服忌可受之
- 一義絶ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絶トイフトモ服忌別儀ナシ
- 一女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入聲ヲ取家督相續ノ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之
- 一婚儀イマタ相調ハサル内ニテモ祝儀取カハシ候ヘハ夫婦相互ニ定式ノ忌ノ日數可遠慮但シ忌無之
- 一父ノ妾服忌無之
- 一妾ハ服忌無之
- 一但シ子出生ニオイテハ三日遠慮血荒流産有之計リニテハ妾死去ノ時遠慮無之
- 一遺跡相續セス或ハ分地配當セサル養子養方ノ兄弟姊妹他家ヘ養ハル、者ニハ相互ニ服忌無之
- 一同姓ニテモ異姓ニテモ一人ヘ兩様ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之
- 一名字ヲ授候計リニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ通服忌可受之
- 一離別ノ女ハタトヒ實子有之他ヘ不嫁候トモ夫婦ノ縁キレ候故相互ニ服忌無之
- 一子無之死去候者名跡相續ノタメ新規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歳未滿ニ候ハ、服忌無之五十日可遠慮死去候者ノ親類ハ相互ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姊妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之
- 一養子願書差出ノ老中請取ノ其以後死去候ハ、家督不定内ニテモ養父母計リ五十日十二月ノ服忌可受之
- 一半減ノ日數三十日ハ十月五日ナリ餘ハ准之

但シ七日ハ四日也三日ハ二日也
 一 一日ト有之ハ當夜ノ九ツ時ヨリ明ル夜ノ九ツ時マテナリ九ツ前ニ候ヘハタトヒ四ツ半過ニテ
 モ一日ノ積也
 右十六ヶ條元録六年追加ノ内也
 今般聊省略而書載之
 一 妾腹ノ子其父嫡母繼母ヲ以テ養母ニ定ムル時ハ忌五十日服十三月可受之母方ノ親類ノ服忌養
 實ノ差別家督相續ノ養子ノ如クタル可シ嫡母ノ子繼母ノ服忌ニ於テモ父ノ極メ次第右ニ同シ
 但シ繼母方ノ親類ニハ服忌無之
 一家督相續ノ養子タル者實方ノ養母嫡母繼服忌無之分地配當セサル養子ハ右ノ服忌可受之
 一 養方ノ伯叔父姑兄弟姊妹他家ヨリ養ハル、者ハ半減ノ服忌可受之實方ノ伯叔父姑兄弟姊妹他
 家ヨリ養ハル、者モ服忌無差別
 一 其身養子ニ參リ實方ノ伯叔父姑兄弟姊妹ノ内人ニ養ハル、トイフトモ其儘半減ノ服忌タル可シ
 一 父養子ニテ其子人ノ養子ニ參リ候時ハ父ノ父母兄弟姊妹養實トモニ半減ノ服忌可受之或ハ父
 モ養子其身モ養子ノ時ハ養父ノ實方服忌無之若シ實方ニ付テ半減ノ服忌可受續有之ハ服忌可
 受之
 一 半減ノ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟姊妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姊妹モ同例
 一 嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如クタル可シ
 右七ヶ條更増補之
 元文元年九月十五日
 ○太政官指令 明治八年一月七日
 伺之通リ

第十六章 官吏登用

第一款 文官試験及任用

○勅令第九十七號 二十六年十月三十日
 文官試験規則
 ○勅令第八十三號 二十六年十月三十日
 文官任用令

第二款 本縣普通試験

○大分縣報告試験第壹號 廿七年四月六日
 大分縣文官普通試験細別左ノ通相定ム
 但シ明治廿一年二月公告試験第壹號大分縣文官普通試験細別ハ廢止ス
 大分縣文官普通試験細別

第三款 軍人文官任用

○勅令第八十三號 廿年十二月廿八日
 陸軍下士文官採用規則

第四款 警部特別任用

(九二三)
 ○勅令第十號 二十三年二月四日
 巡查奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試験試補及見習規則第二條
 ノ規定ニ據ラヌ文官普通試験委員長ノ銓衡ヲ經テ警部警部補ニ任用スルコトヲ得
 但試験ヲ經スシテ任用シタル警部警部補ハ普通試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スル

コトヲ得ス

第五款 巡查採用諸規程

〇内務省訓令第二十一號

二十四年九月三日

巡查採用規則左之通り相定ム

巡查採用規則

- 第一條 巡查ハ必試驗ノ上採用スヘキモノトス但陸海軍現役滿期下士已上ノ者並巡查精勤證書ヲ有スル者ハ此限ニアラス
- 第二條 巡查志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ抵觸セサル者タルヘシ
 - 一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ本文ノ權衡ニ準ス
 - 二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
 - 三 巡查懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク巡查ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者
 - 四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身分限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
 - 五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者
- 第三條 巡查體格ノ検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
 - 一 體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者
 - 二 四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強直等ノ類ハ此限リニアラス
 - 三 胸腔機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機關

ノ機能減衰ノ者亦同シ

服裝又ハ運動ニ不便ナル者

贅生物畸形等容貌醜惡ナル者

二 身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者

三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者

四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五 言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者

六 精神完全ナル者即チ精神病及神經病(鬱癡癲狂癡狀及舞踏病癲癩等ノ病)ナキ者

第四條 巡查技藝ノ試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 刑法刑事訴訟法警察法規等ノ大要ニ通スル者

二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者

三 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者

四 算術加減乗除ヲ爲シ得ル者

五 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

第五條 巡查ノ試驗ハ廳府縣巡查教習所ニ於テ警部二名以上立合ノ上巡查教習所長之ヲ施行スヘシ

第六條 試驗ノ上巡查ニ採用スヘシト定リタル者ハ警視廳ニ於テハ巡查本部長、北海道廳及府縣

ニ於テハ警部長親ク左ノ諸件ヲ宣告シ誓書ヲ徵シタル上採用ス可シ

一 巡查タル者ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論

勤務ニ服セサルトキト雖モ猥ニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事

一 巡查タル者ハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ記慮シ之ニ對シ丁寧親切ヲ旨トシ而モ之ト相狎昵

スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事

一 巡查タル者ハ一端奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ五箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以テ辭スルカ如キコト決シテアルマシキ事

一 巡查タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄再ラ品行ヲ正シクシ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事

第七條 巡查タルヘキ者ヨリ呈セシムヘキ誓文ハ左ノ如シ但前條各官ノ面前ニ於テ本人ヲシテ白書捺印セシムヘシ

誓文

某儀

今般何(廳府縣)巡查志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ丁寧親切ニ職務ヲ執行シ且ツ總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上自般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職五ケ年ニ滿タスシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務ヲ御免相願候様ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損致シ候様ノ所業決シテマシク依テ誓文如件

明治 年 月 日

府縣國郡市町村番地身分

何 某實印

第八條 新ニ採用スル巡查ハ先ツ三級俸ヲ給スヘシ其陸軍現役滿期ノ下士及巡查精勤證書ヲ有スル者ニ係ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得但陸軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者ハ特ニ一級俸ヲ給スルコトヲ得

○告示第七號 廿四年十二月廿八日

本縣巡查採用細則別冊ノ進リ相定ム
但本法ニ牴觸スル從前ノ規則達ハ廢止ス
巡查採用細則

第一條 本縣巡查タラント欲スルモノハ左ノ資格ヲ備ヘ滿五年以上勳績差支ナキモノニ限ル但シ陸海軍現役滿期下士已上ノ者並巡查精勤證書ヲ有スル者ハ技藝検査ヲ要セサルモ他ハ本條ヲ適用ス

一 年齡廿一年以上四十年未滿ニシテ徵兵ニ相當セザルモノ

一 身幹五尺一寸以上ノ者

一 技藝検査例ニ適合スルモノ

一 体格検査例ニ適合スルモノ

第二條 前條合格ノ者ト雖モ左ノ各頂ニ抵觸スルモノ及素行修マラザルモノハ採用セズ

一 重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ輕罪重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シ

一 單ニ監視ニ附セラレタル者及ヒ輕罪輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサルモノ但シ

一 舊法ニ於リ施体ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ本文ノ例ニ同シ

一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

一 巡查懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ二年以上ヲ經過セサル者

一 身分不相應ノ負債有ル者又ハ家資分散タルノ宣告ヲ受ケ未ダ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限

一 リノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

一 酒癖又ハ暴行ノ癖アル者

第三條 巡查ヲ志願スルモノハ第一號書式ニ準シ其志願書ニ履歷書ヲ添ヘ本則第一條第一項第二條第一項第二項ニ牴觸セサルコトヲ證明シタル本籍又ハ寄留地長ノ奥書ノ以テ警察部ニ差出スベシ

第四條 試験ハ左ノ検査例ニ因ル但シ試験上不合格ノモノハ二ケ月ヲ經過セサレハ再願スルコトヲ得ス

ヲ得ス

技藝検査例

- 一 刑法刑事訴訟法警察法規等ノ大要ニ通スル者
- 二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者
- 三 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
- 四 算術加減乗除ヲ爲シ得ル者
- 五 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

體格検査例

- 一 體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者
- 二 四肢完具セサル者但シ執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強直等ノ類ハ此限リニアラス
- 三 胸腔機關及腹臟内器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但シ較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機關ノ機能減衰ノ者亦同シ
- 四 服裝又ハ運動ニ不便ナル者
- 五 贅生物畸形等容貌醜惡ナル者
- 六 胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者
- 七 三兩眼トモ視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
- 八 四聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者
- 九 五言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
- 十 六精神完全ナル者即チ精神病及神經病〔鬱癡癲狂癡癡及舞蹈病癲癲等ノ病〕ナキ者
- 十一 第五條 受験人ハ警察部ノ定メタル日時ニ出席セザルハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 十二 第六條 受験人ハ左ノ各項ヲ遵守スベシ犯スモノハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一 受験ノ際ハ舉措進退一ニ試験官ノ指揮ニ遵フベシ
 - 二 試験室内ニ在テハ靜肅ヲ旨トシ互ニ言語ヲ交エルコトヲ得ス
 - 三 試験問題ニ付試験官ニ質問スルコトヲ得ス

- 一 試験官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ試験時間中其席ヲ離ル、コトヲ得ス
- 二 試験中ハ受験者互ニ交話スルコトヲ許サス
- 三 一應答書ハ楷書若クハ行書ヲ以テ其主意ヲ明瞭ニ記載スヘシ
- 四 一筆墨ヲ除クノ外書類及用紙ヲ携帶シテ試験室内ニ入ルコトヲ得ス
- 五 一出席ノ時ハ洋服又ハ袴ヲ着用スベシ
- 第六條 試験ハ各科目通シテ毎科評點五點以上ノ者ヲ合格者トス
- 第七條 試験合格者ハ巡査教習生ト爲シ自費ヲ以テ二ヶ月間巡査教習所ニ於テ教習ヲ受クルモノトス
- 第八條 試験合格者ト雖モ教習中巡査タルヘキ見込ナキ者ハ退所セシムルコトアルヘシ
- 第九條 試験合格者ト雖モ教習中巡査タルヘキ見込ナキ者ハ退所セシムルコトアルヘシ
- 第十條 教習所卒業業者ハ待命ヲ命シ置キ巡査ノ欠員ヲ待チ採用スルモノトス
- 第十一條 巡査ニ採用スヘシト定リタル者ハ警部長ニ於テ必要ノ條件ヲ宣告シ誓書ヲ徴シタル上採用ス
- 第十二條 巡査ニ採用セラレタル者ハ本縣内居住ノ戸主ニシテ年齢二十五年以上ノ者ヲ定メ保證人トシ第二號書式ニ依リ保證書ヲ差出スモノトス
- 第十三條 第一號書式(用紙半紙) 巡査志願書

府縣國郡市町村番地身分

(戸主ニアラサレハ某何男又ハ何々)

何

某

何年何月生

右

右者當縣巡査奉職仕度ニ付御試験奉願候也

(六三三)

年 月 日 何 某 印
 大分縣知事某殿
 巡查採用細則第一條一項第二條一項二項ニ抵觸ノ廉無之候也
 何町長 何 某 印
 書式(用紙同上)
 履 歷 書
 府縣國郡市町村番地身分
 (戶主ニアラサレハ某何男又ハ何々)
 何 某
 何年何月生

一何年何月何日何府縣何々拜命 一何年何月何日何々ニ轉任
 一何年何月ヨリ何所ニ於テ何々修業(卒業) 一何年何月何日何々ニ被ル
 一何年何月何日何賞下賜 一何年何月何日何罰ヲ被ル
 一何年何月何日(依願)免職
 右相違無之候也
 府縣族籍 氏 名 印
 年 月 日
 第二號書式(用紙半紙)
 保證書
 何縣族籍 氏 名
 右者今般巡查御採用ニ付御規則等遵守セシムルハ勿論萬一本人不都合ノ義有之節ハ何事ニ因ラ
 ス一切引受可任依テ保證書如件

年月日 大分縣知事宛 右身元保證人何縣何國何郡何町番地士族
 何 某 印

○警保乙發第八號 二十年二月十四日
 巡查採用之節ハ天然痘濟若クハ種痘ヲ經タル者ニ限リ採用可相成ハ勿論之義トハ存候得共巡查ニ
 シテ往々天然痘ニ罹リタル者ノ救助料并療治料等支給方伺出ノ向モ有之右ハ採用之節檢定相成候
 ハ、斯ノ如キ不都合ハ無之筈ニ候間自今巡查採用ノ節ハ天然痘濟若クハ種痘ヲ經タル者ニアラサ
 レハ採用相成ラサル様致度其邊ハ豫テ御注意ノ事トハ存候得共爲念此段申進置候也
 ○訓第八六九號(內務大臣) 二十四年十月二日
 本年九月當省訓令第二十一號ヲ以テ巡查採用規則相定候處專ラ犯罪ノ探偵ノミニ從事セシムル巡
 查ハ試験ヲ要セス直ニ採用スルコトヲ得但シ本文ニ依リ採用シタル巡查ハ定規ノ試験ヲ經ルニ非
 サレハ他ノ職務ニ服セシムルコトヲ得ス

第十七章 憲兵
 第一款 憲兵條例

○勅令第四十三號 二十二年三月二十八日
 憲兵條例

(七三三)

總 則
 第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察司法警察ヲ掌ル其戰時
 若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ハ別ニ之ヲ定ム
 第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ル事ハ陸海軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ內務大臣ニ隸シ司
 法警察ニ係ル事ハ司法大臣ニ隸ス

第三條 憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監府縣知事東京府ヲ除ク及檢察官ノ指示ヲ受ク

第四條 憲兵ハ其職務ニ於テ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用フルコトヲ得ス

第一 暴行ヲ受クルトキ

第二 其占守スル所ノ土地又ハ委託セラレタル場合若クハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用フルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ其抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條 必要ノ場合ニ際シ内務大臣陸軍大臣合議シテ憲兵ヲ一時其管轄地外ニ分派スルコトヲ得

第七條 配置編制

第七條 憲兵ハ各府縣ニ配置ス其管轄地ハ府縣ノ管轄區域ニ依ル

第八條 東京ニ憲兵司令部ヲ署キ各府縣ニ憲兵隊ヲ置キ區分シテ各管區ニ憲兵分隊ヲ置キ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ置ク

第九條 各府縣ノ憲兵隊ハ其管轄地ヲ分畫シテ憲兵巡察區ヲ定メ巡察區ヲ合セテ數箇ノ憲兵管區トス

第十條 憲兵管區ハ内務大臣憲兵司令官ニ諮問シテ之ヲ定メ巡察區ハ警視總監府縣知事東京府憲兵隊長ニ協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如シ

憲兵司令官 憲兵大佐一名 副官 憲兵大中尉二名

軍吏 一二等軍吏一名 書記 憲兵下十五名

軍吏部下士 一二三等書記二名

第十二條 憲兵隊ノ編制左ノ如シ

本部 憲兵中少佐一名 副官 憲兵大中尉一名

軍吏 二三等軍吏一名 下副官 憲兵曹長一名

書記 憲兵下士三名 軍吏部下士 一二三等書記二名

分隊

分隊長 憲兵大中尉一名 書記 憲兵下士一名

伍長 憲兵下士若干名 憲兵上等兵 若干名

第十三條 憲兵上等兵五名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

時宜ニ依リ一伍若クハ數伍ヲ乘馬兵トナス

第十四條 憲兵隊ハ地名ヲ冠シテ某憲兵隊ト稱ス

職務

第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀風紀訓練教育職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵隊長ハ部下ヲ董督シ其勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ警視總監府縣知事東京府ヲ除ク及其地所在ノ檢事長上席檢事及憲兵司令官ニ申報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ管區ノ長トナリ管内ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ管區ノ事務ヲ處理ス又管内ノ事情ハ常ニ地方警察官ト相互牒報スヘシ

第二十一條 憲兵伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且區内ヲ巡視シ其事情ヲ審ニスヘシ

第二十二條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區ヲ畫シテ巡察シ其事情ヲ審ニスヘシ但特ニ上官又ハ檢察官ノ命アルトキハ自他ヲ區畫スルノ限ニアラズ

- 第二十三條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム
士官以下補充
- 第二十四條 憲兵士官下士ノ補充ハ陸軍武官進級條例ニ據ルノ外各兵科士官下士ノ内ヨリ選任ス
但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以上其職務ニ服シタル者ヨリ選任スルコトヲ得
- 第二十五條 憲兵上等兵ハ現役豫備役及後備軍籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ検査合格ノ者ヨリ
選用ス
- 第二十六條 憲兵下士上等兵ノ選任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム
服役
- 第二十七條 憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服スルモノトス
- 第二十八條 憲兵下士上等兵ハ服役滿期ノ後再服役ヲ請願スルコトヲ得再服役ハ三年ヲ以テ一期
トシ年齢定限ニ至ルマテハ數次請願スルコトヲ得
- 第二十九條 再服役ヲ請願スル者ハ現ニ所屬ノ部隊ニ於テスルモノトス其分隊ニ在テハ分隊長ト
誓約シ憲兵隊本部ニ在テハ憲兵隊長ト誓約シ憲兵司令官ト誓約ス但分隊長
憲兵隊長ニ在テハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ
- 第三十條 再服役中轉隊者クハ轉職セシムルコトアリト雖モ從前ノ誓約ハ新ニ屬スル所ノ部隊長
ニ移ルモノトス
- 第三十一條 服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若クハ事變ニ際シテハ期限ヲ延スコトアルヘシ
- 第三十二條 服役終ルノ後ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ後備役ニ編入
シ通シテ十二年間簡服役セシム其服役十二箇年ヲ過クル者ハ之ヲ免除ス
- 第三十三條 憲兵下士上等兵服役中ハ自己ノ情願ヲ以テ免除セス但左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ免
除ス
第一 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ

- 依リ現役ヲ免ス
 - 第二 現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス
 - 第三 現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス
 - 第三十四條 前條第一項第一條ニ當ル者ニ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ
憲兵科服役年月ヲ通算シ七箇年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二箇年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セ
シム其服役十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス
 - 第三十五條 憲兵下士上等兵其職務ヲ辱シムルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受クルトキハ懲罰令第十五條
ノ例ニ拘ラス官職ヲ免スルコトヲ得
 - 第三十六條 前條ニ依リ官職ヲ免シタル者及刑法又ハ懲罰令第十五條ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免
シタル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トナシ憲兵科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ其年數ニ
從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム其十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス
 - 第三十七條 第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ
現役又ハ兵役ヲ免ス
 - 第三十八條 憲兵ノ將校現役ヲ退キ豫備後備若クハ退役ニ入ルトキハ原兵科ニ復スルモノトス其
原兵科ナキモノハ歩兵科トス
- 附 則
- 第三十九條 此條例ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス
各府縣ニ配置スル憲兵隊ハ東京大阪二府ヲ除クノ外他ノ府縣ハ漸次之ヲ置キ其都度陸軍大臣之
ヲ告示スヘシ
 - 第四十條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ分隊長ノ職ニ充ルコトヲ得
 - 第四十一條 從前ノ憲兵卒ニシテ能ク其職務ニ適スル者ハ検査ノ例ニ依ラス憲兵上等兵ニ採用ス
ルコトヲ得

(二四三)

第二款 憲兵行政事務規程及司法警察事務取扱方

○内乙第五十二號 十四年十月廿五日 警視廳 府 縣(東京府ヲ除ク)
憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

○内無號 十四年十月廿二日 憲 兵 本 部
行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

(別紙)

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ兇害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

一 人民ノ妨害ヲ防護スルコト

二 健康ヲ看護スルコト

三 法章ノ遵奉ヲ視察スルコト

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スルコト

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察專務官吏其場ニ臨ミタルハ其處分ヲ專務官吏ニ讓ルヘシ

○布告第二十三號 十五年五月十三日

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

右奉勅旨布告候事

第十八章 會計

第一款 國庫金下渡額

○勅令第六十一號 廿一年八月六日

明治十四年(二月)第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方税中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ十分ノ四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治廿二年度ヨリ施行ス

第二款 會計法

○法律第四號 二十二年二月十一日

會計法

第三款 會計法補則

○法律第五十七號 二十三年八月二日

會計法補則

第四款 會計規則

○勅令第六十號 二十二年四月三十日

會計規則

第五款 諸收入收納取扱規程

○大藏省訓令第四十二號 二十六年十一月二十九日

明治二十二年大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序左ノ通り改正シ明治二十七年一月一日ヨ

(三四三)

リ施行ス

- 第一條 警視廳北海道廳及ヒ府縣ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシ此規程ニ依リ取扱フベシ
- 第二條 各廳長官ハ諸收入調定元帳ヲ備ヘ該收入ヲ調定シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以內ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ甲號又ハ乙號書式ノ納入告知書ヲ發スベシ但シ納人ヲシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス
- 第三條 各廳長官ハ島司郡長區長(札幌)役所長官立學校長典獄警察署長收稅部長收稅署長ニ委任シテ前條ノ事務及諸收入收納ノ監督ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第四條 各廳長官前條ノ委任ヲ爲シタルキハ其調定官ヲシテ諸收入調定元帳ニ據リ調定額報告書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ各廳長官ノ定ムルトコロノ期限ニ之ヲ各廳長官ニ送付セシムベシ
- 第五條 納入告知書ハ收入官吏ニ送付シ之ヲ納人ニ交付セシムベシ但シ第二條但書ノ場合ニ於テハ其納額ヲ收入官吏ニ通知スベシ
- 第六條 收入官吏ハ前條ノ送付又ハ通知ヲ受ケタルキハ收入簿調定濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納入ニ交付スベシ
- 第七條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムベシ
- 第八條 收入官吏ハ納金ヲ其納期限内ニ完納セサル者アルキハ直ニ督促ノ手續ヲ爲スベシ前項督促スルモ尙ホ完納セサルカ又ハ猶豫等ヲ申出テ之ヲ納付スルノ資力ヲシト認ムルモノアルキハ其身代ノ實況ヲ取調ヘ各廳長官ニ報告スベシ
- 第九條 但シ委任ヲ受ケタル調定官ノ調定ニ係ルモノハ其調定官ヲ經由スルコトヲ要ス
- 第十條 各廳長官ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スベシ
- 第十一條 收入官吏ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルキハ納入告知書及收入簿ニ照シテ之ヲ領收シ其收入官吏ニ於テ第七條ノ納付ヲ受ケタルキハ納入告知書及收入簿ニ照シテ之ヲ領收シ其

- 領收證ヲ納人ニ交付スベシ收入官吏ニ於テ第二條但書ノ納金ヲ收入スルキハ收入簿ニ照シテ之ヲ領收シ明治二十六年大藏省令第三十二號第二號書式ノ領收證ヲ納人ニ交付スベシ
- 第十一條 收入官吏ニ於テ前條納金ヲ領收シタルキハ收入簿收入濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記シ出納官吏現金取扱規則第十五條乃至第十七條ニ依リ之ヲ金庫ニ拂込ムベシ但シ監守證ヲ以テ拂込ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ拂込書ヲ要セス監守證ノ番號金額ヲ記載シタル送付書ヲ添ヘテ之ヲ金庫ニ送付スベシ
- 第十二條 收入官吏ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルキハ之ヲ調査シ收入簿收入濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記スベシ監督官ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルキハ諸收入調定元帳ニ照シテ之ヲ調査スベシ
- 第十三條 分任收入官吏ハ收入簿ニ依リ明治二十六年大藏省令第三十二號第四號書式ニ準シ收入報告書ヲ調製シ歲入金突合表其他參照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ其地ヲ差立調定官ヲ經テ之ヲ主任收入官吏ニ送付スベシ
- 第十四條 主任收入官吏ハ分任收入官吏ノ收入報告書ヲ受ケタルキハ參照書類ト照查シテ之ヲ收入簿ニ登記シ該金額及自己ノ取扱ニ係ル分ヲ併セ收入報告書ヲ調製シ歲入金月計對照表ヲ添ヘ各廳長官ヲ經テ翌月十五日マテニ其地ヲ差立大藏省ニ送付スベシ
- 第十五條 會計規則第九十五條又ハ第九十七條ニ依リ收入官吏ヨリ計算書ヲ大藏省ニ提出セントスルキハ各廳長官ニ於テ收入計算書ハ收入官吏ノ收入簿現金出納計算書ハ收入官吏ノ現金出納簿ト對照調査シ其符合及拂込未濟現存額ヲ認メタル保證書ヲ製シ之ヲ計算書ニ添付スベシ
- 第十六條 各廳長官ハ諸收入調定元帳又ハ第四條ノ報告書ニ據リ歲入調定額計算書ヲ調製シ會計規則第五十二條ニ依リ之ヲ大藏省ニ送付スベシ
- 第十七條 諸收入調定元帳及調定額報告書其他調定官ニ於テ事務整理上必要ナル帳簿ハ適宜ノ指揮ニ依リ之ヲ調製スベシ

「甲號書式」

備考

領收證書及ヒ通知書用紙ノ納入金額納入年度種類等ハ總テ納入告知書發行廳ニ於テ記入スルモノトス

用紙適宜縦四寸五分
横三寸三分ノモノ二枚縦四寸五分
横二寸五分ノモノ一枚接續

(「内及備考並ニ印章ハ何レモ朱」)

納 入 告 知 書

| | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|---|
| 第「何」號「某」年 度「何」郡市「何」町村「何」某納 | 「經常(臨時)」「何」々「(款)」「何」々「(項)」「何」々「(目)」 | 大藏省主管「取 扱 廳 名」 主任收入官吏官氏名扱 又ハ主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名扱 |
| (元帳 割印) | | |
| 一金「何程」 | | |
| 「但何々(收入ノ目的ヲ記載ス)」 | | |
| 右「何」年「何」月「何」日限リ「何」々金庫へ納付スベシ | | |
| 明治「何」年「何」月「何」日 | | |
| 納入告知書發行者官氏名(印) | | |

金庫 割印

領 收 證 書

| | |
|----------------------------|--|
| 第「何」號「某」年 度「何」郡市「何」町村「何」某納 | 「取 扱 廳 名」 主任收入官吏官氏名扱 又ハ主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名扱 |
| (金庫 取扱主任之印) | |
| 一金「何程」 | |
| 「但何々」 | |
| 右 領 收 候 也 | |
| 明治「何」年「何」月「何」日 | |
| 「何地」金庫(印) | |

金庫 割印

通 知 書

| | | |
|----------------------------|-------------------------------------|-----------------|
| 第「何」號「某」年 度「何」郡市「何」町村「何」某納 | 「經常(臨時)」「何」々「(款)」「何」々「(項)」「何」々「(目)」 | 大藏省主管 (取扱廳名) |
| (金庫 取扱主任之印) | | |
| 一金「何程」 | | |
| 右領收濟ニ付通知候也 | | |
| 明治「何」年「何」月「何」日 | | |
| 「何地」金庫(印) | | |

主任收入官吏官氏名宛

(八四三)

「乙號書式」

備考

領收證書用紙、納入金額納入年度種類等ハ總テ納入告知書發行廳ニ於テ記入スルモノトス
用紙適宜寸法甲號書式ニ同シ

納入告知書

| | |
|---|--|
| 第「何」號「某」年「何」郡市「何」町村「何」某納 | 「經常臨時」「何々(款)」「何々(項)」「何々(目)」 大藏省主管 取扱廳名 |
| 一金「何程」 | 元帳 割印 |
| 右「何」年「何」月「何」日限リ收入官吏官「何」氏名「何」納付スベシ 明治「何」年「何」月「何」日 納入告知書發行者官「何」氏名「何」印 | 「但何々」收入ノ目的ヲ記載ス 收入官 吏之印 |

領收證書

| | |
|--|----------------------|
| 第「何」號「某」年「何」郡市「何」町村「何」某納 | 一金「何程」 收入官 吏之印 |
| 右「但何々」領收候也 明治「何」年「何」月「何」日 「何」廳主任收入官吏官「何」氏名「何」印 「又ハ主任收入官吏官「何」氏名所屬」 分任收入官吏官「何」氏名「何」印 | |

○本訓令會調第三九七號 二十三年三月一日

明治二十三年度以降本縣所管ニ係ル租稅外諸收入ノ取扱方左ノ通相定ム

一警察署長ハ人民拾得金並警察官吏拾得金ノ内官沒ニ屬スル分ノ調定ヲナシ其調定書ヲ收入官吏ニ交付シ現金ヲ收入セシムベシ

一收稅部出張所長ハ出張所ノ取扱ニ係ル諸收入ヲ調定シ左ノ各項ニ依リ處分スベシ

一納入告知書ヲ發シ納入ヲシテ現金ヲ金庫ニ納入セシムル分ハ登記印紙料、訴訟用印紙料トス

一現金ヲ直ニ收入官吏ニ領收セシムル分ハ納入告知書ヲ發セスシテ調定書ヲ該官吏ニ交付スベシ

一各納入ヨリ納付書ニ現金ヲ添ヘ金庫ヘ納付セシムル場合ハ調定書ヲ收入官吏ヘ送付シ收入官吏ハ之ヲ納入ヘ交付スベシ

但滯納處分費中督促令狀手数料ノミヲ納付セシムル場合ハ調定書ヲ納入ヘ交付スルニ及ハス

一警察署長收稅部出張所長ハ本條附屬書式ノ調定濟報告書ヲ製シ二十二年「十一」大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序第五條ノ期限ニ當廳ヘ差出スベシ

一警察署在勤次席ノ警部若クハ警部補收稅部出張所在勤次席ノ收稅屬ヲ以テ收入官吏トス

○本訓令會調第五四三號 二十三年三月十八日 警察署 收稅部出張所

明治廿三年度以降司法省所管ニ係ル租稅外諸收入ノ義本年「三」訓令會調第三九七號第一項第三項第四項及同日訓令會調第三九八號ヲ適用取扱フベシ

但現金出納簿ヲ除ク外ノ諸帳簿及報告書其他ノ書類ハ總テ本縣所管ノ分ト種別調製スベシ

第六款 保管金品

○法律第一號

二十三年一月四日

(九四三)

保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

〇大藏省令第二十號 二十六年九月二十日

明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

保管物取扱規程

第一條 明治二十三年勅令第二號明治二十六年勅令第七十號ニ依ル金錢有價證券ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 現金又ハ有價證券ハ權利者ヨリ寄托スルモノト官廳ヨリ寄托スルモノトハ二種ニ分チ之ヲ取扱フヘシ

第三條 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄托セシムルトキハ第一號書式ノ寄托通知書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第四條 權利者ハ現金又ハ有價證券ニ前條ノ寄托通知書ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ

第五條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第六條 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄托スルトキハ第三號書式ノ送付書ヲ製シ之ヲ現金又ハ有價證券ニ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ

第七條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ領收證書ヲ製シ之ヲ寄托官廳ヘ交付スヘシ

第八條 官廳ニ於テ數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取繼メ寄托スルトキハ其送付書ニ第五號書式ノ仕譯書ヲ添付スヘシ

但權利者不分明ナル者ハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書ニ記入スヘシ

第九條 取扱官廳ハ本規程ニ依リ現金又ハ有價證券等受渡ノ證明ニ供スル爲メ豫メ其廳及取扱主任官ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スヘシ廳印ノ更改主任官ノ改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テモ亦同シ

有價證券ニ屬スル利札交付ノトキ其受渡ヲ證明スル爲メ權利者ハ有價證券寄托ノ際印鑑ヲ金庫ヘ差出シ置クヘシ

第十條 權利者ニ於テ其寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲ爲シタル保管證書ヲ得テ金庫ヘ差出シ之カ拂戻ヲ請求スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書アル保管證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十二條 權利者ニ於テ官廳ヨリ寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シ其取扱官廳ニ請求スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ金庫ニ宛タル第六號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ權利者ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルキハ之ヲ金庫ヘ差出シ現金又ハ證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ハ前條ノ拂渡證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂渡ヲ請求スル者アルトキハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十四條 政府ノ所有ニ歸シタル保管金ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一 保管證書ヲ發シタルモノハ取扱官廳ニ於テ該證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ歲入トシテ金庫ヘ納付セシムヘシ

一 保管證書ヲ發セサルモノハ大藏大臣ノ令達ニ依リ金庫ニ於テ歲入ヘ編入スヘシ

第十五條 取扱官廳ニ於テ保管金ノ幾分ヲ歲入ト爲シ又ハ幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ金庫ニ請求スヘシ

第十六條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ新ニ保管證書ヲ製シ舊保管證書ト交換スヘシ

第十七條 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之カ計算ヲ爲スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子ノ拂渡ヲ請求スルトキハ第七號書式ノ請求書ヲ取扱金庫ヘ差出スヘシ

金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十八條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第八號書式ノ通知書ヲ製シ取扱官廳ヲ經テ權利者ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ其寄託シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交付ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ製シ之ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

第二十條 保管證書又ハ領收證書ヲ亡失シタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ保管ノ證明方ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ニ於テハ第十一號書式ノ證明書ヲ製シ之ヲ官廳又ハ權利者ヘ交付スヘシ

保管證書又ハ領收證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ認メ難キニ至リタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ之カ引換ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ハ更ニ保管證書又ハ領收證書ヲ製シ舊證書ト交換スヘシ

第廿一條 官廳ニ於テ金庫ニ寄託シタル保管金ニシテ權利移轉又ハ其他ノ事故ノ爲メ其送付書ニ

記載シタル期滿失効ノ年月日(本文明滿失効ノ年月日トハ各據ルヘキ)ニ變更ヲ生スル時ハ即日其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ前項保管金ニシテ權利者自ラ其權利ヲ拋棄シ又ハ其他ノ事故ノ爲メ保管ノ必要ナク歲入ヘ編入スヘキ者ハ其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ

附則

第廿二條 前條保管金ニシテ本令發布以前既ニ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日ニ變更ヲ生シタル者ハ明治廿七年二月廿八日迄當該官廳ヨリ其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ

第廿三條 金庫ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタル時ハ直ニ調査シ全ク期滿失効トナリタル者ハ計算書ヲ作り明治廿七年三月三十一日迄ニ當該官廳ニ送付シ其證明ヲ受ケ之ヲ整理スヘシ

○勅令第二號 廿三年一月四日

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有

金私有金ハ總テ大藏省預金局ニ寄託スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニヨルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

○警第二七號(警保局長通知) 二十三年四月廿三日

客年六月本省訓令第四九六號ヲ以テ地方稅警察費及請願巡查費其他爲換方等ヘ預入方訓令相成居

候處本年勅令第二號ヲ以テ保管金寄託公布セラレ候ニ付テハ向後請願巡查費及囚徒所持金遺失金

賊拾置金ノ義ハ右勅令ニ依リ大藏省預金局ヘ預入ルヘキ筈ニ有之候條此段爲念及御通知候也

○第五一號(警保局長通知) 廿三年十二月二日

保管金ノ件ニ付別紙和歌山伺ニ對シ指令相成候間爲御心得此段及通知候也

(別紙) 甲第二一二號 廿三年五月十五日

保管金ノ義ニ付伺

保管金寄託方ノ義ハ本年(一月)勅令第二號ニ依ルハ勿論ニ候處賊拾置金ノ如キ後日證據ト爲スヘ

キモノハ預金局へ寄託ヲ爲サス各警察署ニ於テ保管致度此段相伺候也
(指令) 二十三年十一月廿八日

本年五月十五日二甲第二一二號伺保管金ノ件ハ物品會計官吏ニ於テ保管スヘキ義ト心得ヘシ
○保收第三八三四號 二十七年九月二十一日

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依リ拂渡證書ニ記入スヘキ期滿失効年月日及其他ノ件取扱方ニ付大藏大臣ヨリ左ノ通達有之候條右ニ依リ取扱ハルヘシ

一保管物取扱規程第十二條ニ依リ發行スル拂渡證書ニ記入スヘキ期滿失効ノ年月日ハ書式ニ
(領收證書ニ記載アル期滿失効ノ年月日)ト有之候處右ニ係ル現金仕拂ハ其期間内ノモノナ
ルニ付變更ノモノハ其變更シタル期滿失効ノ年月日ヲ拂渡證書ニ記載スヘキモノトス

一保管物取扱規程第十四條ニ依リ保管證書ヲ發セサル保管金ニシテ歳入へ編入スヘキモノハ金
庫ニ於テ之レカ計算書ヲ製シ其取扱官廳へ送付スヘキニ付取扱官廳ニ於テハ調査ノ上相違ナ
キヲ證明シ金庫へ返付スヘキモノトス

一保管物取扱規程第七條ニ依リ金庫ニ於テ保管シタル現金又ハ有價證券ノ取扱ヲナス甲
廳ノ廢合ニヨリ乙廳ノ取扱ニ移サレタルトキハ乙廳ヨリ其旨ヲ當該金庫へ通知スヘキモノト
ス

一保管物取扱規程第三條ニ依リ甲廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ金庫へ寄託セシメタル後之レヲ
乙廳ノ取扱ニ變更シタルトキハ甲廳ヨリ取扱廳變更方ヲ金庫ニ請求スヘキモノトス

一保管物取扱規程第十七條ニ依リ權利者ヨリ差出スヘキ利子請求書ノ書式冒頭ニ(何廳取扱ト
シテ寄託致置候云々)ト有之候處右取扱廳ヲ廢合シ又ハ變更シタルトキハ現ニ其取扱ヲナス所
ノ廳名ヲ記入スヘキモノトス

○保收第三八三四號 廿七年九月廿一日

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依リ拂渡證書ニ記入スヘキ期滿失効年月日及

其他ノ件取扱方ニ付大藏大臣ヨリ左ノ通達有之候條右ニ依リ取扱ハルヘシ
第一二八六號(大藏大臣) 廿七年六月十八日

明治廿六年大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依リ拂渡證書ニ記入スヘキ期滿失効年月日及其他
ノ件々取扱方左ノ通り相伺候間右ニ依リ取扱フヘシ

一保管物取扱規程第十二條ニ依リ發行スル拂渡證書ニ記入スヘキ期滿失効ノ年月日ハ書式ニ(領
收證書ニ記載アル期滿失効ノ年月日)ト有之候處右ニ係ル現金仕拂ハ其期間内ノモノナルニ付
變更ノモノハ其變更シタル期滿失効ノ年月日ヲ拂渡證書ニ記載スヘキモノトス

一保管物取扱規程第十四條ニ依リ保管證書ヲ發セサル保管金ニシテ歳入へ編入スヘキモノハ金庫
ニ於テ之ガ計算書ヲ製シ其取扱官廳へ送付スヘキニ付取扱官廳ニ於テハ調査ノ上相違ナキヲ證
明シ金庫へ返付スヘキモノトス

一保管物取扱規程第七條ニ依リ金庫ニ於テ保管シタル現金又ハ有價證券ノ取扱ヲナス甲廳
ノ廢合ニヨリ乙廳ノ取扱ニ移サレタルトキハ乙廳ヨリ其旨ヲ當該金庫へ通知スヘキモノトス

一保管物取扱規程第三條ニ依リ甲廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ金庫へ寄託セシメタル後之レヲ乙
廳ノ取扱ニ變更シタルトキハ甲廳ヨリ取扱廳變更方ヲ金庫ニ請求スヘキモノトス

一保管物取扱規程第十七條ニ依リ權利者ヨリ差出スヘキ利子請求書ノ書式冒頭ニ(何廳取扱トシ
テ寄託致置候云々)ト有之候處右取扱廳ヲ廢合シ又ハ變更シタルトキハ現ニ其取扱ヲナス所ノ廳
名ヲ記入スヘキモノトス

内四國第二七七號 明治廿七年十月廿二日(内務部長ヨリ各署長宛通牒)
漂流物公賣代金ノ義ハ從前保管物取扱規程ニ依リ取扱ヒ來リ候處右ノ内一ケ年ヲ過キ公賣セシ
者ニシテ官ニ收ムル部分ハ政府ニ於テ保管ノ義務ナキモノニ付公賣直チニ歳入へ納付スヘキ旨
今般大藏省主計局長ヨリ通牒有之候條該官收金ハ歳入經常部雜收入ノ款懲罰金及沒收金ノ項沒
收金ノ目ニ編入整理シ爾後漂流物取扱規則第三十一條第三十二條各第二項但書ニ據リ下渡ヲ要